

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2023年9月12日提出
【発行者名】	三井住友D S アセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 猿田 隆
【本店の所在の場所】	東京都港区虎ノ門一丁目17番1号
【事務連絡者氏名】	土屋 裕子
【電話番号】	03-6205-1649
【届出の対象とした募集（売出）内国投資 信託受益証券に係るファンドの名称】	三井住友・DCバランスファンド（安定型） 三井住友・DCバランスファンド（安定成長型） 三井住友・DCバランスファンド（成長型）
【届出の対象とした募集（売出）内国投資 信託受益証券の金額】	三井住友・DCバランスファンド（安定型） 2兆5,000億円を上限とします。 三井住友・DCバランスファンド（安定成長型） 2兆5,000億円を上限とします。 三井住友・DCバランスファンド（成長型） 2兆5,000億円を上限とします。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【証券情報】

(1)【ファンドの名称】

三井住友・DCバランスファンド（安定型）

三井住友・DCバランスファンド（安定成長型）

三井住友・DCバランスファンド（成長型）

以下、上記3ファンドを総称して「当ファンド」ということがあり、それぞれを「各ファンド」ということがあります。

また、「三井住友・DCバランスファンド（安定型）」を「（安定型）」、「三井住友・DCバランスファンド（安定成長型）」を「（安定成長型）」、「三井住友・DCバランスファンド（成長型）」を「（成長型）」という略称でいうことがあります。

(2)【内国投資信託受益証券の形態等】

追加型証券投資信託の受益権です。

* ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社振法」といいます。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後述の「（11）振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。委託会社である三井住友D Sアセットマネジメント株式会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

当初元本は1口当たり1円です。委託会社の依頼により、信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付または信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

(3)【発行（売出）価額の総額】

各ファンド2兆5,000億円を上限とします。

(4)【発行（売出）価格】

取得申込受付日の翌営業日の基準価額となります。

ただし、累積投資契約に基づく収益分配金の再投資の場合は、各計算期末の基準価額となります。

「基準価額」とは、信託財産の純資産総額を計算日における受益権口数で除した価額をいいます（基準価額は、便宜上1万口単位で表示される場合があります。）。

基準価額は、組入有価証券の値動き等により日々変動します。

基準価額は、販売会社または委託会社にお問い合わせいただけるほか、原則として翌日付の日本経済新聞朝刊の証券欄「オープン基準価格」の紙面に、それぞれ「DC安定」、「DC安成」、「DC成長」として掲載されます。

委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	コールセンター	ホームページ
三井住友D Sアセットマネジメント株式会社	0120-88-2976	https://www.smd-am.co.jp

お問い合わせは、午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）までとさせていただきます。

(5) 【申込手数料】

ありません。

(6) 【申込単位】

お申込単位の詳細は、お申込みの販売会社にお問い合わせください。

(7) 【申込期間】

2023年9月13日から2024年3月12日まで

申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。

(8) 【申込取扱場所】

販売会社において申込みを取り扱います。

販売会社によっては一部のファンドのみの取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

販売会社の詳細につきましては、前記「(4) 発行(売出) 価格」に記載の委託会社にお問い合わせください。

(9) 【払込期日】

取得申込者は、申込金額(取得申込受付日の翌営業日の基準価額×申込口数)を、販売会社の指定の期日までに、指定の方法でお支払いください。

各取得申込みにかかる発行価額の総額は、追加信託が行われる日に、委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

(10) 【払込取扱場所】

販売会社において払込みを取り扱います。(販売会社は前記「(4) 発行(売出) 価格」に記載の委託会社にお問い合わせください。)

(11) 【振替機関に関する事項】

当ファンドの振替機関は下記の通りです。

株式会社証券保管振替機構

(12) 【その他】

イ 申込証拠金
ありません。

ロ 日本以外の地域における募集
ありません。

ハ スイッチング

販売会社によっては、「スイッチング」(ある投資信託の換金による手取額をもって、他の投資信託を買い付けること)による当ファンドの取得申込みを取り扱う場合があります。

ニ クーリング・オフ制度(金融商品取引法第37条の6)の適用

ありません。

ホ 振替受益権について

ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、ファンドの振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則に従って取り扱われるものとし、ファンドの分配金、償還金、換金代金は、社振法および当該振替機関の業務規程その他の規則に従って支払われます。

(参考：投資信託振替制度)

- ・ファンドの受益権の発生、消滅、移転をコンピュータシステムにて管理するもので、ファンドの設定、解約、償還等がコンピュータシステム上の帳簿(「振替口座簿」といいます。)への記載・記録によって行われます。
- ・受益証券は発行されませんので、盗難や紛失のリスクが削減されます(原則として受益証券を保有することはできません。)
- ・ファンドの設定、解約等における決済リスクが削減されます。
- ・振替口座簿に記録されますので、受益権の所在が明確になります。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

（1）【ファンドの目的及び基本的性格】

- イ 当ファンドは、「国内株式マザーファンド（A号）」、「国内債券マザーファンド（B号）」、「外国株式マザーファンド（A号）」、「外国債券マザーファンド（A号）」（以下「マザーファンド」といいます。）への投資を通じて、実質的に、日本を含む世界各国の株式、公社債へ分散投資することにより、収益機会の拡大とリスクの低減効果を狙い、中長期的に信託財産の着実な成長を目指した運用を行います（このほか、各ファンドが内外の株式・公社債へ直接投資、または預金等の金融商品による運用を行うことも約款上認められています。）。
- ロ 各ファンドの運用にあたっては、株式、債券、現預金を各ファンド毎の基本資産配分の比率で加重平均した複合ベンチマークを、中長期的に上回る運用成果を目指します。詳細については、後述の「2 投資方針」をご参照ください。
- ハ 委託会社は、受託会社と合意の上、各ファンドとも金5,000億円を限度として信託金を追加することができます。この限度額は、委託会社、受託会社の合意により変更できます。
- ニ 当ファンドが該当する商品分類、属性区分は次の通りです。

（イ）当ファンドが該当する商品分類

項目	該当する商品分類	内容
単位型・追加型	追加型投信	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
投資対象地域	内外	目論見書または信託約款において、国内および海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資対象資産 （収益の源泉）	資産複合	目論見書または信託約款において、株式、債券、不動産投信、その他資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。

（ロ）当ファンドが該当する属性区分

項目	該当する属性区分	内容
投資対象資産	その他資産（投資信託証券（資産複合（株式、債券）資産配分変更型））	目論見書または信託約款において、主として投資信託証券に投資する旨の記載があるものをいいます。「投資信託証券」以下のカッコ内は投資信託証券の先の実質投資対象について記載していません。なお、組み入れる資産そのものは投資信託証券ですが、投資信託証券の先の実質投資対象は株式および債券であり、ファンドの収益は株式市場、債券市場の動向に左右されるものであるため、商品分類上の投資対象資産（収益の源泉）は「資産複合」となります。
決算頻度	年1回	目論見書または信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいいます。
投資対象地域	グローバル （日本を含む）	目論見書または信託約款において、組入資産による投資収益が日本を含む世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

投資形態	ファミリーファンド	目論見書または信託約款において、親投資信託(ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。)を投資対象として投資するものをいいます。
為替ヘッジ	為替ヘッジあり(適時ヘッジ)	目論見書または信託約款において、適時対円で為替ヘッジを行う旨の記載があるものをいいます。

商品分類表

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産(収益の源泉)
単位型	国内	株式
		債券
	海外	不動産投信
追加型		その他資産()
	内外	資産複合

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式	年1回	グローバル		
一般		(日本を含む)		
大型株	年2回	日本		
中小型株	年4回	北米		
債券	年6回(隔月)	欧州	ファミリーファンド	あり(適時ヘッジ)
一般		アジア		
公債	年12回(毎月)	アジア		
社債		オセアニア		
その他債券	日々	オセアニア		
クレジット属性()	その他	中南米		
不動産投信	()	中南米	ファンド・オブ・ファンズ	なし
		アフリカ		
その他資産(投資信託証券(資産複合(株式、債券)資産配分変更型))		中近東(中東)		
資産複合()		エマージング		
資産配分固定型				
資産配分変更型				

（注）当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

属性区分の「為替ヘッジ」は、対円での為替変動リスクに対するヘッジの有無を記載しています。商品分類、属性区分は、一般社団法人投資信託協会「商品分類に関する指針」に基づき記載していません。商品分類、属性区分の全体的な定義等は一般社団法人投資信託協会のホームページ（<https://www.toushin.or.jp/>）をご覧ください。

（２）【ファンドの沿革】

2001年10月4日	信託契約締結、設定、運用開始。
2002年12月1日	各ファンドの名称を「MLG・DCバランス（安定型）」、「MLG・DCバランス（安定成長型）」、「MLG・DCバランス（成長型）」から「三井住友・DCバランスファンド（安定型）」、「三井住友・DCバランスファンド（安定成長型）」、「三井住友・DCバランスファンド（成長型）」に名称を変更。
2014年11月28日	投資対象マザーファンドについて、「国内債券マザーファンド（A号）」から「国内債券マザーファンド（B号）」に変更。

（３）【ファンドの仕組み】

イ 当ファンドの関係法人とその役割

（イ）委託会社 「三井住友D Sアセットマネジメント株式会社」

証券投資信託契約に基づき、信託財産の運用指図、投資信託説明書（目論見書）および運用報告書の作成等を行います。

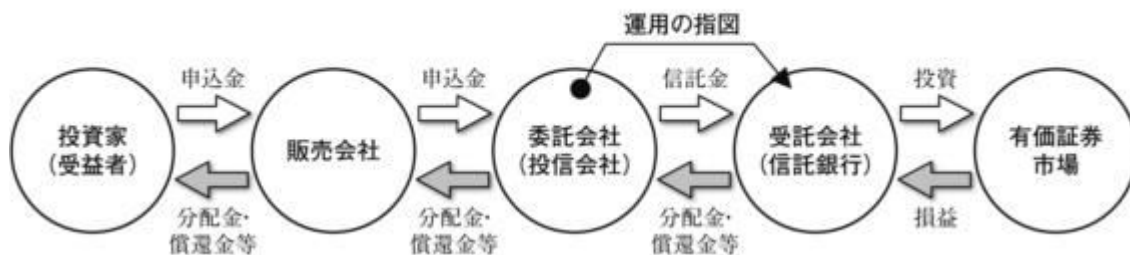
（ロ）受託会社 「三井住友信託銀行株式会社」

証券投資信託契約に基づき、信託財産の保管・管理・計算等を行います。なお、信託事務の一部につき、株式会社日本カストディ銀行に委託することがあります。また、外国における資産の保管は、その業務を行うに十分な能力を有すると認められる外国の金融機関が行う場合があります。

（ハ）販売会社

委託会社との間で締結される販売契約（名称の如何を問いません。）に基づき、当ファンドの募集・販売の取扱い、投資信託説明書（目論見書）の提供、受益者からの一部解約実行請求の受付け、受益者への収益分配金、一部解約金および償還金の支払事務等を行います。

運営の仕組み



ロ 委託会社の概況

（イ）資本金の額

20億円（2023年6月30日現在）

（ロ）会社の沿革

1985年7月15日	三生投資顧問株式会社設立
1987年2月20日	証券投資顧問業の登録
1987年6月10日	投資一任契約にかかる業務の認可
1999年1月1日	三井生命保険相互会社の特別勘定運用部門と統合
1999年2月5日	三生投資顧問株式会社から三井生命グローバルアセットマネジメント株式会社へ商号変更
2000年1月27日	証券投資信託委託業の認可取得
2002年12月1日	住友ライフ・インベストメント株式会社、スミセイ グローバル投信株式会社、三井住友海上アセットマネジメント株式会社およびさくら投信投資顧問株式会社と合併し、三井住友アセットマネジメント株式会社に商号変更
2013年4月1日	トヨタアセットマネジメント株式会社と合併
2019年4月1日	大和住銀投信投資顧問株式会社と合併し、三井住友D Sアセットマネジメント株式会社に商号変更

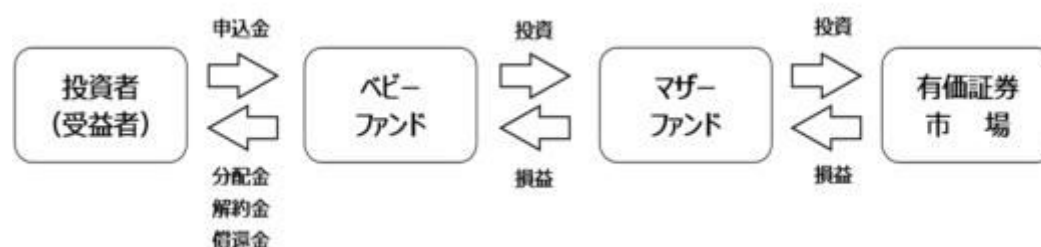
(八) 大株主の状況

(2023年6月30日現在)

名称	住所	所有株式数 (株)	比率 (%)
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	16,977,897	50.1
株式会社大和証券グループ本社	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号	7,946,406	23.5
三井住友海上火災保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台三丁目9番地	5,080,509	15.0
住友生命保険相互会社	大阪府大阪市中央区城見一丁目4番35号	3,528,000	10.4
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	337,248	1.0

八 ファンドの運用形態（ファミリーファンド方式による運用）

「ファミリーファンド方式」とは、複数のファンドを合同運用する仕組みで、受益者の資金をまとめて「ベビーファンド」とし、「ベビーファンド」の資金の全部または一部を「マザーファンド」に投資することにより、実質的な運用は「マザーファンド」において行う仕組みです。



2 【投資方針】

(1) 【投資方針】

イ 基本方針

内外の株式・公社債に投資する4つのマザーファンドの組入れを通じて、日本を含む世界各国の株式、公社債へ分散投資することにより、収益機会の拡大とリスクの低減効果を狙い、中長期的

に信託財産の着実な成長を目指した運用を行います。

□ 投資態度

(イ) 各ファンドにつき、株式、債券、現預金の基本的な資産配分とその上限と下限を定め、その範囲内で変更を行います。

	（安定型）			（安定成長型）			（成長型）		
	下限	基本	上限	下限	基本	上限	下限	基本	上限
株 式	10%	25%	40%	25%	45%	65%	50%	65%	80%
債 券	50%	70%	85%	30%	50%	70%	15%	30%	45%
現 預 金	0%	5%	20%	0%	5%	15%	0%	5%	15%

なお、基本資産配分と組入比率の上限と下限については、マクロ経済環境・金融市場動向を想定して設定するため5年程度に一度見直します。

(ロ) 当ファンドの運用は、株式...TOPIX（東証株価指数、配当込み）、債券...ノムラ・ボンド・パフォーマンス・インデックス総合（「NOMURA-BPI（総合）」）、現預金...無担保コール翌日物を個別資産のベンチマークとし、それらを基本資産配分の比率で加重平均した複合ベンチマークに対し、資産配分の変更と個別資産毎の運用の両面で超過収益の獲得を目指し、複合ベンチマークを中長期的に上回る運用成果を目標とします。

(ハ) 当ファンドの実質組入外貨建資産については、為替変動リスクが生じますが、外貨エクスポージャーをコントロールすることにより、ファンド全体の為替変動リスクを管理します。また、対円での為替ヘッジに限定せずに、全体的な投資収益を上昇させるため、割高な通貨を売り、割安な通貨を買うことに相当する為替取引を行うことがあります。

外貨エクスポージャーとは、実質組入外貨建資産のうち対円での為替ヘッジが行われていない部分のファンド全体に対する比率のことで、0%を下限とし外貨建資産の実質組入比率を上限とします。

(ニ) 運用にあたっては、まずマクロ経済環境分析、各資産市場評価を行い、総合的な検討を行った上で、各資産の配分、市場配分、通貨配分、業種配分の決定を行います。さらに各ファンドマネージャーが個別銘柄の選定を行います（トップダウンアプローチ）。

(ホ) 資金動向、市場動向によっては、上記のような運用ができない場合やファンドの目的が達成されない場合があります。

ファンドの特色

1

日本を含む世界各国の株式、債券に分散投資を行い、リスクを軽減しつつ、中長期的に信託財産の着実な成長を目指します。

■ 実際の運用は、内外の株式、債券に投資する4つのマザーファンドへの投資を通じて行います。

2

各ファンドにつき、株式、債券、現預金の基本的な資産配分と、その上限・下限を定め、その範囲内で変更を行います。

〔各ファンドの基本資産配分〕

三井住友・DCバランスファンド		株式(内外)	債券(内外)	現預金
(安定型)	基本資産配分	25%	70%	5%
	変動幅	10~40%	50~85%	0~20%
(安定成長型)	基本資産配分	45%	50%	5%
	変動幅	25~65%	30~70%	0~15%
(成長型)	基本資産配分	65%	30%	5%
	変動幅	50~80%	15~45%	0~15%

※基本資産配分と、組入比率の上限・下限については、マクロ経済環境・金融市場動向を想定して設定するため5年程度に一度見直しします。

※株式、債券については、各々国内と外国のファンド全体に対する組入比率の上限と下限を定め、その範囲内で組入れを行います。

3

株式、債券、現預金で構成する複合ベンチマークを設け、中長期的にベンチマークを上回る運用成果を目指します。

- 株式……TOPIX（東証株価指数、配当込み）、債券……NOMURA-BPI（総合）、現預金…無担保コール翌日物を個別資産のベンチマークとし、それらを各ファンドの基本資産配分の比率で加重平均した複合ベンチマークを中長期的に上回る運用成果を目指します。
- 各ファンドはそれぞれの複合ベンチマークに対して、資産配分の変更と個別資産毎の運用の両面で超過収益の獲得を目指します。

〔各ファンドの複合ベンチマーク構成比〕



4

外貨エクスポージャーのコントロールにより、ファンド全体の為替変動リスクを管理します。

- 各ファンドの実質組入外貨建資産については、為替変動リスクが生じますが、外貨エクスポージャーをコントロールすることにより、ファンド全体の為替変動リスクを把握します。
- 対円での為替ヘッジに限定せず、全体的な投資収益を上昇させるため、割高な通貨を売り、割安な通貨を買うことに相当する為替取引を行うことがあります。



外貨エクスポージャーとは

実質組入外貨建資産のうち対円での為替ヘッジが行われていない部分のファンド全体に対する比率のことで、0%を下限とし外貨建資産の実質組入比率を上限とします。

5

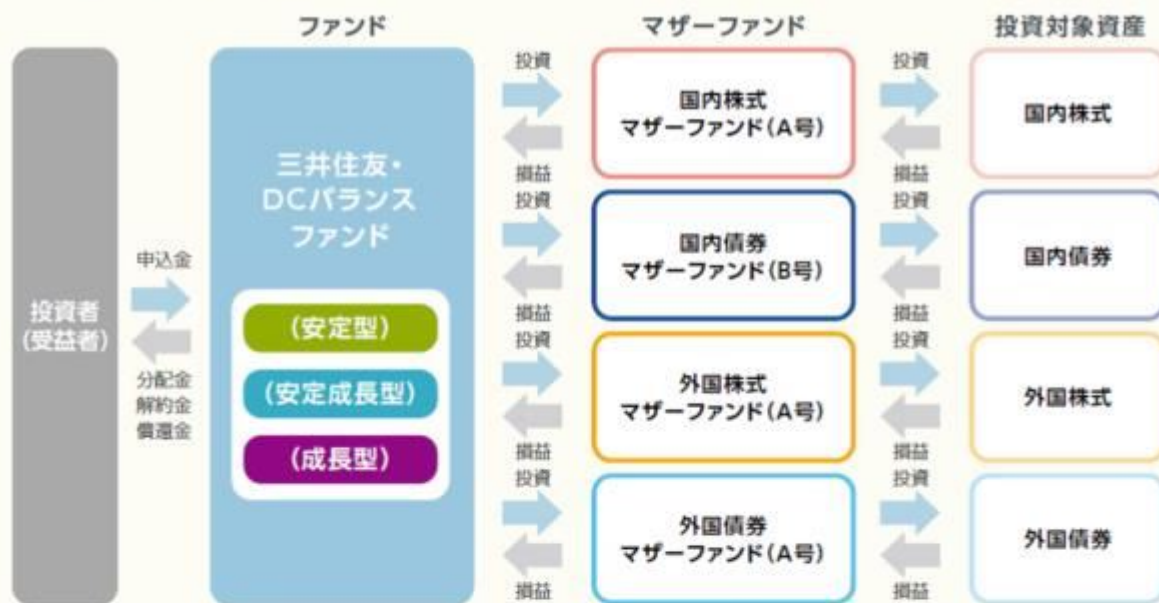
ファンドの運用はトップダウンアプローチにより行われます。

- 運用にあたっては、まずマクロ経済環境分析、各資産市場評価を行い、総合的な検討を行ったうえで、各資産の配分、市場配分、通貨配分、業種配分の決定を行います。さらにファンドマネージャーが個別銘柄の選定を行います。

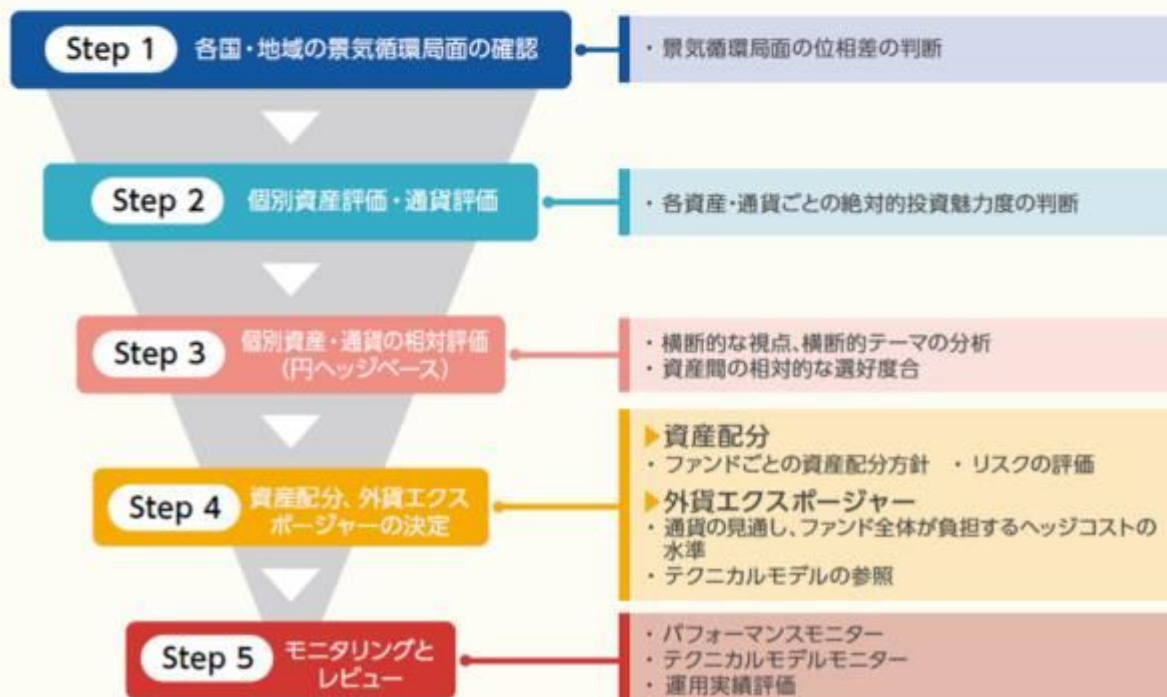
※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

ファンドのしくみ

■ファミリーファンド方式を採用し、内外の株式、債券に投資する4つのマザーファンドの組入れを通じて、実際の運用を行います。



運用(資産配分)プロセス



※上記の運用プロセスは2023年6月末現在のものであり、今後変更される場合があります。

各マザーファンドの投資方針等

▶ 国内株式マザーファンド(A号)

- TOPIX（東証株価指数、配当込み）をベンチマークとし、中長期的にベンチマークに対し同程度のリスクで、安定的に上回るリターンを目指します。
- マクロ経済分析をもとにしたトップダウンアプローチにより、委託会社が独自に定めるユニバース構成業種毎の基準ウエイトから一定の範囲内で乖離をとる業種配分と、企業の中長期成長力およびバリュエーションを重視した銘柄選択により超過収益の獲得を目指します。

▶ 国内債券マザーファンド(B号)

- NOMURA-BPI（総合）をベンチマークとし、中長期的にベンチマークを上回る投資成果を目指します。
- 定量的相対価値分析を行い、残存期間・セクター・銘柄間の割高割安を判断することに加え、デュレーションをベンチマーク対比で乖離させることにより、超過収益の獲得を目指します。ただし、リスクを一定以下に抑えて収益の安定性を確保します。

▶ 外国株式マザーファンド(A号)

- MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）をベンチマークとし、中長期的にベンチマークに対し同程度のリスクで、安定的に上回るリターンを目指します。
- 委託会社のエコノミスト、アナリストによる綿密かつ広範囲のリサーチにより、トップダウンおよびボトムアップ双方の視点から株価に十分織り込まれていない投資材料を見極め、リスクを取ることで超過収益の獲得を目指します。
- 原則として対円で為替ヘッジを行いません。ただし、資産と通貨を別々に管理しており、株式市場の見通しと通貨の見通しとの双方の観点から資産の配分比率と通貨の配分比率との間に一定の範囲内で乖離をとる場合があります。

▶ 外国債券マザーファンド(A号)

- FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）をベンチマークとし、中長期的にベンチマークに対し同程度のリスクで安定的に上回るリターンを目指します。
- 投資対象は欧米の主要格付機関からA格以上の格付けを取得している公社債を主としますが、信用リスクや利回り格差等を考慮して、A格未満の格付けの公社債を信託財産の純資産総額の5%以内で組み入れることもあります。
- マクロ経済分析や市場分析による金利予測に基づいて、市場配分、デュレーション、満期構成を決定し、ベンチマークとの乖離が主要な超過収益となるアクティブ運用を行います。ただし、ベンチマークとの乖離は一定の範囲内にとどめることとし、リスクをコントロールします。また、市場毎に利回り格差や流動性を考慮して、債券種別の配分、銘柄選択においても超過収益の獲得を目指します。
- 原則として対円で為替ヘッジを行いません。ただし、資産と通貨を別々に管理しており、債券市場の見通しと通貨の見通しとの双方の観点から資産の配分比率と通貨の配分比率との間に一定の範囲内で乖離をとる場合があります。

※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

指数の著作権など

- TOPIX（東証株価指数）は株式会社JPX総研、NOMURA-BPIは野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社、MSCIコクサイ・インデックスはMSCI Inc.、FTSE世界国債インデックスはFTSE Fixed Income LLCが、それぞれ公表している指数です。
- 各インデックスに関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は、指数を公表および許諾する各社に帰属します。また、当該各社は当ファンドの取引および運用成果等に関して一切責任を負いません。

（２）【投資対象】

イ 投資対象とする資産の種類

当ファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

（イ）次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項

で定めるものをいいます。以下同じ。)

1. 有価証券
2. デリバティブ取引にかかる権利
3. 金銭債権
4. 約束手形

(口) 特定資産以外の資産で次に掲げるもの

1. 為替手形

ロ 投資対象とする有価証券

委託会社は、信託金を、主としてマザーファンドの受益証券ならびに次の有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。)に投資することを指図します。

1. 株券または新株引受権証書
2. 国債証券
3. 地方債証券
4. 特別の法律により法人の発行する債券
5. 社債券(新株引受権証券と社債券が一体となった新株引受権付社債券(以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。))の新株引受権証券を除きます。)
6. 特定目的会社にかかる特定社債券(金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。)
7. 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券(金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。)
8. 協同組織金融機関にかかる優先出資証券(金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。)
9. 特定目的会社にかかる優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券(金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。)
10. コマーシャル・ペーパー
11. 新株引受権証券(分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。))および新株予約権証券
12. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの
13. 投資信託または外国投資信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)
14. 投資証券もしくは投資法人債券または外国投資証券(金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。)
15. 外国貸付債権信託受益証券(金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。)
16. オプションを表示する証券または証書(金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券にかかるものに限りません。)
17. 預託証書(金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。)
18. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
19. 指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限りません。)
20. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
21. 外国の者に対する権利で前号の有価証券の性質を有するもの

なお、第1号の証券または証書、第12号ならびに第17号の証券または証書のうち第1号の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、第2号から第6号までの証券および第12号ならびに第17号の証券または証書のうち第2号から第6号までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、第13号の証券および第14号の証券(ただし、投資法人債券を除きます。以下

同じ。)を以下「投資信託証券」といいます。

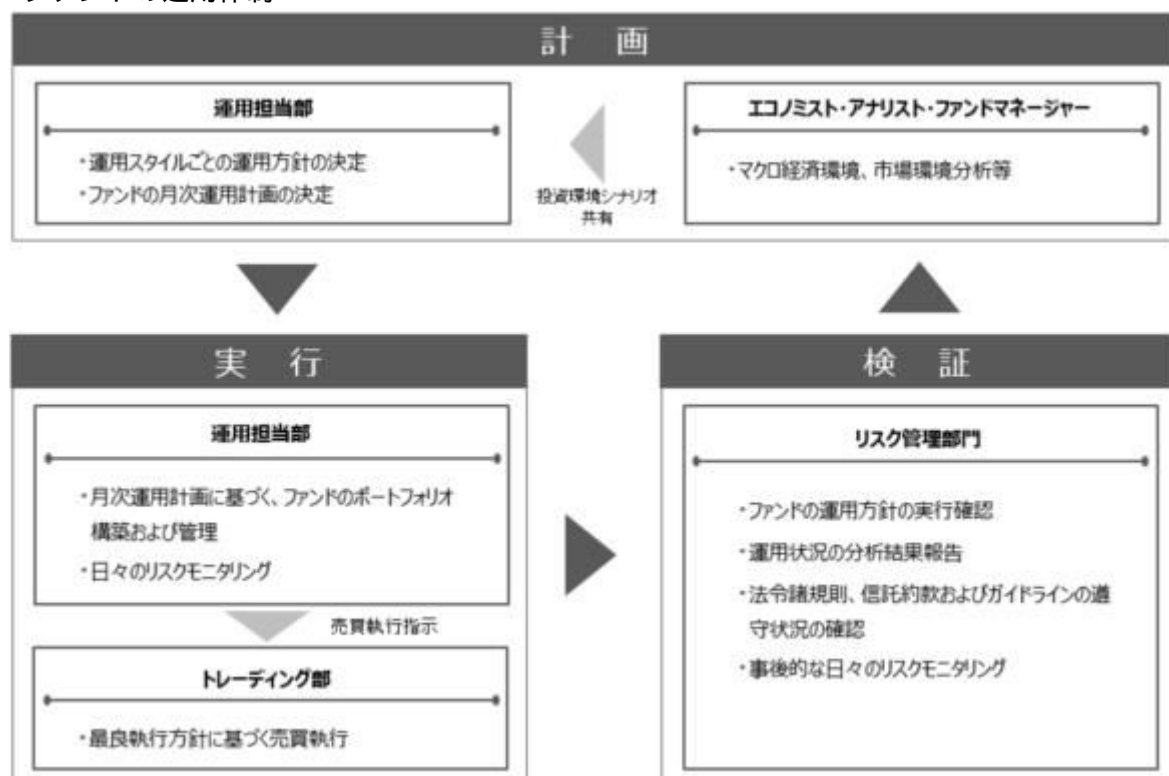
八 投資対象とする金融商品

委託会社は、信託金を、上記口に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

（3）【運用体制】

イ ファンドの運用体制



リスク管理部門の人員数は、約40名です。

ファンドの運用体制は、委託会社の組織変更等により、変更されることがあります。

ロ 委託会社によるファンドの関係法人（販売会社を除く）に対する管理体制

ファンドの受託会社に対しては、信託財産の日常の管理業務（保管・管理・計算等）を通じて、信託事務の正確性・迅速性の確認を行い、問題がある場合は適宜改善を求めています。

（4）【分配方針】

毎決算時（12月15日。ただし、休業日の場合は翌日以降の最初の営業日とします。）に、原則として以下の方針に基づき分配金額を決定します。

イ 分配対象額の範囲は、経費控除後の利子、配当収益および売買益（評価損益を含みます。）等の

範囲内とします。

- 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には、委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
- 八 留保金の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

ファンドは複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。

（基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。）

（５）【投資制限】

以下、この「（５）投資制限」の記載は、特にファンドを特定しない限り各ファンド共通です。

ファンドの信託約款に基づく主要な投資制限

- イ 各マザーファンド受益証券への投資割合には、制限を設けません。ただし、各マザーファンド受益証券への投資により実質的に保有する資産が、□以下のすべての条件を満たす範囲内とします。
- 株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額に対して、以下の通りとします。

三井住友・DCバランスファンド（安定型）	40%以内
三井住友・DCバランスファンド（安定成長型）	65%以内
三井住友・DCバランスファンド（成長型）	80%以内

 実質投資割合とは、当ファンドが保有するある種類の資産の評価額が当ファンドの純資産総額に占める比率（「組入比率」といいます。）と、当該同一種類の資産のマザーファンドにおける組入比率に当該マザーファンド受益証券の当ファンドにおける組入比率を乗じて得た率を合計したものをいいます（以下同じ。）。
- 八 新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- ニ 各マザーファンド受益証券を除く投資信託証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。
- ホ 外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の60%以内とします。
- ヘ 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。
- ト 一般社団法人投資信託協会規則に定める一者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

ファンドの信託約款に基づくその他の投資制限

イ 投資する株式等の範囲

- （イ）委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は取引所に上場している株式の発行会社の発行するもの、取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。
- （ロ）上記（イ）にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録することが確認できるものについては、委託会社が投資することを指図することができるものとします。

□ 信用取引の指図

- (イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売り付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡または買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。
- (ロ) 信用取引の指図は、当該売付けにかかる建玉の時価総額とマザーファンドに属する当該売付けにかかる建玉の時価総額との合計額が、信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- (ハ) 信託財産の一部解約等の事由により信用取引の売付けにかかる建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかにその超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

八 先物取引等の指図

- (イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、日本の取引所における有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。以下同じ。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。以下同じ。)および有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。以下同じ。)ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めて取り扱うものとします(以下同じ。)
- (ロ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、日本の取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所における通貨にかかる先物取引およびオプション取引を行うことの指図をすることができます。
- (ハ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、日本の取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことの指図をすることができます。

ニ スワップ取引の指図

- (イ) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するために、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。)を行うことの指図をすることができます。
- (ロ) スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- (ハ) スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- (ニ) 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

ホ 金利先渡取引および為替先渡取引の指図

- (イ) 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するために、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。
- (ロ) 金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- (ハ) 金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- (ニ) 委託会社は、金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。
- (ホ) 「金利先渡取引」とは、当事者間において、あらかじめ将来の特定の日(以下「決済日」といいます。)における決済日から一定の期間を経過した日(以下「満期日」といいます。)までの期間にかかる国内または海外において代表的利率として公表される預金契約または金

銭の貸借契約に基づく債権の利率(以下「指標利率」といいます。)の数値を取り決め、その取決めにかかる数値と決済日における当該指標利率の現実の数値との差にあらかじめ元本として定めた金額および当事者間で約定した日数を基準とした数値を乗じた額を決済日における当該指標利率の現実の数値で決済日における現在価値に割り引いた額の金銭の授受を約する取引をいいます。

- (ヘ)「為替先渡取引」とは、当事者間において、あらかじめ決済日から満期日までの期間にかかる為替スワップ取引(同一の相手方との間で直物外国為替取引および当該直物外国為替取引と反対売買の関係に立つ先物外国為替取引を同時に約定する取引をいいます。以下同じ。)のスワップ幅(当該直物外国為替取引にかかる外国為替相場と当該先物外国為替取引にかかる外国為替相場との差を示す数値をいいます。以下同じ。)を取り決め、その取決めにかかるスワップ幅から決済日における当該為替スワップ取引の現実のスワップ幅を差し引いた値にあらかじめ元本として定めた金額を乗じた額を決済日における指標利率の数値で決済日における現在価値に割り引いた額の金銭またはその取決めにかかるスワップ幅から決済日における当該為替スワップ取引の現実のスワップ幅を差し引いた値にあらかじめ元本として定めた金額を乗じた金額とあらかじめ元本として定めた金額について決済日を受渡日として行った先物外国為替取引を決済日における直物外国為替取引で反対売買したときの差金にかかる決済日から満期日までの利息とを合算した額を決済日における指標利率の数値で決済日における現在価値に割り引いた額の金銭の授受を約する取引をいいます。

ヘ 有価証券の貸付けの指図

- (イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の各号の範囲内で貸し付けることの指図をすることができます。
1. 株式の貸付けは、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。
 2. 公社債の貸付けは、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額の50%を超えないものとします。
- (ロ) 上記(イ)の限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかにその超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
- (ハ) 委託会社は、有価証券の貸付けにあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

ト 公社債の空売りの指図

- (イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産の計算においてする信託財産に属さない公社債を売り付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、公社債(信託財産により借り入れた公社債を含みます。)の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。
- (ロ) 上記(イ)の売付けの指図は、当該売付けにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- (ハ) 信託財産の一部解約等の事由により、上記(ロ)の売付けにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

チ 公社債の借入れの指図

- (イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図をするものとします。
- (ロ) 上記(イ)の指図は、当該借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- (ハ) 信託財産の一部解約等の事由により、上記(ロ)の借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借り入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。
- (ニ) 上記(イ)の借入れにかかる品借料は、信託財産中から支弁するものとします。

リ 特別の場合の外貨建資産への投資制限

外貨建資産への投資については、日本の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には制約されることがあります。

ヌ 外国為替予約取引の指図

- (イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。
- (ロ) 上記(イ)の予約取引の指図は、信託財産にかかる為替の買予約とマザーファンドの信託財産にかかる為替の買予約のうち信託財産に属するとみなした額との合計額と信託財産にかかる売予約とマザーファンドの信託財産にかかる売予約のうち信託財産に属するとみなした額との合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。
- (ハ) 上記(ロ)においてマザーファンドの信託財産にかかる為替の買予約のうち信託財産に属するとみなした額とは、マザーファンドの信託財産にかかる為替の買予約の総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。またマザーファンドの信託財産にかかる為替の売予約のうち信託財産に属するとみなした額とは、マザーファンドの信託財産にかかる為替の売予約の総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。
- (ニ) 上記(ロ)の限度額を超えることとなった場合には、委託会社は所定の期間内に、その超える額に相当する為替予約の一部を解消するために外国為替の売買の予約取引の指図をするものとします。

ル 資金の借入れ

- (イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性をはかるため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払い資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- (ロ) 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入れ指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。
- (ハ) 収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- (ニ) 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

ヲ デリバティブ取引等にかかる投資制限

委託会社は、デリバティブ取引等について、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えることとなる投資の指図をしません。

法令に基づく投資制限

イ 同一法人の発行する株式への投資制限（投資信託及び投資法人に関する法律第9条）

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、信託財産として有する当該株式にかかる議決権の総数（株主総会において決議をすることができる事項の全部につき議決権を行使することができない株式についての議決権を除き、会社法第879条第3項の規定により議決権を有するものとみなされる株式についての議決権を含みます。）が、当該株式にかかる議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、信託財産をもって当該株式を取得することを受託会社に指図することが禁じら

れています。

- デリバティブ取引にかかる投資制限（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号）
委託会社は、信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引（新株予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書にかかる取引および選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを受託会社に指図しないものとします。
- 八 信用リスク集中回避のための投資制限（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号の2）
委託会社は、運用財産に関し、信用リスク（保有する有価証券その他の資産について取引の相手方の債務不履行その他の理由により発生し得る危険をいいます。）を適正に管理する方法としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法に反することとなる取引を行うことを受託会社に指図しないものとします。

（参考情報：マザーファンドの投資方針等）

（国内株式マザーファンド（A号））

（1）投資方針等

イ 基本方針

主として日本の取引所上場株式に分散投資することにより、信託財産の中長期的な成長を目指した運用を行います。

□ 投資態度

- （イ）TOPIX（東証株価指数、配当込み）をベンチマークとし、中長期的にベンチマークに対し同程度のリスクで、安定的に上回るリターンを目指します。
- （ロ）実際の運用にあたっては、マクロ経済分析をもとにしたトップダウンアプローチで行い、委託会社独自に定めるユニバースを構成する業種毎の基準ウエイトから一定の範囲内で乖離をとる業種配分と、企業の中長期成長力およびバリュエーションを重視した銘柄選択により超過収益の獲得を目指します。
- （ハ）株式の組入比率は、原則として高位とします。ただし、資金動向、市場動向によっては上記のような運用ができない場合やファンドの目的が達成されない場合があります。

（2）投資対象

イ 投資対象とする資産の種類

前記「2 投資方針（2）投資対象 イ 投資対象とする資産の種類」において記載したベビーファンドが投資対象とする資産の種類に同じです。

□ 投資対象とする有価証券

前記「2 投資方針（2）投資対象 □ 投資対象とする有価証券」において記載したベビーファンドが投資対象とする各号（第1号から第21号まで）の有価証券（ただし、第12号は本邦通貨建表示のものとし、また、投資法人債券を除きます。）に投資します。

八 投資対象とする金融商品

前記「2 投資方針（2）投資対象 八 投資対象とする金融商品」において記載したベビーファンドが投資対象とする金融商品に同じです。

（3）投資制限

イ ファンドの信託約款に基づく主要な投資制限

- （イ）株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への投資割合には、制限を設けません。

- (ロ) 新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- (ハ) 投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。
- (ニ) 外貨建資産への投資は行いません。
- (ホ) 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。
- (ヘ) 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

(国内債券マザーファンド(B号))

(1) 投資方針等

イ 基本方針

日本の公社債を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を図ることを目標に運用を行います。

ロ 投資態度

- (イ) 主として日本の公社債に投資し、中長期的にNOMURA - BPI (総合) (以下「ベンチマーク」といいます。)を上回る投資成果を目指して運用を行います。
- (ロ) 運用にあたっては、リスクを一定以下に抑えて収益の安定性を確保しつつ、定量的相対価値分析を駆使し、残存・セクター・銘柄間の割高割安を判断するだけでなく、ポートフォリオのデュレーションをベンチマーク対比で乖離させることにより、ベンチマークを上回る収益の獲得を目指します。

(2) 投資対象

イ 投資対象とする資産の種類

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 イ 投資対象とする資産の種類」において記載したベビーファンドが投資対象とする資産の種類に同じです。

ロ 投資対象とする有価証券

1. 国債証券
2. 地方債証券
3. 特別の法律により法人の発行する債券
4. 社債券(新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券を除きます。)
5. 特定目的会社にかかる特定社債券(金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。)
6. コマーシャル・ペーパー
7. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券の性質を有するもの
8. 投資信託または外国投資信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)
9. 投資証券もしくは投資法人債券または外国投資証券(金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。)
10. 外国貸付債権信託受益証券(金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。)
11. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
12. 指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)

13. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの

ハ 投資対象とする金融商品

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 ハ 投資対象とする金融商品」において記載したベビーファンドが投資対象とする金融商品に同じです。

(3) 投資制限

イ ファンドの信託約款に基づく主要な投資制限

(イ) 外貨建資産への投資は行いません。

(ロ) 国債、地方債および特別の法律により法人の発行する債券以外の債券を取得する場合は、主要格付機関のいずれかよりBBB格相当以上の格付けを得ていることを条件とします。

(ハ) 上記(ロ)の債券について、いずれの格付機関の格付けもBBB格相当を下回ることとなった場合には、委託会社は、同一の発行体が発行した債券への投資割合およびBBB格相当未満の債券合計への投資割合がそれぞれ信託財産の純資産総額の5%以下および10%以下となるよう、当該債券の売却等の指図を行うものとします。

(ニ) 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

(外国株式マザーファンド(A号))

(1) 投資方針等

イ 基本方針

日本を除く世界各国の株式に分散投資することにより、信託財産の中長期的な成長を目指した運用を行います。

ロ 投資態度

(イ) MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)をベンチマークとし、中長期的にベンチマークに対し同程度のリスクで、安定的に上回るリターンを目指します。

(ロ) 委託会社のエコノミスト、アナリストによる綿密かつ広範囲のリサーチにより、トップダウンおよびボトムアップ双方の視点から株価に十分織り込まれていない投資材料を見極め、リスクを取ることで超過収益の獲得を目指します。

(ハ) 原則として対円での為替ヘッジを行いません。ただし、資産と通貨を別々に管理しており、株式市場の見通しと通貨の見通しとの双方の観点から資産の配分比率と通貨の配分比率との間に一定の範囲内で乖離をとる場合があります。

(ニ) 株式組入比率は原則として高位とします。ただし資金動向、市場動向によっては上記のような運用ができない場合やファンドの目的が達成されない場合があります。

(2) 投資対象

イ 投資対象とする資産の種類

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 イ 投資対象とする資産の種類」において記載したベビーファンドが投資対象とする資産の種類に同じです。

ロ 投資対象とする有価証券

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 ロ 投資対象とする有価証券」において記載したベビーファンドが投資対象とする各号(第1号から第21号まで)の有価証券(ただし、投資法人債券を除きます。)に投資します。

ハ 投資対象とする金融商品

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 ハ 投資対象とする金融商品」において記載したベビー

ファンドが投資対象とする金融商品に同じです。

（３）投資制限

イ ファンドの信託約款に基づく主要な投資制限

- （イ）株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への投資割合には、制限を設けません。
- （ロ）新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。
- （ハ）投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。
- （ニ）外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
- （ホ）同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。
- （ヘ）一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

（外国債券マザーファンド（A号））

（１）投資方針等

イ 基本方針

日本を除く世界各国の公社債に分散投資することにより、安定した成長と収益の確保を目指した運用を行います。

ロ 投資態度

- （イ）F T S E 世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）をベンチマークとし、中長期的にベンチマークに対し同程度のリスクで安定的に上回るリターンを目指します。
- （ロ）投資対象は欧米の主要格付機関からA格以上の格付けを取得している公社債を主としますが、信用リスクや利回り格差等を考慮して、A格未満の格付けの公社債を信託財産の純資産総額の5%以内で組み入れることもあります。
- （ハ）実際の運用にあたっては、マクロ経済分析や市場分析による金利予測に基づいて、市場配分、デュレーション、満期構成を決定し、ベンチマークとの乖離が主要な超過収益となるアクティブ運用を行います。ただし、ベンチマークとの乖離は一定の範囲内にとどめることとし、リスクをコントロールします。
また、市場毎に利回り格差や流動性を考慮して、債券種別の配分、銘柄選択においても超過収益の獲得を目指します。
- （ニ）原則として対円での為替ヘッジを行いません。ただし、資産と通貨を別々に管理しており、債券市場の見通しと通貨の見通しとの双方の観点から資産の配分比率と通貨の配分比率との間に一定の範囲内で乖離をとる場合があります。
- （ホ）債券組入比率は原則として高位とします。ただし資金動向、市場動向によっては上記のような運用ができない場合やファンドの目的が達成されない場合があります。

（２）投資対象

イ 投資対象とする資産の種類

前記「２ 投資方針（２）投資対象 イ 投資対象とする資産の種類」において記載したベビーファンドが投資対象とする資産の種類に同じです。

ロ 投資対象とする有価証券

前記「２ 投資方針（２）投資対象 ロ 投資対象とする有価証券」において記載したベビーファンドが投資対象とする有価証券の各号のうち、第2号から第6号、第10号、第12号（ただ

し、第2号から第6号および第10号の性質を有するものに限り、)から第15号および第18号から第21号に掲げるものに投資します。ただし、投資信託証券については、株券または新株の引受権を表示する証券もしくは証書に投資するものを除きます。また、投資法人債券には投資しません。

八 投資対象とする金融商品

前記「2 投資方針 (2) 投資対象 八 投資対象とする金融商品」において記載したベビーフンドが投資対象とする金融商品に同じです。

(3) 投資制限

イ ファンドの信託約款に基づく主要な投資制限

(イ) 投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

(ロ) 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

(ハ) 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

3【投資リスク】

イ ファンドのもつリスクの特性

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。

投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。

当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

(イ) 株式市場リスク

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

(ロ) 債券市場リスク

一般に債券は内外の経済情勢等の影響による金利の変動を受けて価格が変動します。通常、金利が上昇すると債券価格は下落します。また、格付けが引き下げられる場合も債券価格が下落するおそれがあります。債券価格の下落はファンドの基準価額が下落する要因となります。なお、価格の変動幅は、債券の種類、格付け、残存期間、利払いのしくみの違い等により、債券ごとに異なります。

(ハ) 信用リスク

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

(ニ) 為替変動リスク

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する(円高となる)場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

(ホ) カントリーリスク

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制

の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

(ヘ) 流動性リスク

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

ロ その他の留意点

(イ) 投資信託に関する留意点

- ・当ファンドは「ファミリーファンド方式」により運用するため、当ファンドと同じマザーファンドを投資対象とする他のベビーファンドに追加設定・一部解約により資金の流出入が生じた場合、その結果として、当該マザーファンドにおいても組入有価証券の売買等が生じ、当ファンドの基準価額に影響を及ぼすことがあります。
- ・ファンドのお申込みに関しては、クーリング・オフ制度の適用はありません。
- ・ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。

これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。

(ロ) 分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

ハ 投資リスクの管理体制

委託会社では、運用部門から独立した組織を設置し、運用リスク管理を行っています。

リスク管理担当部は、信託約款等に定める各種投資制限やリスク指標のモニタリングを実施し、制限に対する抵触等があった場合には運用部門に対処要請等を行い、結果をリスク管理会議へ報告します。

また、ファンドのパフォーマンスの分析・評価を行い、結果を運用評価会議等へ報告することで、運用方針等との整合性を維持するよう適切に管理しています。

さらに、流動性リスク管理について規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングやストレステストを実施するとともに、緊急時対応策等の策定や有効性の検証等を行います。なお、当該流動性リスクの適切な管理の実施等について、定期的にはリスク管理会議へ報告します。

コンプライアンス担当部は、法令・諸規則等の遵守状況の確認等を行い、結果をコンプライアンス会

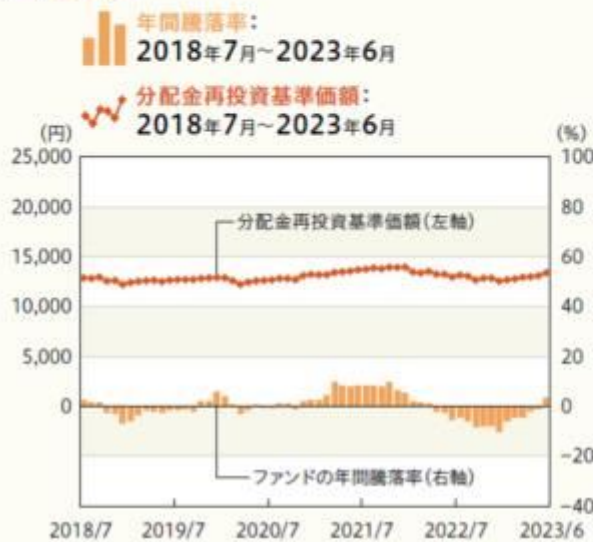
議に報告します。

（参考情報）投資リスクの定量的比較

「ファンドの年間騰落率および 分配金再投資基準価額の推移」

各月末におけるファンドの1年間の騰落率と分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。

■（安定型）



「ファンドと他の代表的な 資産クラスとの騰落率の比較」

ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて、各月末における1年間の騰落率の平均・最大・最小を比較したものです。



■（安定成長型）



※年間騰落率、分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものと仮定して計算したものです。

※分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。

※ファンドの騰落率は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額をもとに計算したものと異なります。

※すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

【 ファンドの年間騰落率および 分配金再投資基準価額の推移 】

各月末におけるファンドの1年間の騰落率と分配金再投資基準価額の推移を表示したものです。

■(成長型)



※年間騰落率、分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算したものです。

※分配実績がない場合は、分配金再投資基準価額は基準価額と同じです。

【 ファンドと他の代表的な 資産クラスとの騰落率の比較 】

ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて、各月末における1年間の騰落率の平均・最大・最小を比較したものです。



※ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額をもとに計算したものと異なります。

※すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの指数

日本株	TOPIX(東証株価指数、配当込み) 株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が算出、公表する指数で、日本の株式を対象としています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本国債	NOMURA-BPI(国債) 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

ありません。

(2) 【換金（解約）手数料】

解約手数料はありません。

(3) 【信託報酬等】

純資産総額に年1.54%（税抜き1.4%）の率を乗じて得た金額が、毎日信託財産の費用として計上され、ファンドの基準価額に反映されます。また、信託報酬は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日（休業日の場合は翌営業日とします。）と各計算期末または信託終了のときに、信託財産中から支弁するものとします。

信託報酬の配分は以下の通りです。

< 信託報酬の配分（税抜き） >

支払先	料率	役務の内容
委託会社	年0.65%	ファンドの運用およびそれに伴う調査、受託会社への指図、基準価額の算出、法定書面等の作成等の対価
販売会社	年0.65%	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
受託会社	年0.1%	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの指図の実行等の対価

上記の配分には別途消費税等相当額がかかります。

(4) 【その他の手数料等】

- イ 信託財産の財務諸表の監査に要する費用は、原則として、計算期間を通じて毎日、純資産総額に年0.0055%（税抜き0.005%）以内の率を乗じて得た金額が信託財産の費用として計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日（休業日の場合は翌営業日とします。）と各計算期末または信託終了のときに、信託財産中から支弁するものとします。監査費用は、将来、監査法人との契約等により変更となることがあります。
- ロ 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立て替えた立替金の利息は、信託財産中から支弁します。
- ハ 有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用、および外国における資産の保管等に要する費用等（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）は、信託財産中から支弁するものとします。

上記ロ、ハにかかる費用に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、実務上、その発生もしくは請求のつど、信託財産の費用として認識され、その時点の信託財産で負担することとなります。したがって、あらかじめ、その金額、上限額、計算方法等を具体的に記載することはできません。

上記(1)～(4)にかかる手数料等の合計額、その上限額、計算方法等は、手数料等に保有期間に応じて異なるものが含まれていたり、発生時・請求時に初めて具体的金額を認識するものがあつたりすることから、あらかじめ具体的に記載することはできません。

(5) 【課税上の取扱い】

イ 個別元本について

- (イ) 追加型株式投資信託について、受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等相当額は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあつ

ります。

- (ロ) 受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合には、各販売会社毎に個別元本の算出が行われま
す。また、同一販売会社であっても同一受益者の顧客口座が複数存在する場合や、「分配金受
取りコース」と「分配金自動再投資コース」を併用するファンドの場合には、別々に個別元本
の算出が行われることがあります。
- (ハ) 受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から
当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。
（「元本払戻金（特別分配金）」については、下記の（収益分配金の課税について）を参
照。）

ロ 一部解約時および償還時の課税について

個人の受益者については、一部解約時および償還時の譲渡益が課税対象となり、法人の受益者につ
いては、一部解約時および償還時の個別元本超過額が課税対象となります。

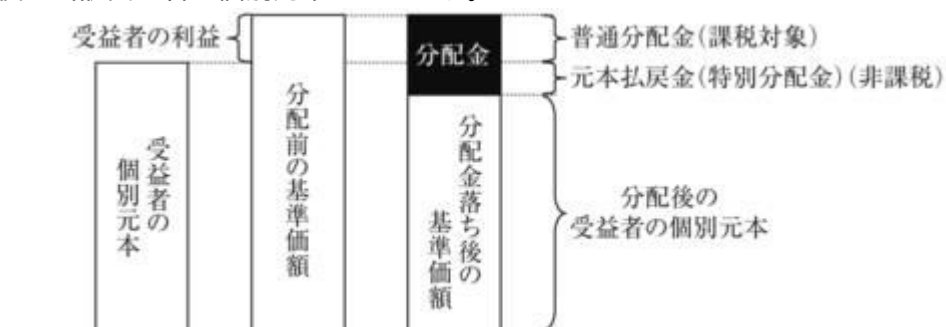
ハ 収益分配金の課税について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる
「元本払戻金（特別分配金）」（受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分）の区分がありま
す。

収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元
本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。



収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部
分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配
金）を控除した額が普通分配金となります。なお、受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け
取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した
額が、その後の当該受益者の個別元本となります。



上記の図はあくまでもイメージ図であり、個別元本や基準価額、分配金の各水準等を
示唆するものではありません。

二 個人、法人別の課税の取扱いについて

(イ) 個人の受益者に対する課税

・収益分配時

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、20.315%（所得税15.315%および

地方税5%)の税率による源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。確定申告による総合課税または申告分離課税の選択も可能です。

・一部解約時および償還時

一部解約時および償還時の譲渡益については、20.315%（所得税15.315%および地方税5%）の税率による申告分離課税が適用されます。ただし、特定口座（源泉徴収選択口座）の利用も可能です。

また、一部解約時および償還時の損失については、確定申告により、上場株式等（上場株式、公募株式投資信託、上場投資信託（ETF）、上場不動産投資信託（REIT）、公募公社債投資信託および特定公社債をいいます。以下同じ。）の譲渡益ならびに上場株式等の配当所得（申告分離課税を選択したものに限り）および利子所得の金額との損益通算が可能です。

（ロ）法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については、15.315%（所得税のみ）の税率で源泉徴収されます。

当ファンドは、課税上は株式投資信託として取り扱われます。

なお、当ファンドは、配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

受益者が確定拠出年金法に規定する資産管理機関および国民年金基金連合会等の場合は、所得税および地方税がかかりません。なお、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。

課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家に確認されることをお勧めいたします。

公募株式投資信託は税法上、NISA（少額投資非課税制度）の適用対象であり、2024年1月1日以降は一定の要件を満たした場合に限りNISAの適用対象となります。

※NISA、ジュニアNISAをご利用になる場合、各制度の違いにご留意ください。
また、販売会社での専用口座の開設等、一定の要件があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

	少額投資非課税制度 NISA	未成年者少額投資非課税制度 ジュニアNISA
対象となる投資信託	公募株式投資信託	
非課税対象	公募株式投資信託から生じる配当所得および譲渡所得	
利用対象となる方	18歳以上の日本居住者 (専用口座が開設される年の1月1日現在)	0~17歳の日本居住者 (専用口座が開設される年の1月1日現在)
非課税の期間	最長5年間(新規の購入は2023年まで)	
利用できる限度額	120万円/年 (最大600万円)	80万円/年 (最大400万円)

(注) 2024年1月1日以降は、非課税の期間は無期限となり、一定の額を上限として、毎年の利用できる限度額が拡大されます。また、2024年1月1日以降は、税法上の要件を満たした公募株式投資信託等を購入した場合に限り、非課税の適用を受けることができます。
なお、ジュニアNISAで新規の購入ができなくなります。
詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

上記「(5)課税上の取扱い」ほか税制に関する本書の記載は、2023年6月末現在の情報をもとに作成しています。税法の改正等により、変更されることがあります。

5【運用状況】

(1)【投資状況】

三井住友・DCバランスファンド（安定型）

2023年6月30日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	日本	238,056,874	94.13
現金・預金・その他の資産（負債控除後）	-	14,839,990	5.87
合計（純資産総額）		252,896,864	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。以下同じ。
 その他以下の取引を行っております。

種類	買建/ 売建	国/地域	時価合計（円）	投資比率 (%)
為替予約取引	売建	-	38,860,511	15.37

三井住友・DCバランスファンド（安定成長型）

2023年6月30日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	日本	714,303,733	93.73
現金・預金・その他の資産（負債控除後）	-	47,772,602	6.27
合計（純資産総額）		762,076,335	100.00

その他以下の取引を行っております。

種類	買建/ 売建	国/地域	時価合計（円）	投資比率 (%)
為替予約取引	売建	-	126,080,146	16.54

三井住友・DCバランスファンド（成長型）

2023年6月30日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	日本	413,738,771	94.36
現金・預金・その他の資産（負債控除後）	-	24,731,073	5.64
合計（純資産総額）		438,469,844	100.00

その他以下の取引を行っております。

種類	買建/ 売建	国/地域	時価合計（円）	投資比率 (%)
為替予約取引	売建	-	89,668,844	20.45

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

三井住友・DCバランスファンド（安定型）

イ 主要投資銘柄

2023年6月30日現在

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資 信託受 益証券	国内債券マザー ファンド（B 号）	97,954,721	1.3722	134,416,503	1.3909	136,245,221	53.87
日本	親投資 信託受 益証券	国内株式マザー ファンド（A 号）	24,401,230	1.5943	38,902,696	1.8893	46,101,243	18.23
日本	親投資 信託受 益証券	外国債券マザー ファンド（A 号）	10,591,131	2.9815	31,577,966	3.1676	33,548,466	13.27
日本	親投資 信託受 益証券	外国株式マザー ファンド（A 号）	4,863,702	3.7665	18,319,342	4.5566	22,161,944	8.76

以上が、当ファンドが保有する有価証券のすべてです。

ロ 種類別投資比率

2023年6月30日現在

種類	投資比率（%）
親投資信託受益証券	94.13
合計	94.13

三井住友・DCバランスファンド（安定成長型）

イ 主要投資銘柄

2023年6月30日現在

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資 信託受 益証券	国内債券マザー ファンド（B 号）	202,407,368	1.3722	277,741,976	1.3909	281,528,408	36.94
日本	親投資 信託受 益証券	国内株式マザー ファンド（A 号）	130,884,692	1.5937	208,593,142	1.8893	247,280,448	32.45
日本	親投資 信託受 益証券	外国株式マザー ファンド（A 号）	25,611,775	3.7714	96,591,367	4.5566	116,702,613	15.31
日本	親投資 信託受 益証券	外国債券マザー ファンド（A 号）	21,717,472	2.9732	64,569,568	3.1676	68,792,264	9.03

以上が、当ファンドが保有する有価証券のすべてです。

□ 種類別投資比率

2023年6月30日現在

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	93.73
合計	93.73

三井住友・DCバランスファンド（成長型）

イ 主要投資銘柄

2023年6月30日現在

国／地域	種類	銘柄名	数量	帳簿単価 （円）	帳簿価額 （円）	評価額 単価 （円）	評価額 （円）	投資 比率 （％）
日本	親投資 信託受 益証券	国内株式マザー ファンド（A 号）	102,831,314	1.5930	163,812,113	1.8893	194,279,201	44.31
日本	親投資 信託受 益証券	外国株式マザー ファンド（A 号）	22,227,669	3.7836	84,099,769	4.5566	101,282,596	23.10
日本	親投資 信託受 益証券	国内債券マザー ファンド（B 号）	66,236,121	1.3727	90,920,709	1.3909	92,127,820	21.01
日本	親投資 信託受 益証券	外国債券マザー ファンド（A 号）	8,223,625	2.9688	24,414,083	3.1676	26,049,154	5.94

以上が、当ファンドが保有する有価証券のすべてです。

□ 種類別投資比率

2023年6月30日現在

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	94.36
合計	94.36

【投資不動産物件】

三井住友・DCバランスファンド（安定型）

該当事項はありません。

三井住友・DCバランスファンド（安定成長型）

該当事項はありません。

三井住友・DCバランスファンド（成長型）

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

三井住友・DCバランスファンド（安定型）

2023年6月30日現在

種類	資産の名称	買建 / 売建	数量	簿価 (円)	時価 (円)	投資 比率 (%)
為替予約 取引	アメリカ・ドル	売建	172,000.00	23,839,217	24,862,823	9.83
	ユーロ	売建	89,000.00	13,282,368	13,997,688	5.53

(注) 日本における対顧客先物相場の仲値で評価しております。

三井住友・DCバランスファンド（安定成長型）

2023年6月30日現在

種類	資産の名称	買建 / 売建	数量	簿価 (円)	時価 (円)	投資 比率 (%)
為替予約 取引	アメリカ・ドル	売建	610,000.00	84,546,061	88,176,293	11.57
	ユーロ	売建	241,000.00	35,966,864	37,903,853	4.97

(注) 日本における対顧客先物相場の仲値で評価しております。

三井住友・DCバランスファンド（成長型）

2023年6月30日現在

種類	資産の名称	買建 / 売建	数量	簿価 (円)	時価 (円)	投資 比率 (%)
為替予約 取引	アメリカ・ドル	売建	468,000.00	64,864,846	67,650,008	15.43
	ユーロ	売建	140,000.00	20,893,614	22,018,836	5.02

(注) 日本における対顧客先物相場の仲値で評価しております。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

三井住友・DCバランスファンド（安定型）

年月日	純資産総額 (円)		1万口当たりの 純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第13期 (2013年12月16日)	171,016,147	171,016,147	11,277	11,277
第14期 (2014年12月15日)	193,650,525	193,650,525	12,095	12,095
第15期 (2015年12月15日)	194,962,056	194,962,056	12,239	12,239
第16期 (2016年12月15日)	201,719,250	201,719,250	12,433	12,433
第17期 (2017年12月15日)	213,524,340	213,524,340	12,995	12,995
第18期 (2018年12月17日)	211,627,484	211,627,484	12,448	12,448

第19期 (2019年12月16日)	239,453,885	239,453,885	12,928	12,928
第20期 (2020年12月15日)	257,997,052	257,997,052	13,191	13,191
第21期 (2021年12月15日)	272,099,673	272,099,673	13,936	13,936
第22期 (2022年12月15日)	251,603,364	251,603,364	12,886	12,886
2022年 6月末日	248,772,713	-	12,977	-
7月末日	252,842,973	-	13,168	-
8月末日	251,588,766	-	13,069	-
9月末日	245,969,217	-	12,670	-
10月末日	249,613,207	-	12,854	-
11月末日	251,200,817	-	12,862	-
12月末日	247,136,762	-	12,571	-
2023年 1月末日	247,832,746	-	12,702	-
2月末日	246,975,256	-	12,779	-
3月末日	252,759,629	-	12,946	-
4月末日	252,017,079	-	13,004	-
5月末日	252,077,489	-	13,123	-
6月末日	252,896,864	-	13,403	-

三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)

年月日	純資産総額 (円)		1万口当たりの 純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第13期 (2013年12月16日)	403,183,809	403,183,809	12,068	12,068
第14期 (2014年12月15日)	420,847,336	420,847,336	13,250	13,250
第15期 (2015年12月15日)	444,047,636	444,047,636	13,581	13,581
第16期 (2016年12月15日)	470,354,291	470,354,291	13,929	13,929
第17期 (2017年12月15日)	531,244,503	531,244,503	15,086	15,086
第18期 (2018年12月17日)	518,003,637	518,003,637	14,166	14,166
第19期 (2019年12月16日)	576,417,301	576,417,301	15,013	15,013
第20期 (2020年12月15日)	617,253,549	617,253,549	15,589	15,589
第21期 (2021年12月15日)	726,112,920	726,112,920	17,261	17,261
第22期 (2022年12月15日)	713,825,522	713,825,522	15,838	15,838
2022年 6月末日	685,786,236	-	15,772	-
7月末日	699,828,489	-	16,097	-
8月末日	698,901,693	-	15,989	-
9月末日	673,302,486	-	15,325	-
10月末日	687,493,163	-	15,728	-
11月末日	694,545,475	-	15,808	-
12月末日	697,012,962	-	15,371	-
2023年 1月末日	710,583,406	-	15,652	-
2月末日	711,401,024	-	15,772	-
3月末日	727,698,930	-	15,983	-
4月末日	727,711,259	-	16,097	-
5月末日	742,312,556	-	16,378	-

6月末日	762,076,335	-	16,971	-
------	-------------	---	--------	---

三井住友・DCバランスファンド(成長型)

年月日	純資産総額 (円)		1万口当たりの 純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第13期 (2013年12月16日)	202,164,000	202,164,000	12,235	12,235
第14期 (2014年12月15日)	218,572,062	218,572,062	13,714	13,714
第15期 (2015年12月15日)	237,546,681	237,546,681	14,214	14,214
第16期 (2016年12月15日)	257,072,805	257,072,805	14,646	14,646
第17期 (2017年12月15日)	276,171,202	276,171,202	16,361	16,361
第18期 (2018年12月17日)	291,223,562	291,223,562	15,195	15,195
第19期 (2019年12月16日)	315,051,132	315,051,132	16,458	16,458
第20期 (2020年12月15日)	352,960,972	352,960,972	17,483	17,483
第21期 (2021年12月15日)	390,381,837	390,381,837	20,198	20,198
第22期 (2022年12月15日)	384,796,288	384,796,288	18,454	18,454
2022年 6月末日	373,054,005	-	18,156	-
7月末日	383,588,418	-	18,665	-
8月末日	377,782,327	-	18,535	-
9月末日	361,474,896	-	17,551	-
10月末日	377,669,596	-	18,219	-
11月末日	384,192,632	-	18,407	-
12月末日	374,475,740	-	17,825	-
2023年 1月末日	382,284,120	-	18,290	-
2月末日	381,364,823	-	18,443	-
3月末日	400,763,015	-	18,707	-
4月末日	403,642,055	-	18,885	-
5月末日	414,044,360	-	19,351	-
6月末日	438,469,844	-	20,307	-

【分配の推移】

三井住友・DCバランスファンド(安定型)

	計算期間	1万口当たり分配金(円)
第13期	2012年12月18日～2013年12月16日	0
第14期	2013年12月17日～2014年12月15日	0
第15期	2014年12月16日～2015年12月15日	0
第16期	2015年12月16日～2016年12月15日	0
第17期	2016年12月16日～2017年12月15日	0
第18期	2017年12月16日～2018年12月17日	0
第19期	2018年12月18日～2019年12月16日	0
第20期	2019年12月17日～2020年12月15日	0
第21期	2020年12月16日～2021年12月15日	0

第22期	2021年12月16日～2022年12月15日	0
------	-------------------------	---

三井住友・DCバランスファンド（安定成長型）

	計算期間	1万口当たり分配金（円）
第13期	2012年12月18日～2013年12月16日	0
第14期	2013年12月17日～2014年12月15日	0
第15期	2014年12月16日～2015年12月15日	0
第16期	2015年12月16日～2016年12月15日	0
第17期	2016年12月16日～2017年12月15日	0
第18期	2017年12月16日～2018年12月17日	0
第19期	2018年12月18日～2019年12月16日	0
第20期	2019年12月17日～2020年12月15日	0
第21期	2020年12月16日～2021年12月15日	0
第22期	2021年12月16日～2022年12月15日	0

三井住友・DCバランスファンド（成長型）

	計算期間	1万口当たり分配金（円）
第13期	2012年12月18日～2013年12月16日	0
第14期	2013年12月17日～2014年12月15日	0
第15期	2014年12月16日～2015年12月15日	0
第16期	2015年12月16日～2016年12月15日	0
第17期	2016年12月16日～2017年12月15日	0
第18期	2017年12月16日～2018年12月17日	0
第19期	2018年12月18日～2019年12月16日	0
第20期	2019年12月17日～2020年12月15日	0
第21期	2020年12月16日～2021年12月15日	0
第22期	2021年12月16日～2022年12月15日	0

【収益率の推移】

三井住友・DCバランスファンド（安定型）

	収益率（％）
第13期	11.4
第14期	7.3
第15期	1.2
第16期	1.6
第17期	4.5
第18期	4.2
第19期	3.9
第20期	2.0
第21期	5.6
第22期	7.5

第23期(中間期)	3.7
-----------	-----

(注) 収益率とは、計算期間末の分配付基準価額から前期末分配落基準価額を控除した額を前期末分配落基準価額で除したものをいいます。

三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)

	収益率(%)
第13期	20.2
第14期	9.8
第15期	2.5
第16期	2.6
第17期	8.3
第18期	6.1
第19期	6.0
第20期	3.8
第21期	10.7
第22期	8.2
第23期(中間期)	6.7

(注) 収益率とは、計算期間末の分配付基準価額から前期末分配落基準価額を控除した額を前期末分配落基準価額で除したものをいいます。

三井住友・DCバランスファンド(成長型)

	収益率(%)
第13期	29.5
第14期	12.1
第15期	3.6
第16期	3.0
第17期	11.7
第18期	7.1
第19期	8.3
第20期	6.2
第21期	15.5
第22期	8.6
第23期(中間期)	9.6

(注) 収益率とは、計算期間末の分配付基準価額から前期末分配落基準価額を控除した額を前期末分配落基準価額で除したものをいいます。

(4) 【設定及び解約の実績】

三井住友・DCバランスファンド(安定型)

	設定口数(口)	解約口数(口)
第13期	41,863,007	42,582,662
第14期	26,877,673	18,418,719

第15期	19,553,674	20,366,616
第16期	16,903,981	13,945,073
第17期	27,169,884	25,105,893
第18期	20,643,253	14,945,350
第19期	29,485,931	14,272,652
第20期	50,212,684	39,851,436
第21期	30,974,151	31,316,907
第22期	19,184,342	19,181,177
第23期(中間期)	11,192,338	13,352,636

(注) 本邦外における設定および解約の実績はありません。

三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)

	設定口数(口)	解約口数(口)
第13期	48,754,311	36,382,217
第14期	43,122,250	59,598,131
第15期	35,396,094	26,051,670
第16期	29,757,139	19,038,681
第17期	38,264,679	23,802,398
第18期	43,435,774	29,909,672
第19期	43,928,626	25,663,952
第20期	84,381,096	72,367,159
第21期	51,726,104	27,011,845
第22期	54,458,838	24,427,967
第23期(中間期)	23,254,332	22,383,426

(注) 本邦外における設定および解約の実績はありません。

三井住友・DCバランスファンド(成長型)

	設定口数(口)	解約口数(口)
第13期	35,863,506	41,626,888
第14期	17,359,549	23,221,845
第15期	25,035,109	17,286,266
第16期	21,278,735	12,882,481
第17期	24,011,241	30,733,506
第18期	32,703,031	9,843,884
第19期	23,898,524	24,132,198
第20期	39,447,397	28,981,800
第21期	30,625,816	39,233,950
第22期	28,771,839	13,531,347
第23期(中間期)	15,799,067	10,507,583

(注) 本邦外における設定および解約の実績はありません。

(参考)

(1) 投資状況

国内株式マザーファンド(A号)

2023年6月30日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
株式	日本	1,166,339,460	98.22
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	-	21,096,138	1.78
合計(純資産総額)		1,187,435,598	100.00

国内債券マザーファンド(B号)

2023年6月30日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
国債証券	日本	176,747,860,760	62.92
地方債証券	日本	5,421,991,400	1.93
特殊債券	日本	18,326,015,319	6.52
社債券	日本	68,758,203,900	24.48
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	-	11,667,126,652	4.15
合計(純資産総額)		280,921,198,031	100.00

その他以下の取引を行っております。

種類	買建/ 売建	国/地域	時価合計(円)	投資比率 (%)
債券先物取引	買建	日本	8,764,450,000	3.12
合計	買建	-	8,764,450,000	3.12

外国株式マザーファンド(A号)

2023年6月30日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
株式	アメリカ	2,075,519,163	71.71
	フランス	211,681,918	7.31
	アイルランド	126,284,653	4.36
	スイス	116,691,649	4.03
	イギリス	102,706,532	3.55
	香港	70,820,405	2.45
	オランダ	65,831,920	2.27
	ジャージー	30,952,934	1.07
	スペイン	15,335,400	0.53
	オーストラリア	14,004,872	0.48
	ドイツ	12,961,901	0.45
小計		2,842,791,347	98.22
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	-	51,419,495	1.78
合計(純資産総額)		2,894,210,842	100.00

その他以下の取引を行っております。

種類	買建/ 売建	国/地域	時価合計(円)	投資比率 (%)
為替予約取引	買建	-	55,343,585	1.91

為替予約取引	売建	-	55,015,989	1.90
--------	----	---	------------	------

外国債券マザーファンド(A号)

2023年6月30日現在

資産の種類	国/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
国債証券	アメリカ	2,739,743,291	42.55
	スペイン	930,333,209	14.45
	フランス	780,188,177	12.12
	イギリス	517,670,069	8.04
	イタリア	178,296,552	2.77
	中国	111,744,923	1.74
	オーストラリア	100,156,170	1.56
	オランダ	94,420,996	1.47
	カナダ	81,621,457	1.27
	ドイツ	62,590,004	0.97
	メキシコ	54,006,086	0.84
	ベルギー	51,335,189	0.80
	アイルランド	44,578,168	0.69
	シンガポール	31,757,650	0.49
	イスラエル	25,100,004	0.39
	ポーランド	24,011,352	0.37
	マレーシア	19,309,792	0.30
スウェーデン	13,666,809	0.21	
	小計	5,860,529,898	91.01
地方債証券	カナダ	36,518,838	0.57
特殊債券	日本	72,450,296	1.13
社債券	日本	344,232,720	5.35
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	-	125,648,608	1.94
合計(純資産総額)		6,439,380,360	100.00

その他以下の取引を行っております。

種類	買建/ 売建	国/地域	時価合計(円)	投資比率 (%)
為替予約取引	買建	-	595,219,981	9.24
為替予約取引	売建	-	575,712,127	8.94

(2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

国内株式マザーファンド(A号)

イ 主要投資銘柄(上位30銘柄)

2023年6月30日現在

国/ 地域	種類	銘柄名	業種	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
日本	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	23,100	1,973.61	45,590,452	2,308.50	53,326,350	4.49

日本	株式	三菱UFJ フィナンシャル・グループ	銀行業	44,700	836.30	37,382,757	1,065.00	47,605,500	4.01
日本	株式	オリエンタル ランド	サービス 業	6,600	4,154.85	27,422,006	5,601.00	36,966,600	3.11
日本	株式	ソニーグルー プ	電気機器	2,800	11,316.37	31,685,829	12,965.00	36,302,000	3.06
日本	株式	日本電信電話	情報・通 信業	205,000	151.78	31,114,484	170.50	34,952,500	2.94
日本	株式	キーエンス	電気機器	400	56,046.81	22,418,722	67,850.00	27,140,000	2.29
日本	株式	伊藤忠商事	卸売業	4,600	4,328.00	19,908,800	5,687.00	26,160,200	2.20
日本	株式	丸紅	卸売業	10,700	1,623.06	17,366,749	2,440.00	26,108,000	2.20
日本	株式	円谷フィール ズホールディ ングス	卸売業	7,700	2,339.18	18,011,713	2,987.00	22,999,900	1.94
日本	株式	ルネサスエレ クトロニクス	電気機器	7,600	1,395.96	10,609,298	2,701.50	20,531,400	1.73
日本	株式	ダイキン工業	機械	700	23,228.52	16,259,963	29,265.00	20,485,500	1.73
日本	株式	デンソー	輸送用機 器	2,100	7,472.62	15,692,495	9,645.00	20,254,500	1.71
日本	株式	東京海上ホー ルディングス	保険業	5,900	2,831.35	16,704,937	3,315.00	19,558,500	1.65
日本	株式	三井住友トラ スト・ホール ディングス	銀行業	3,800	4,482.67	17,034,153	5,113.00	19,429,400	1.64
日本	株式	セイノーホー ルディングス	陸運業	9,400	1,500.59	14,105,499	2,045.00	19,223,000	1.62
日本	株式	関西電力	電気・ガ ス業	10,400	1,285.64	13,370,702	1,805.50	18,777,200	1.58
日本	株式	日立製作所	電気機器	2,000	7,182.09	14,364,179	8,896.00	17,792,000	1.50
日本	株式	第一三共	医薬品	3,700	4,506.33	16,673,404	4,550.00	16,835,000	1.42
日本	株式	日清食品ホー ルディングス	食料品	1,400	10,577.86	14,809,010	11,910.00	16,674,000	1.40
日本	株式	東京エレクト ロン	電気機器	800	15,581.06	12,464,845	20,560.00	16,448,000	1.39
日本	株式	武田薬品工業	医薬品	3,600	4,173.63	15,025,056	4,527.00	16,297,200	1.37
日本	株式	日本電気	電気機器	2,300	5,112.60	11,758,991	6,965.00	16,019,500	1.35
日本	株式	エーザイ	医薬品	1,600	9,067.79	14,508,464	9,724.00	15,558,400	1.31
日本	株式	日置電機	電気機器	1,600	7,059.56	11,295,300	9,340.00	14,944,000	1.26
日本	株式	ファーストリ テイリング	小売業	400	28,190.00	11,276,000	36,720.00	14,688,000	1.24
日本	株式	ニフコ	化学	3,400	3,842.28	13,063,744	4,259.00	14,480,600	1.22
日本	株式	マツダ	輸送用機 器	10,100	1,226.59	12,388,559	1,393.50	14,074,350	1.19
日本	株式	イビデン	電気機器	1,700	5,409.13	9,195,528	8,100.00	13,770,000	1.16
日本	株式	トプコン	精密機器	6,500	1,725.10	11,213,140	2,108.00	13,702,000	1.15
日本	株式	ディスコ	機械	600	13,616.67	8,170,002	22,610.00	13,566,000	1.14

□ 種類別・業種別投資比率

2023年6月30日現在

種類	業種	投資比率(%)
株式(国内)	鉱業	0.96

建設業	1.32
食料品	2.09
繊維製品	1.05
パルプ・紙	0.22
化学	4.04
医薬品	5.25
ガラス・土石製品	0.86
鉄鋼	0.48
非鉄金属	0.75
機械	8.52
電気機器	19.81
輸送用機器	9.56
精密機器	1.61
その他製品	1.66
電気・ガス業	1.58
陸運業	3.47
海運業	0.23
空運業	0.55
倉庫・運輸関連業	0.56
情報・通信業	7.18
卸売業	7.18
小売業	3.82
銀行業	5.65
証券、商品先物取引業	1.42
保険業	2.13
不動産業	0.48
サービス業	5.77
合計	98.22

国内債券マザーファンド（B号）

イ 主要投資銘柄（上位30銘柄）

2023年6月30日現在

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿単 価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	利率 (%)	償還期限	投資 比率 (%)
日本	国債 証券	4 4 6 2年国債	19,000,000,000	100.09	19,017,809,500	100.16	19,029,830,000	0.005	2025/03/01	6.77
日本	国債 証券	4 4 9 2年国債	18,050,000,000	100.15	18,076,817,000	100.16	18,079,241,000	0.005	2025/06/01	6.44
日本	国債 証券	1 4 9 20年国 債	10,010,000,000	108.57	10,868,261,300	110.68	11,079,268,200	1.500	2034/06/20	3.94
日本	国債 証券	4 4 7 2年国債	9,500,000,000	100.08	9,507,210,000	100.16	9,514,915,000	0.005	2025/04/01	3.39
日本	国債 証券	3 5 4 10年国 債	9,050,000,000	98.79	8,940,495,000	99.97	9,047,375,500	0.100	2029/03/20	3.22

日本	国債証券	183 20年国債	7,000,000,000	104.77	7,333,748,000	107.22	7,505,120,000	1.400	2042/12/20	2.67
日本	国債証券	156 5年国債	6,800,000,000	100.48	6,832,348,000	100.78	6,853,040,000	0.200	2027/12/20	2.44
日本	国債証券	182 20年国債	5,465,000,000	97.82	5,345,892,000	102.11	5,580,038,250	1.100	2042/09/20	1.99
日本	国債証券	141 20年国債	4,520,000,000	109.96	4,970,192,000	112.37	5,079,033,600	1.700	2032/12/20	1.81
日本	国債証券	173 20年国債	4,850,000,000	88.29	4,282,210,500	92.44	4,483,194,500	0.400	2040/06/20	1.60
日本	国債証券	364 10年国債	4,300,000,000	96.47	4,148,347,000	98.51	4,236,102,000	0.100	2031/09/20	1.51
日本	国債証券	167 20年国債	4,330,000,000	92.42	4,001,637,000	95.81	4,148,356,500	0.500	2038/12/20	1.48
日本	国債証券	753 0年国債	3,850,000,000	97.11	3,738,735,000	100.96	3,886,767,500	1.300	2052/06/20	1.38
日本	国債証券	165 20年国債	4,000,000,000	92.69	3,707,720,000	96.38	3,855,080,000	0.500	2038/06/20	1.37
日本	国債証券	453 0年国債	3,250,000,000	104.10	3,383,315,000	108.64	3,530,930,000	1.500	2044/12/20	1.26
日本	国債証券	145 20年国債	3,060,000,000	110.17	3,371,052,600	112.46	3,441,184,200	1.700	2033/06/20	1.22
日本	国債証券	673 0年国債	3,980,000,000	81.67	3,250,289,000	85.51	3,403,337,800	0.600	2050/06/20	1.21
日本	国債証券	353 10年国債	3,350,000,000	98.83	3,310,805,000	100.03	3,350,904,500	0.100	2028/12/20	1.19
日本	国債証券	703 0年国債	3,800,000,000	83.39	3,168,744,000	87.24	3,315,234,000	0.700	2051/03/20	1.18
日本	国債証券	164 20年国債	3,260,000,000	93.34	3,042,934,900	96.62	3,149,909,800	0.500	2038/03/20	1.12
日本	国債証券	136 20年国債	2,800,000,000	108.71	3,043,880,000	111.04	3,109,036,000	1.600	2032/03/20	1.11
日本	国債証券	154 0年国債	3,400,000,000	86.52	2,941,584,000	88.95	3,024,368,000	1.000	2062/03/20	1.08
日本	国債証券	170 20年国債	3,100,000,000	88.26	2,736,107,000	91.83	2,846,854,000	0.300	2039/09/20	1.01
日本	社債券	112 住友不動産	2,700,000,000	100.00	2,700,000,000	100.36	2,709,765,900	0.490	2028/08/09	0.96

日本	国債証券	163 20年国債	2,250,000,000	94.72	2,131,290,000	98.30	2,211,727,500	0.600	2037/12/20	0.79
日本	国債証券	184 20年国債	2,100,000,000	101.63	2,134,149,000	101.73	2,136,330,000	1.100	2043/03/20	0.76
日本	国債証券	175 20年国債	2,250,000,000	89.28	2,008,800,000	93.40	2,101,455,000	0.500	2040/12/20	0.75
日本	社債券	92 東 日本高速 道	2,100,000,000	99.91	2,098,051,200	100.00	2,099,897,100	0.051	2024/06/20	0.75
日本	国債証券	593 0年国債	2,150,000,000	85.81	1,844,807,500	90.05	1,936,053,500	0.700	2048/06/20	0.69
日本	社債券	339 北陸電力	2,100,000,000	92.29	1,938,153,000	92.10	1,934,186,100	0.500	2035/08/24	0.69

□ 種類別投資比率

2023年6月30日現在

種類	投資比率（％）
国債証券	62.92
地方債証券	1.93
特殊債券	6.52
社債券	24.48
合計	95.85

外国株式マザーファンド（A号）

イ 主要投資銘柄（上位30銘柄）

2023年6月30日現在

国/ 地域	種類	銘柄名	業種	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
アメリカ	株式	NVIDIA CORP	半導体・ 半導体製 造装置	2,504	25,804.33	64,614,049	59,187.82	148,206,295	5.12
アメリカ	株式	ALPHABET INC-CL A	メディア ・エンタ メ	7,445	13,777.86	102,576,170	17,268.31	128,562,560	4.44
アメリカ	株式	MICROSOFT CORP	ソフト ウェア・ サービス	2,394	37,637.38	90,103,889	48,578.90	116,297,885	4.02
アメリカ	株式	ELI LILLY & CO	医薬品・ バイオテ クノロ ジー・ラ イフサイ エンス	1,082	52,087.59	56,358,771	67,346.41	72,868,810	2.52
アメリカ	株式	FORTINET INC	ソフト ウェア・ サービス	6,116	7,882.45	48,209,069	10,887.30	66,586,721	2.30
アメリカ	株式	VISA INC-CLASS A SHARES	金融サー ビス	1,618	30,975.19	50,117,855	33,974.06	54,970,023	1.90

イギリス	株式	ASTRAZENECA PLC	医薬品・ バイオテ クノロ ジー・ラ イフサイ エンス	2,629	20,746.61	54,542,830	20,556.26	54,042,412	1.87
アメリカ	株式	SYNOPSYS INC	ソフト ウェア・ サービス	817	48,230.65	39,404,439	62,041.22	50,687,677	1.75
アイル ランド	株式	ACCENTURE PLC- CL A	ソフト ウェア・ サービス	1,123	42,151.71	47,336,374	44,704.77	50,203,453	1.73
アメリカ	株式	HOME DEPOT INC	一般消費 財・サー ビス流 通・小売 り	1,121	48,152.97	53,979,478	44,630.82	50,031,151	1.73
アメリカ	株式	META PLATFORMS INC-CLASS A	メディ ア・娯楽	1,200	20,728.31	24,873,971	40,819.03	48,982,841	1.69
アメリカ	株式	ADOBE INC	ソフト ウェア・ サービス	673	49,370.94	33,226,642	70,141.81	47,205,439	1.63
アメリカ	株式	ANSYS INC	ソフト ウェア・ サービス	938	37,273.49	34,962,530	47,273.99	44,343,002	1.53
フラン ス	株式	SCHNEIDER ELECTRIC SE	資本財	1,725	22,026.21	37,995,210	25,685.65	44,307,742	1.53
アメリカ	株式	SERVICENOW INC	ソフト ウェア・ サービス	556	60,662.37	33,728,275	79,466.12	44,183,162	1.53
アメリカ	株式	ROCKWELL AUTOMATION INC	資本財	939	39,058.26	36,675,707	47,011.56	44,143,852	1.53
アメリカ	株式	INTUIT INC	ソフト ウェア・ サービス	659	60,649.30	39,967,888	66,089.34	43,552,876	1.50
フラン ス	株式	LVMH MOET HENNESSY LOUIS VUI	耐久消費 財・アパ レル	322	115,025.07	37,038,072	134,748.00	43,388,856	1.50
アメリカ	株式	THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	医薬品・ バイオテ クノロ ジー・ラ イフサイ エンス	563	82,209.91	46,284,180	74,581.41	41,989,331	1.45
フラン ス	株式	L'OREAL	家庭用 品・パー ソナル用 品	606	58,417.09	35,400,755	66,144.72	40,083,700	1.38
アメリカ	株式	JPMORGAN CHASE & CO	銀行	1,793	19,359.19	34,711,035	20,795.92	37,287,076	1.29
フラン ス	株式	AIR LIQUIDE SA	素材	1,441	22,748.45	32,780,511	25,720.32	37,062,981	1.28

アメリカ	株式	IQVIA HOLDINGS INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	1,141	30,992.08	35,361,957	32,103.69	36,630,305	1.27
アメリカ	株式	INTUITIVE SURGICAL INC	ヘルスケア機器・サービス	740	40,691.44	30,111,668	49,077.67	36,317,472	1.25
アメリカ	株式	ARES MANAGEMENT CORP - A	金融サービス	2,569	11,196.82	28,764,642	13,865.39	35,620,196	1.23
アメリカ	株式	KEYSIGHT TECHNOLOGIES INC	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	1,481	26,444.03	39,163,612	23,972.65	35,503,489	1.23
アメリカ	株式	EOG RESOURCES INC	エネルギー	2,132	18,218.71	38,842,290	16,383.87	34,930,410	1.21
香港	株式	AIA GROUP LTD	保険	23,400	1,555.85	36,406,890	1,474.45	34,502,130	1.19
アメリカ	株式	STRYKER CORP	ヘルスケア機器・サービス	758	36,834.30	27,920,398	43,753.63	33,165,253	1.15
アメリカ	株式	LULULEMON ATHLETICA INC	耐久消費財・アパレル	609	47,632.01	29,007,892	53,684.00	32,693,554	1.13

□ 種類別・業種別投資比率

2023年6月30日現在

種類	業種	投資比率（％）
株式（外国）	エネルギー	2.37
	素材	4.04
	資本財	9.24
	商業・専門サービス	1.97
	運輸	0.80
	自動車・自動車部品	1.89
	耐久消費財・アパレル	4.26
	消費者サービス	4.02
	一般消費財・サービス流通・小売り	1.73
	生活必需品流通・小売り	0.39
	食品・飲料・タバコ	2.78
	家庭用品・パーソナル用品	2.27
	ヘルスケア機器・サービス	5.45
	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	10.24
	銀行	2.10
	金融サービス	8.68
	保険	2.15
ソフトウェア・サービス	16.59	
テクノロジー・ハードウェアおよび機器	1.66	

	半導体・半導体製造装置	8.41
	公益事業	0.53
	メディア・娯楽	6.65
合計		98.22

外国債券マザーファンド(A号)

イ 主要投資銘柄(上位30銘柄)

2023年6月30日現在

国/地域	種類	銘柄名	数量	帳簿単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	利率 (%)	償還期限	投資 比率 (%)
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	4,090,000	9,646.28	394,532,990	9,328.22	381,524,264	1.125	2040/05/15	5.92
スペイン	国債 証券	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	2,120,000	15,224.72	322,764,090	15,212.50	322,504,949	0.250	2024/07/30	5.01
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	2,100,000	13,475.00	282,974,929	13,259.48	278,449,090	2.750	2032/08/15	4.32
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	1,890,000	13,512.34	255,383,283	13,439.56	254,007,647	1.625	2026/02/15	3.94
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	1,660,000	14,138.59	234,700,673	14,149.43	234,880,523	2.125	2024/03/31	3.65
スペイン	国債 証券	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	1,560,000	14,915.07	232,675,108	14,977.52	233,649,249	3.450	2043/07/30	3.63
フランス	国債 証券	FRANCE OAT.	1,290,000	18,465.36	238,203,164	17,347.98	223,788,911	4.000	2038/10/25	3.48
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	1,790,000	12,366.37	221,358,081	12,038.37	215,486,907	2.875	2043/05/15	3.35
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	1,570,000	14,014.33	220,025,034	13,622.83	213,878,359	2.750	2028/02/15	3.32
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	1,680,000	12,559.06	210,992,276	12,533.37	210,560,625	0.500	2027/05/31	3.27
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	1,530,000	12,724.08	194,678,432	12,607.90	192,900,800	1.375	2028/10/31	3.00
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	1,400,000	13,656.17	191,186,423	13,484.07	188,776,980	2.250	2027/02/15	2.93
日本	社債 券	MITSUBISHI UFJ FIN GRP	1,220,000	14,472.61	176,565,864	14,322.84	174,738,613	5.063	2025/09/12	2.71
日本	社債 券	MIZUHO FINANCIAL GROUP	1,170,000	14,125.80	165,271,810	14,486.68	169,494,107	1.241	2023/07/10	2.63
フランス	国債 証券	FRANCE OAT.	1,240,000	13,346.42	165,495,570	13,183.56	163,476,084	0.000	2029/11/25	2.54
スペイン	国債 証券	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	990,000	15,002.23	148,522,082	14,779.57	146,317,746	1.500	2027/04/30	2.27
イギリス	国債 証券	UK GILT	700,000	17,693.83	123,856,784	17,679.37	123,755,612	1.000	2024/04/22	1.92
スペイン	国債 証券	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	1,090,000	11,196.88	122,046,007	10,998.27	119,881,182	0.850	2037/07/30	1.86
アメリカ	国債 証券	US TREASURY N/B	790,000	13,602.65	107,460,901	13,491.90	106,586,005	2.750	2029/05/31	1.66

オランダ	国債証券	NETHERLANDS GOVERNMENT	650,000	14,883.11	96,740,238	14,526.31	94,420,996	0.750	2027/07/15	1.47
フランス	国債証券	FRANCE OAT.	720,000	12,851.65	92,531,877	12,440.94	89,574,796	0.000	2031/11/25	1.39
イギリス	国債証券	UK GILT	520,000	17,057.89	88,701,038	16,884.82	87,801,071	0.250	2025/01/31	1.36
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	620,000	14,478.39	89,766,017	14,057.22	87,154,735	3.500	2030/01/31	1.35
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	670,000	12,164.37	81,501,285	11,930.50	79,934,364	1.375	2031/11/15	1.24
フランス	国債証券	FRANCE OAT.	540,000	13,996.61	75,581,713	13,996.77	75,582,564	2.500	2043/05/25	1.17
イタリア	国債証券	BUONI POLIENNALI DEL TES	500,000	15,334.64	76,673,188	15,074.91	75,374,564	2.800	2028/12/01	1.17
フランス	国債証券	FRANCE OAT.	580,000	13,212.08	76,630,068	12,808.31	74,288,195	0.000	2030/11/25	1.15
日本	特殊債券	DEVELOPMENT BK OF JAPAN	500,000	14,581.31	72,906,548	14,490.06	72,450,296	0.010	2025/09/09	1.13
フランス	国債証券	FRANCE OAT.	580,000	12,460.41	72,270,364	12,245.84	71,025,844	0.000	2032/05/25	1.10
イギリス	国債証券	UK GILT	450,000	15,628.53	70,328,376	14,596.30	65,683,349	0.500	2029/01/31	1.02

□ 種類別投資比率

2023年6月30日現在

種類	投資比率(%)
国債証券	91.01
地方債証券	0.57
特殊債券	1.13
社債券	5.35
合計	98.05

投資不動産物件

国内株式マザーファンド（A号）

該当事項はありません。

国内債券マザーファンド（B号）

該当事項はありません。

外国株式マザーファンド（A号）

該当事項はありません。

外国債券マザーファンド（A号）

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

国内株式マザーファンド（A号）

該当事項はありません。

国内債券マザーファンド（B号）

2023年6月30日現在

種類	国/ 地域	取引所 等	名称	買建/ 売建	数量	通貨	簿価 (円)	時価 (円)	投資 比率 (%)
債券先物 取引	日本	大阪取引 所	長国 先 0 5 0 9 月 2 0 2 3 年 9 月	買建	59	日本・円	8,739,910,860	8,764,450,000	3.12

（注）主たる取引所の発表する清算値段又は最終相場で評価しております。

外国株式マザーファンド（A号）

2023年6月30日現在

種類	資産の名称	買建/ 売建	数量	簿価 (円)	時価 (円)	投資 比率 (%)
為替予約 取引	アメリカ・ドル	買建	226,142.79	32,755,041	32,773,562	1.13
	ユーロ	買建	101,356.64	15,954,092	15,968,900	0.55
	イギリス・ポンド	買建	36,097.24	6,594,391	6,601,123	0.23
	アメリカ・ドル	売建	203,904.03	29,533,928	29,550,628	1.02
	イギリス・ポンド	売建	48,792.14	8,913,548	8,922,647	0.31
	スイス・フラン	売建	51,893.34	8,355,933	8,363,379	0.29
	ユーロ	売建	51,915.28	8,171,750	8,179,335	0.28

（注）日本における対顧客先物相場の仲値で評価しております。

外国債券マザーファンド（A号）

2023年6月30日現在

種類	資産の名称	買建/ 売建	数量	簿価 (円)	時価 (円)	投資 比率 (%)
為替予約 取引	アメリカ・ドル	買建	1,285,000.00	180,248,487	184,140,500	2.86
	オフショア・人民元	買建	8,544,000.00	165,722,986	169,383,091	2.63
	イギリス・ポンド	買建	535,000.00	93,317,589	96,757,425	1.50
	ユーロ	買建	483,000.00	71,206,410	75,517,050	1.17
	デンマーク・クローネ	買建	1,400,000.00	27,731,732	29,414,000	0.46
	ノルウェー・クローネ	買建	1,064,000.00	13,200,994	14,156,520	0.22
	カナダ・ドル	買建	125,000.00	12,817,516	13,524,375	0.21
	ニュージーランド・ドル	買建	142,000.00	11,830,769	12,327,020	0.19
	イギリス・ポンド	売建	1,871,000.00	320,323,314	338,379,705	5.25
	ユーロ	売建	810,000.00	124,824,596	126,643,500	1.97
	アメリカ・ドル	売建	700,000.00	96,627,524	100,310,000	1.56
	イスラエル・シェケル	売建	132,000.00	4,942,902	5,123,382	0.08
	オーストラリア・ドル	売建	35,000.00	3,216,072	3,319,750	0.05
	スウェーデン・クローナ	売建	120,000.00	1,513,178	1,590,000	0.02
	メキシコ・ペソ	売建	42,000.00	325,179	345,790	0.01

（注）日本における対顧客先物相場の仲値で評価しております。

参考情報

基準日:2023年6月30日

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。
※委託会社ホームページにおいてもファンドの運用状況は適宜開示しています。

基準価額・純資産の推移

■(安定型)



分配の推移

決算期	分配金
2022年12月	0円
2021年12月	0円
2020年12月	0円
2019年12月	0円
2018年12月	0円
設定来累計	0円

※分配金は1万口当たり、税引前です。
※直近5計算期間を記載しています。

■(安定成長型)



決算期	分配金
2022年12月	0円
2021年12月	0円
2020年12月	0円
2019年12月	0円
2018年12月	0円
設定来累計	0円

※分配金は1万口当たり、税引前です。
※直近5計算期間を記載しています。

■(成長型)



決算期	分配金
2022年12月	0円
2021年12月	0円
2020年12月	0円
2019年12月	0円
2018年12月	0円
設定来累計	0円

※分配金は1万口当たり、税引前です。
※直近5計算期間を記載しています。

※基準価額は、1万口当たり、信託報酬控除後です。

主要な資産の状況

■(安定型)

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
親投資信託受益証券	日本	94.13
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		5.87
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	比率(%)
日本	親投資信託受益証券	国内債券マザーファンド(B号)	53.87
日本	親投資信託受益証券	国内株式マザーファンド(A号)	18.23
日本	親投資信託受益証券	外国債券マザーファンド(A号)	13.27
日本	親投資信託受益証券	外国株式マザーファンド(A号)	8.76

■(安定成長型)

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
親投資信託受益証券	日本	93.73
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		6.27
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	比率(%)
日本	親投資信託受益証券	国内債券マザーファンド(B号)	36.94
日本	親投資信託受益証券	国内株式マザーファンド(A号)	32.45
日本	親投資信託受益証券	外国株式マザーファンド(A号)	15.31
日本	親投資信託受益証券	外国債券マザーファンド(A号)	9.03

■(成長型)

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
親投資信託受益証券	日本	94.36
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		5.64
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	比率(%)
日本	親投資信託受益証券	国内株式マザーファンド(A号)	44.31
日本	親投資信託受益証券	外国株式マザーファンド(A号)	23.10
日本	親投資信託受益証券	国内債券マザーファンド(B号)	21.01
日本	親投資信託受益証券	外国債券マザーファンド(A号)	5.94

■国内株式マザーファンド(A号)

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
株式	日本	98.22
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		1.78
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	業種	比率(%)
日本	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	4.49
日本	株式	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	4.01
日本	株式	オリエンタルランド	サービス業	3.11
日本	株式	ソニーグループ	電気機器	3.06
日本	株式	日本電信電話	情報・通信業	2.94
日本	株式	キーエンス	電気機器	2.29
日本	株式	伊藤忠商事	卸売業	2.20
日本	株式	丸紅	卸売業	2.20
日本	株式	円谷フィールズホールディングス	卸売業	1.94
日本	株式	ルネサスエレクトロニクス	電気機器	1.73

※比率は、ファンド、マザーファンドのそれぞれの純資産総額に対する時価の比率です。

※「主要投資銘柄(上位10銘柄)」は組入る有価証券が10銘柄に満たない場合はすべてを記載しています。

■国内債券マザーファンド(B号)

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
国債証券	日本	62.92
社債券	日本	24.48
特殊債券	日本	6.52
地方債証券	日本	1.93
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		4.15
合計(純資産総額)		100.00

※債券先物取引の買建て 3.12%

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	利率(%)	償還期限	比率(%)
日本	国債証券	446 2年国債	0.005	2025/03/01	6.77
日本	国債証券	449 2年国債	0.005	2025/06/01	6.44
日本	国債証券	149 20年国債	1.500	2034/06/20	3.94
日本	国債証券	447 2年国債	0.005	2025/04/01	3.39
日本	国債証券	354 10年国債	0.100	2029/03/20	3.22
日本	国債証券	183 20年国債	1.400	2042/12/20	2.67
日本	国債証券	156 5年国債	0.200	2027/12/20	2.44
日本	国債証券	182 20年国債	1.100	2042/09/20	1.99
日本	国債証券	141 20年国債	1.700	2032/12/20	1.81
日本	国債証券	173 20年国債	0.400	2040/06/20	1.60

■外国株式マザーファンド(A号)

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
株式	アメリカ	71.71
	フランス	7.31
	アイルランド	4.36
	スイス	4.03
	イギリス	3.55
	香港	2.45
	オランダ	2.27
	その他	2.53
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		1.78
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	業種	比率(%)
アメリカ	株式	NVIDIA CORP	半導体・半導体製造装置	5.12
アメリカ	株式	ALPHABET INC-CL A	メディア・娯楽	4.44
アメリカ	株式	MICROSOFT CORP	ソフトウェア・サービス	4.02
アメリカ	株式	ELI LILLY & CO	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	2.52
アメリカ	株式	FORTINET INC	ソフトウェア・サービス	2.30
アメリカ	株式	VISA INC-CLASS A SHARES	金融サービス	1.90
イギリス	株式	ASTRAZENECA PLC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	1.87
アメリカ	株式	SYNOPSYS INC	ソフトウェア・サービス	1.75
アイルランド	株式	ACCENTURE PLC-CL A	ソフトウェア・サービス	1.73
アメリカ	株式	HOME DEPOT INC	一般消費財・サービス流通・小売り	1.73

■外国債券マザーファンド(A号)

資産別構成

資産の種類	国・地域	比率(%)
国債証券	アメリカ	42.55
	スペイン	14.45
	フランス	12.12
	イギリス	8.04
	その他	13.86
社債券	日本	5.35
特殊債券	日本	1.13
地方債証券	カナダ	0.57
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		1.94
合計(純資産総額)		100.00

主要投資銘柄(上位10銘柄)

国・地域	種類	銘柄名	利率(%)	償還期限	比率(%)
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	1.125	2040/05/15	5.92
スペイン	国債証券	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	0.250	2024/07/30	5.01
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	2.750	2032/08/15	4.32
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	1.625	2026/02/15	3.94
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	2.125	2024/03/31	3.65
スペイン	国債証券	BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	3.450	2043/07/30	3.63
フランス	国債証券	FRANCE OAT.	4.000	2038/10/25	3.48
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	2.875	2043/05/15	3.35
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	2.750	2028/02/15	3.32
アメリカ	国債証券	US TREASURY N/B	0.500	2027/05/31	3.27

※比率は、マザーファンドのそれぞれの純資産総額に対する時価の比率です。

年間収益率の推移(暦年ベース)

■(安定型)



■(安定成長型)



■(成長型)



※ファンドの収益率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算しています。分配実績がない場合は、基準価額の騰落率です。
 ※2023年の収益率は、年初から基準日までの騰落率です。
 ※複合ベンチマークの情報は参考情報であり、ファンドの運用実績ではありません。

第2【管理及び運営】

1【申込(販売)手続等】

イ 申込方法

(イ) ファンドの取得申込者は、お申込みを取り扱う販売会社取引口座を開設の上、当ファンドの取得申込みを行っていただきます。

当ファンドには、「分配金受取りコース」と「分配金自動再投資コース」の2つの申込方法がありますが、販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。販売会社によっては、「スイッチング」(ある投資信託の換金による手取額をもって、他の投資信託を買い付けること)による当ファンドの取得申込みを取り扱う場合があります。お申込みの販売会社にお問い合わせください。

(ロ) 原則として午後3時までに取得申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込受付分とします。

なお、取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得申込みの受け付けを中止させていただく場合、既に受け付けた取得申込みを取り消させていただく場合があります。

- (八) 当ファンドの取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。
- 販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。
- ファンドのお買付けに関しましては、クーリング・オフ制度の適用はありません。
- (二) 定時定額で取得申込みをする「定時定額購入サービス」（販売会社によっては、名称が異なる場合があります。）を利用する場合は、販売会社との間で「定時定額購入サービス」に関する契約を締結します。詳細については、お申込みの販売会社にお問い合わせください。

ロ 申込価額

取得申込受付日の翌営業日の基準価額となります。

ただし、累積投資契約に基づく収益分配金の再投資の場合は、各計算期末の基準価額となります。

ハ 申込手数料

ありません。

ニ 申込単位

お申込単位の詳細は、取扱いの販売会社にお問い合わせください。

ホ 照会先

手続き等のご不明な点についての委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	コールセンター	ホームページ
三井住友D Sアセットマネジメント株式会社	0120-88-2976	https://www.smd-am.co.jp

お問い合わせは、午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）までとさせていただきます。

ヘ 申込取扱場所・払込取扱場所

販売会社において申込み・払込みを取り扱います。

ト 払込期日

取得申込者は、申込金額（取得申込受付日の翌営業日の基準価額×申込口数）を、販売会社の指定の期日までに、指定の方法でお支払いください。

各取得申込みにかかる発行価額の総額は、追加信託が行われる日に、委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

2【換金（解約）手続等】

受益者は、自己に帰属する受益権につき、解約請求（一部解約の実行請求）により換金することができます。

お買付けの販売会社にお申し出ください。

解約請求のお申込みに関しては、原則として午後3時までに解約請求のお申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の解約請求受付分とします。

なお、信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金申込みに制限を設ける場合があります。

解約請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるファンドの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引換えに、当該解約請求にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定に従い当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

一部解約金は、解約請求受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

一部解約価額は、解約請求受付日の翌営業日の基準価額となります。

解約単位の詳細および一部解約価額につきましては、お申込みの販売会社にお問い合わせください。

委託会社は、取引所等における取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受け付けを中止すること、および既に受け付けた一部解約の実行請求を取り消すことがあります。この場合、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして、上記に準じた取扱いとなります。

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

イ 基準価額の算出方法

基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入れ有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます（基準価額は、便宜上1万口単位で表示される場合があります。）。投資対象とする親投資信託受益証券は、当該親投資信託受益証券の基準価額で評価します。なお、外貨建資産の円換算については、原則として日本における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算するものとします。また、予約為替の評価は、原則として日本における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

<主要投資対象の評価方法>

主要投資対象	有価証券等の評価方法
株式、投資証券、債券等	(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 原則として、金融商品取引所、外国金融商品市場の最終相場で評価します。 (2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 原則として、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（売気配相場を除く。）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価します。
市場デリバティブ取引	原則として、金融商品取引所、外国金融商品市場の発表する清算値段または最終相場で評価します。

国内で取引される資産については原則として基準価額計算日の値、外国で取引される資産については原則として基準価額計算日に知りうる直近の日の値で評価します。

ロ 基準価額の算出頻度・照会方法

基準価額は、委託会社の営業日において日々算出されます。

基準価額は、販売会社または委託会社にお問い合わせいただけるほか、原則として翌日付の日本経済新聞朝刊の証券欄「オープン基準価格」の紙面に、それぞれ「DC安定」、「DC安成」、「DC成長」として掲載されます。

委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	コールセンター	ホームページ
三井住友D Sアセットマネジメント株式会社	0120-88-2976	https://www.smd-am.co.jp

お問い合わせは、午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）までとさせていただきます。

(2)【保管】

ファンドの受益権は社振法の規定の適用を受け、受益権の帰属は振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まるため、原則として受益証券は発行されません。したがって、受益証券の保管に関する該当事項はありません。

(3)【信託期間】

2001年10月4日から下記「(5)その他 イ 信託の終了」に記載された各事由が生じた場合における信託終了の日までとなります。

(4)【計算期間】

毎年12月16日から翌年12月15日までとすることを原則としますが、各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始するものとします。なお、最終計算期間の終了日は、信託期間の終了日とします。

(5)【その他】

イ 信託の終了

(イ) 信託契約の解約

- a. 委託会社は、当ファンドの信託契約を解約することが受益者にとって有利であると認めるとき、その他やむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意の上、当ファンドの信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- b. 委託会社は、上記aの事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面を当ファンドの知られたる受益者に対して交付します。ただし、当ファンドのすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。
- c. 上記bの公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- d. 上記cの一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の2分の1を超えるときは、信託契約の解約をしません。
- e. 委託会社は、当ファンドの信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- f. 上記c～eまでの取扱いは、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記cの一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。

(ロ) 信託契約に関する監督官庁の命令

委託会社は、監督官庁より当ファンドの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令に従い信託契約を解約し、信託を終了させます。

(ハ) 委託会社の登録取消等に伴う取扱い

委託会社が、監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は当ファンドの信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁が当ファンドに関する委託会社の業務を他の委託会社に引継ぐことを命じたときは、当ファンドは、その委託会社と受託会社との間において存続します。

(ニ) 受託会社の辞任および解任に伴う取扱い

- a. 受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。また、受託会社はその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。
- b. 上記により受託会社が辞任し、または解任された場合は、委託会社は新受託会社を選任します。
- c. 委託会社が新受託会社を選任できないとき、委託会社は当ファンドの信託契約を解約し、信託を終了させます。

ロ 収益分配金、償還金の支払い

(イ) 収益分配金

- a. 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。分配対象額が少額の場合等には委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
- b. 分配金は、原則として、税金を差し引いた後、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日(原則として決算日から起算して5営業日目まで)から、販売会社において、決算日の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払い前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として)に支払われます。

ただし、分配金自動再投資コースにかかる収益分配金は、原則として、税金を差し引いた後、累積投資契約に基づいて、毎計算期間終了日の翌営業日に無手数料で再投資され、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

(ロ) 償還金

償還金は、信託終了後1ヵ月以内の委託会社の指定する日(原則として償還日から起算して5営業日目まで)から、販売会社において、原則として、償還日の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として)に支払われます。

八 信託約款の変更

- (イ) 委託会社は、当ファンドの信託約款を変更することが受益者の利益のため必要と認めるとき、監督官庁より変更の命令を受けたとき、その他やむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意の上、当ファンドの信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨および内容を監督官庁に届け出ます。
- (ロ) 委託会社は、上記(イ)の変更事項のうち、その内容が重大なものについては、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を当ファンドの知られたる受益者に交付します。ただし、当ファンドのすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として公告を行いません。
- (ハ) 上記(ロ)の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- (ニ) 上記(ハ)の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の2分の1を超えるときは、(イ)の信託約款の変更をしません。
- (ホ) 委託会社は、信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

二 反対者の買取請求権

当ファンドの信託契約の解約または重大な信託約款の変更が行われる場合において、それぞれの手続きにおいて設けられる異議申立期間内に委託会社に異議を述べた受益者は、自己に帰属する受益権を、受託会社に信託財産をもって買い取るよう請求をすることができます。

ホ 販売会社との契約の更改等

委託会社と販売会社との間で締結される販売契約（名称の如何を問わず、ファンドの募集・販売の取扱い、受益者からの一部解約実行請求の受付け、受益者への収益分配金、一部解約金および償還金の支払事務等を規定するもの）は、期間満了の3ヵ月前に当事者のいずれからも、何らの意思表示もない場合は、自動的に1年間更新されます。販売契約の内容は、必要に応じて、委託会社と販売会社との合意により変更されることがあります。

ヘ 委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

委託会社の事業の全部または一部の譲渡、もしくは分割承継により、当ファンドに関する事業が譲渡・承継されることがあります。

ト 公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<https://www.smd-am.co.jp>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

チ 運用にかかる報告書の開示方法

委託会社は毎決算後、投資信託及び投資法人に関する法律の規定に従い、期中の運用経過のほか、信託財産の内容、有価証券売買状況などを記載した運用報告書（全体版）および運用報告書（全体版）の記載事項のうち重要なものを記載した交付運用報告書を作成します。

交付運用報告書は、原則として、あらかじめ受益者が申し出た住所に販売会社から届けられます。なお、運用報告書（全体版）は、委託会社のホームページで閲覧できます。

4【受益者の権利等】

委託会社の指図に基づく行為によりファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。当ファンドの受益権は、信託の日時を異にすることにより差異が生ずることはありません。

受益者の有する主な権利は次の通りです。

イ 分配金請求権

受益者は、委託会社の決定した収益分配金を持分にに応じて請求する権利を有します。

収益分配金は、原則として、税金を差し引いた後、毎計算期間終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して5営業日目まで）から、販売会社において、決算日の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払い前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としします。）に支払われます。

ただし、分配金自動再投資コースをお申込みの場合の収益分配金は、原則として、税金を差し引いた後、累積投資契約に基づき、毎計算期間終了日の翌営業日に無手数料で再投資され、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

収益分配金は、受益者が、その支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、受益者はその権利を失い、当該金銭は、委託会社に帰属します。

ロ 償還金請求権

受益者は、持分にに応じて償還金を請求する権利を有します。

償還金は、信託終了後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日から起算して5営業日目まで）から、販売会社において、原則として、償還日の振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としします。）に支払われます。

償還金は、受益者がその支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、受益者はその権

利を失い、当該金銭は、委託会社に帰属します。

八 一部解約実行請求権

受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に一部解約の実行を請求することができます。詳細は、前記「第2 管理及び運営 2 換金(解約)手続等」の記載をご参照ください。

二 信託約款変更等に対する異議申立権および受益権の買取請求権

委託会社が、当ファンドの解約(監督官庁の命令による解約等の場合を除きます。)または重大な信託約款の変更を行おうとする場合において、当該解約または信託約款変更に関する異議のある受益者は、それぞれの手続きにおいて設けられる異議申立期間中に異議を申し立てることができます。異議を申し立てた受益者の受益権の口数が、受益権の総口数の過半数となる場合は、当該解約または信託約款変更は行われません。

当該解約または信託約款変更が行われる場合において、前述の異議を申し立てた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買い取るべき旨の請求ができます。

ホ 帳簿閲覧・謄写請求権

受益者は委託会社に対し、当該受益者にかかる信託財産に関する書類の閲覧または謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

2. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第22期(2021年12月16日から2022年12月15日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

【三井住友・DCバランスファンド(安定型)】

(1)【貸借対照表】

(単位:円)

	第21期 (2021年12月15日現在)	第22期 (2022年12月15日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	117,135	275,915
コール・ローン	4,003,709	9,356,986
親投資信託受益証券	269,675,441	243,226,119
派生商品評価勘定	-	188,081
未収入金	564,409	580,918
流動資産合計	274,360,694	253,628,019
資産合計		
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	109,553	91,521
未払金	13,128	-
未払受託者報酬	152,176	137,552
未払委託者報酬	1,978,609	1,788,734
その他未払費用	7,555	6,848
流動負債合計	2,261,021	2,024,655
負債合計		
純資産の部		
元本等		
元本	195,245,058	195,248,223
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	76,854,615	56,355,141
(分配準備積立金)	36,689,344	33,217,707
元本等合計	272,099,673	251,603,364
純資産合計	272,099,673	251,603,364
負債純資産合計	274,360,694	253,628,019

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第21期		第22期	
	自	2020年12月16日	自	2021年12月16日
	至	2021年12月15日	至	2022年12月15日
営業収益				
受取利息		8		75
有価証券売買等損益		22,219,540		9,229,322
為替差損益		3,111,089		7,080,732
営業収益合計		19,108,459		16,309,979
営業費用				
支払利息		3,257		3,609
受託者報酬		300,926		280,031
委託者報酬		3,912,349		3,641,541
その他費用		15,329		14,063
営業費用合計		4,231,861		3,939,244
営業利益又は営業損失()		14,876,598		20,249,223
経常利益又は経常損失()		14,876,598		20,249,223
当期純利益又は当期純損失()		14,876,598		20,249,223
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()		1,466,447		1,139,032
期首剰余金又は期首欠損金()		62,409,238		76,854,615
剰余金増加額又は欠損金減少額		11,108,108		6,126,218
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		11,108,108		6,126,218
剰余金減少額又は欠損金増加額		10,072,882		7,515,501
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		10,072,882		7,515,501
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		-
分配金		-		-
期末剰余金又は期末欠損金()		76,854,615		56,355,141

(3) 【注記表】

(重要な会計方針の注記)

項 目	第22期	
	自 2021年12月16日 至 2022年12月15日	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>	
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。</p>	

(重要な会計上の見積りに関する注記)

会計上の見積りについて、翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目を識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

項 目	第21期	第22期
	(2021年12月15日現在)	(2022年12月15日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	195,245,058口	195,248,223口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.3936円 (1万口当たりの純資産額13,936円)	1口当たり純資産額 1.2886円 (1万口当たりの純資産額12,886円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項 目	第21期	第22期
	自 2020年12月16日 至 2021年12月15日	自 2021年12月16日 至 2022年12月15日

分配金の計算過程	<p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(2,090,668円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(11,319,483円)、収益調整金(58,489,904円)、および分配準備積立金(23,279,193円)より、分配対象収益は95,179,248円(1万口当たり4,874.86円)ですが、分配を行っておりません。</p>	<p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(0円)、収益調整金(61,988,156円)、および分配準備積立金(33,217,707円)より、分配対象収益は95,205,863円(1万口当たり4,876.14円)ですが、分配を行っておりません。</p>
----------	--	---

(金融商品に関する注記)

. 金融商品の状況に関する事項

項目	<p style="text-align: center;">第22期 自 2021年12月16日 至 2022年12月15日</p>
1. 金融商品に対する取組方針	<p>当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。</p>
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1) 金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、親投資信託受益証券を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。 当計算期間については、為替予約取引を行っております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2) 金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>

<p>3. 金融商品に係るリスク管理体制</p>	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。なお、投資信託協会の流動性リスク管理規制に抵触する場合には、流動性リスクを管理する会議で審議の上、流動性リスクの管理責任者が対処方針を決定します。その後、決定した対処方針やその実施等について、リスク管理会議に報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
<p>4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明</p>	<p>金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。</p>

・金融商品の時価等に関する事項

項目	第22期 (2022年12月15日現在)
<p>1. 貸借対照表計上額、時価及び差額</p>	<p>金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。</p>
<p>2. 時価の算定方法</p>	<p>(1) 有価証券（親投資信託受益証券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p> <p>(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

第21期（自 2020年12月16日 至 2021年12月15日）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	14,839,587円

合計	14,839,587円
----	-------------

第22期(自2021年12月16日至2022年12月15日)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	6,262,187円
合計	6,262,187円

(デリバティブ取引に関する注記)

第21期(2021年12月15日現在)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位:円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち 1年超		
市場取引以 外の取引	為替予約取引 売建				
	アメリカ・ドル	34,016,580	-	34,115,370	98,790
	ユーロ	13,202,447	-	13,213,210	10,763
	小計	47,219,027	-	47,328,580	109,553
合計		47,219,027	-	47,328,580	109,553

第22期(2022年12月15日現在)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位:円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち 1年超		
市場取引以 外の取引	為替予約取引 売建				
	アメリカ・ドル	20,948,235	-	20,760,154	188,081
	ユーロ	13,339,827	-	13,431,348	91,521
	小計	34,288,062	-	34,191,502	96,560
合計		34,288,062	-	34,191,502	96,560

(注)1.時価の算定方法

為替予約取引の時価の算定方法については以下のように評価しております。

- 1)計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。
- ・計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い受渡日として、発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。

2)計算期間末日において対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

2.ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

第22期 自 2021年12月16日 至 2022年12月15日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(その他の注記)

項 目	第21期 (2021年12月15日現在)	第22期 (2022年12月15日現在)
期首元本額	195,587,814円	195,245,058円
期中追加設定元本額	30,974,151円	19,184,342円
期中一部解約元本額	31,316,907円	19,181,177円

(4)【附属明細表】

有価証券明細表

(a)株式

該当事項はありません。

(b)株式以外の有価証券

(単位：円)

種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
親投資信託受 益証券	国内株式マザーファンド(A号)	28,329,523	45,143,094	
	外国株式マザーファンド(A号)	5,671,992	21,581,362	
	外国債券マザーファンド(A号)	10,940,493	32,790,845	
	国内債券マザーファンド(B号)	104,783,681	143,710,818	
	親投資信託受益証券 小計		243,226,119	
合 計			243,226,119	

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表(デリバティブ取引に関する注記)」に記載しております。

【三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)】

(1)【貸借対照表】

(単位:円)

	第21期 (2021年12月15日現在)	第22期 (2022年12月15日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	358,247	697,297
コール・ローン	12,245,044	23,647,121
親投資信託受益証券	717,847,862	692,562,753
派生商品評価勘定	-	642,404
未収入金	1,589,308	1,859,217
流動資産合計	732,040,461	719,408,792
資産合計		
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	373,432	234,215
未払金	40,195	-
未払受託者報酬	392,433	380,682
未払委託者報酬	5,101,908	4,949,303
その他未払費用	19,573	19,070
流動負債合計	5,927,541	5,583,270
負債合計		
純資産の部		
元本等		
元本	420,665,162	450,696,033
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	305,447,758	263,129,489
(分配準備積立金)	175,669,660	165,987,951
元本等合計	726,112,920	713,825,522
純資産合計	726,112,920	713,825,522
負債純資産合計	732,040,461	719,408,792

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第21期		第22期	
	自	2020年12月16日	自	2021年12月16日
	至	2021年12月15日	至	2022年12月15日
営業収益				
受取利息		21		223
有価証券売買等損益		87,779,663		26,145,109
為替差損益		8,900,921		23,372,261
営業収益合計		78,878,763		49,517,147
営業費用				
支払利息		7,278		10,618
受託者報酬		748,179		765,846
委託者報酬		9,726,543		9,957,054
その他費用		38,308		38,998
営業費用合計		10,520,308		10,772,516
営業利益又は営業損失()		68,358,455		60,289,663
経常利益又は経常損失()		68,358,455		60,289,663
当期純利益又は当期純損失()		68,358,455		60,289,663
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()		2,782,190		2,455,203
期首剰余金又は期首欠損金()		221,302,646		305,447,758
剰余金増加額又は欠損金減少額		33,787,382		33,143,977
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		33,787,382		33,143,977
剰余金減少額又は欠損金増加額		15,218,535		17,627,786
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		15,218,535		17,627,786
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		-
分配金		-		-
期末剰余金又は期末欠損金()		305,447,758		263,129,489

(3) 【注記表】

(重要な会計方針の注記)

項 目	第22期	
	自 2021年12月16日 至 2022年12月15日	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>	
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。</p>	

(重要な会計上の見積りに関する注記)

会計上の見積りについて、翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目を識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

項 目	第21期	第22期
	(2021年12月15日現在)	(2022年12月15日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	420,665,162口	450,696,033口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.7261円 (1万口当たりの純資産額17,261円)	1口当たり純資産額 1.5838円 (1万口当たりの純資産額15,838円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項 目	第21期	第22期
	自 2020年12月16日 至 2021年12月15日	自 2021年12月16日 至 2022年12月15日

分配金の計算過程	<p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(7,059,995円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(58,516,270円)、収益調整金(195,528,725円)、および分配準備積立金(110,093,395円)より、分配対象収益は371,198,385円(1万口当たり8,824.08円)ですが、分配を行っておりません。</p>	<p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(0円)、収益調整金(231,809,588円)、および分配準備積立金(165,987,951円)より、分配対象収益は397,797,539円(1万口当たり8,826.29円)ですが、分配を行っておりません。</p>
----------	---	--

(金融商品に関する注記)

. 金融商品の状況に関する事項

項 目	<p style="text-align: center;">第22期 自 2021年12月16日 至 2022年12月15日</p>
1. 金融商品に対する取組方針	<p>当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。</p>
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1) 金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、親投資信託受益証券を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。 当計算期間については、為替予約取引を行っております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2) 金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>

3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかると、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。なお、投資信託協会の流動性リスク管理規制に抵触する場合には、流動性リスクを管理する会議で審議の上、流動性リスクの管理責任者が対処方針を決定します。その後、決定した対処方針やその実施等について、リスク管理会議に報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。</p>

・金融商品の時価等に関する事項

項目	第22期 (2022年12月15日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券（親投資信託受益証券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p> <p>(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

第21期（自 2020年12月16日 至 2021年12月15日）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	64,836,537円

合計	64,836,537円
----	-------------

第22期(自2021年12月16日至2022年12月15日)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	16,102,575円
合計	16,102,575円

(デリバティブ取引に関する注記)

第21期(2021年12月15日現在)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位:円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち 1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建				
	アメリカ・ドル	119,624,973	-	119,972,384	347,411
	ユーロ	31,916,595	-	31,942,616	26,021
	小計	151,541,568	-	151,915,000	373,432
合計		151,541,568	-	151,915,000	373,432

第22期(2022年12月15日現在)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位:円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち 1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建				
	アメリカ・ドル	71,550,465	-	70,908,061	642,404
	ユーロ	34,138,482	-	34,372,697	234,215
	小計	105,688,947	-	105,280,758	408,189
合計		105,688,947	-	105,280,758	408,189

(注)1. 時価の算定方法

為替予約取引の時価の算定方法については以下のように評価しております。

- 1) 計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。
- ・ 計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い受渡日として、発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。

2)計算期間末日において対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

2.ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

<p>第22期 自 2021年12月16日 至 2022年12月15日</p>
<p>市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。</p>

(その他の注記)

項 目	第21期 (2021年12月15日現在)	第22期 (2022年12月15日現在)
期首元本額	395,950,903円	420,665,162円
期中追加設定元本額	51,726,104円	54,458,838円
期中一部解約元本額	27,011,845円	24,427,967円

(4)【附属明細表】

有価証券明細表

(a)株式

該当事項はありません。

(b)株式以外の有価証券

(単位：円)

種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
親投資信託受 益証券	国内株式マザーファンド(A号)	144,770,029	230,691,041	
	外国株式マザーファンド(A号)	27,972,944	106,434,254	
	外国債券マザーファンド(A号)	21,343,246	63,969,976	
	国内債券マザーファンド(B号)	212,517,304	291,467,482	
	親投資信託受益証券 小計		692,562,753	
合 計			692,562,753	

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表(デリバティブ取引に関する注記)」に記載しております。

【三井住友・DCバランスファンド(成長型)】

(1)【貸借対照表】

(単位:円)

	第21期 (2021年12月15日現在)	第22期 (2022年12月15日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	203,236	443,570
コール・ローン	6,946,680	15,042,587
親投資信託受益証券	385,487,676	370,454,682
派生商品評価勘定	-	493,406
未収入金	959,464	1,405,088
流動資産合計	393,597,056	387,839,333
資産合計		
	393,597,056	387,839,333
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	243,316	130,885
未払金	14,191	-
未払受託者報酬	210,502	207,234
未払委託者報酬	2,736,744	2,694,567
その他未払費用	10,466	10,359
流動負債合計	3,215,219	3,043,045
負債合計		
	3,215,219	3,043,045
純資産の部		
元本等		
元本	193,280,750	208,521,242
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	197,101,087	176,275,046
(分配準備積立金)	113,707,123	106,537,522
元本等合計	390,381,837	384,796,288
純資産合計		
	390,381,837	384,796,288
負債純資産合計		
	393,597,056	387,839,333

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第21期		第22期	
	自	2020年12月16日	自	2021年12月16日
	至	2021年12月15日	至	2022年12月15日
営業収益				
受取利息		11		111
有価証券売買等損益		64,665,905		12,632,994
為替差損益		6,070,940		15,649,896
営業収益合計		58,594,976		28,282,779
営業費用				
支払利息		4,423		5,998
受託者報酬		408,867		415,066
委託者報酬		5,315,480		5,396,942
その他費用		20,860		21,011
営業費用合計		5,749,630		5,839,017
営業利益又は営業損失()		52,845,346		34,121,796
経常利益又は経常損失()		52,845,346		34,121,796
当期純利益又は当期純損失()		52,845,346		34,121,796
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()		5,242,275		2,101,015
期首剰余金又は期首欠損金()		151,072,088		197,101,087
剰余金増加額又は欠損金減少額		28,067,151		24,854,949
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		-
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		28,067,151		24,854,949
剰余金減少額又は欠損金増加額		29,641,223		13,660,209
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		29,641,223		13,660,209
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		-
分配金		-		-
期末剰余金又は期末欠損金()		197,101,087		176,275,046

(3) 【注記表】

(重要な会計方針の注記)

項 目	第22期	
	自 2021年12月16日 至 2022年12月15日	
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>	
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。</p>	

(重要な会計上の見積りに関する注記)

会計上の見積りについて、翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目を識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

項 目	第21期	第22期
	(2021年12月15日現在)	(2022年12月15日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	193,280,750口	208,521,242口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 2.0198円 (1万口当たりの純資産額20,198円)	1口当たり純資産額 1.8454円 (1万口当たりの純資産額18,454円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項 目	第21期	第22期
	自 2020年12月16日 至 2021年12月15日	自 2021年12月16日 至 2022年12月15日

分配金の計算過程	<p>計算期間末における費用控除後の配当等収益（4,481,694円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（43,121,377円）、収益調整金（125,411,669円）、および分配準備積立金（66,104,052円）より、分配対象収益は239,118,792円（1万口当たり12,371.58円）であります。分配を行っておりません。</p>	<p>計算期間末における費用控除後の配当等収益（163,169円）、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（151,710,985円）、および分配準備積立金（106,374,353円）より、分配対象収益は258,248,507円（1万口当たり12,384.76円）であります。分配を行っておりません。</p>
----------	---	---

（金融商品に関する注記）

・金融商品の状況に関する事項

項 目	<p style="text-align: center;">第22期 自 2021年12月16日 至 2022年12月15日</p>
1. 金融商品に対する取組方針	<p>当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。</p>
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1) 金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、親投資信託受益証券を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。 当計算期間については、為替予約取引を行っております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2) 金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>

3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。なお、投資信託協会の流動性リスク管理規制に抵触する場合には、流動性リスクを管理する会議で審議の上、流動性リスクの管理責任者が対処方針を決定します。その後、決定した対処方針やその実施等について、リスク管理会議に報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。</p>

・金融商品の時価等に関する事項

項目	第22期 (2022年12月15日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券（親投資信託受益証券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p> <p>(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

第21期（自 2020年12月16日 至 2021年12月15日）

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	50,195,528円

合計	50,195,528円
----	-------------

第22期(自2021年12月16日至2022年12月15日)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	7,959,735円
合計	7,959,735円

(デリバティブ取引に関する注記)

第21期(2021年12月15日現在)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位:円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち 1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建				
	アメリカ・ドル	79,031,854	-	79,261,376	229,522
	ユーロ	16,919,641	-	16,933,435	13,794
	小計	95,951,495	-	96,194,811	243,316
合計		95,951,495	-	96,194,811	243,316

第22期(2022年12月15日現在)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位:円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち 1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建				
	アメリカ・ドル	54,955,110	-	54,461,704	493,406
	ユーロ	19,077,387	-	19,208,272	130,885
	小計	74,032,497	-	73,669,976	362,521
合計		74,032,497	-	73,669,976	362,521

(注)1. 時価の算定方法

為替予約取引の時価の算定方法については以下のように評価しております。

- 1) 計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。
- ・ 計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い受渡日として、発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。

2)計算期間末日において対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

2.ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

第22期 自 2021年12月16日 至 2022年12月15日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(その他の注記)

項 目	第21期 (2021年12月15日現在)	第22期 (2022年12月15日現在)
期首元本額	201,888,884円	193,280,750円
期中追加設定元本額	30,625,816円	28,771,839円
期中一部解約元本額	39,233,950円	13,531,347円

(4)【附属明細表】

有価証券明細表

(a)株式

該当事項はありません。

(b)株式以外の有価証券

(単位：円)

種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
親投資信託受 益証券	国内株式マザーファンド(A号)	105,689,429	168,416,105	
	外国株式マザーファンド(A号)	22,747,953	86,553,686	
	外国債券マザーファンド(A号)	7,653,178	22,938,105	
	国内債券マザーファンド(B号)	67,478,517	92,546,786	
	親投資信託受益証券 小計		370,454,682	
合 計			370,454,682	

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表(デリバティブ取引に関する注記)」に記載しております。

(参考)

「三井住友・DCバランスファンド(安定型)」、「三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)」および「三井住友・DCバランスファンド(成長型)」は、「国内株式マザーファンド(A号)」、「国内債券マザーファンド(B号)」、「外国株式マザーファンド(A号)」および「外国債券マザーファンド(A号)」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券です。

なお、以下に記載した状況は、監査の対象外です。

国内株式マザーファンド(A号)

(1) 貸借対照表

(単位：円)

	(2021年12月15日現在)	(2022年12月15日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	804,525	523,580
コール・ローン	27,498,998	17,755,918
株式	1,050,615,040	1,038,988,200
未収入金	10,106,507	-
未収配当金	364,600	245,250
流動資産合計	1,089,389,670	1,057,512,948
資産合計	1,089,389,670	1,057,512,948
負債の部		
流動負債		
未払金	9,759,509	-
未払解約金	2,813,408	20,676
その他未払費用	33	61
流動負債合計	12,572,950	20,737
負債合計	12,572,950	20,737
純資産の部		
元本等		
元本	658,063,858	663,608,255
剰余金		
剰余金又は欠損金 ()	418,752,862	393,883,956
元本等合計	1,076,816,720	1,057,492,211
純資産合計	1,076,816,720	1,057,492,211
負債純資産合計	1,089,389,670	1,057,512,948

(2) 注記表

(重要な会計方針の注記)

項 目	自 2021年12月16日 至 2022年12月15日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>株式は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>

2. 収益及び費用の計上基準	<p>受取配当金の計上基準</p> <p>受取配当金は原則として、配当落ち日において、確定配当金額または予想配当金額を計上しております。なお、配当金額が未確定の場合は、入金日基準で計上しております。</p>
----------------	---

（重要な会計上の見積りに関する注記）

会計上の見積りについて、翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目を識別していないため、注記を省略しております。

（貸借対照表に関する注記）

項目	（2021年12月15日現在）	（2022年12月15日現在）
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	658,063,858口	663,608,255口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.6363円 （1万口当たりの純資産額16,363円）	1口当たり純資産額 1.5935円 （1万口当たりの純資産額15,935円）

（金融商品に関する注記）

・金融商品の状況に関する事項

項目	自 2021年12月16日 至 2022年12月15日
1. 金融商品に対する取組方針	<p>当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。</p>
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1) 金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券</p> <p>当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、株式を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引</p> <p>当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2) 金融商品に係るリスク</p> <p>有価証券およびデリバティブ取引等</p> <p>当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>

3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。なお、投資信託協会の流動性リスク管理規制に抵触する場合には、流動性リスクを管理する会議で審議の上、流動性リスクの管理責任者が対処方針を決定します。その後、決定した対処方針やその実施等について、リスク管理会議に報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。</p>

・金融商品の時価等に関する事項

項目	(2022年12月15日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券（株式） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p> <p>(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

（デリバティブ取引に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

自 2021年12月16日

至 2022年12月15日

市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(その他の注記)

(2021年12月15日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	739,340,664円
同期中における追加設定元本額	139,857,934円
同期中における一部解約元本額	221,134,740円
2021年12月15日現在の元本の内訳	
三井住友・DCバランスファンド(安定型)	28,344,721円
三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)	137,557,269円
三井住友・DCバランスファンド(成長型)	101,823,814円
三井住友・DC国内株式アクティブS	375,715,013円
S M A M・バランスファンドVA安定型(適格機関投資家専用)	12,770,797円
S M A M・バランスファンドVA株40型(適格機関投資家専用)	627,215円
S M A M・バランスファンドVA株60型(適格機関投資家専用)	477,243円
S M A M・バランスファンドVA株80型(適格機関投資家専用)	747,786円
合計	658,063,858円

(2022年12月15日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	658,063,858円
同期中における追加設定元本額	105,463,178円
同期中における一部解約元本額	99,918,781円
2022年12月15日現在の元本の内訳	
三井住友・DCバランスファンド(安定型)	28,329,523円
三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)	144,770,029円
三井住友・DCバランスファンド(成長型)	105,689,429円
三井住友・DC国内株式アクティブS	371,344,869円
S M A M・バランスファンドVA安定型(適格機関投資家専用)	11,672,288円
S M A M・バランスファンドVA株40型(適格機関投資家専用)	650,900円
S M A M・バランスファンドVA株60型(適格機関投資家専用)	455,834円
S M A M・バランスファンドVA株80型(適格機関投資家専用)	695,383円
合計	663,608,255円

(3) 附属明細表

有価証券明細表

(a) 株式

(単位:円)

銘柄	株数	評価額		備考
		単価	金額	
INPEX	5,100	1,485.000	7,573,500	
ウエストホールディングス	1,800	4,265.000	7,677,000	
日揮ホールディングス	3,500	1,813.000	6,345,500	

ヤクルト本社	600	8,730.000	5,238,000
サントリー食品インターナショナル	600	4,630.000	2,778,000
キッコーマン	1,100	7,490.000	8,239,000
キューピー	2,200	2,430.000	5,346,000
日清食品ホールディングス	1,600	10,550.000	16,880,000
クレハ	600	9,030.000	5,418,000
デンカ	3,500	3,185.000	11,147,500
信越化学工業	600	17,730.000	10,638,000
三井化学	3,300	3,190.000	10,527,000
住友ベークライト	1,200	4,280.000	5,136,000
ライオン	1,400	1,480.000	2,072,000
エフピコ	3,100	3,555.000	11,020,500
ユニ・チャーム	800	5,232.000	4,185,600
協和キリン	900	3,100.000	2,790,000
武田薬品工業	6,200	4,180.000	25,916,000
アステラス製薬	6,300	2,166.000	13,645,800
エーザイ	800	9,502.000	7,601,600
ロート製薬	2,000	4,520.000	9,040,000
第一三共	4,000	4,506.000	18,024,000
E N E O Sホールディングス	11,700	458.900	5,369,130
ブリヂストン	400	5,000.000	2,000,000
日本製鉄	3,300	2,291.000	7,560,300
住友電気工業	5,400	1,593.000	8,602,200
フジクラ	4,300	1,156.000	4,970,800
日本製鋼所	1,500	2,882.000	4,323,000
ディスコ	300	40,850.000	12,255,000
タツモ	3,300	1,704.000	5,623,200
ダイキン工業	700	22,535.000	15,774,500
日立造船	12,700	865.000	10,985,500
三菱重工業	2,000	5,676.000	11,352,000
I H I	2,200	4,070.000	8,954,000
イビデン	700	5,440.000	3,808,000
日立製作所	2,900	7,218.000	20,932,200
富士電機	2,200	5,520.000	12,144,000
日本電産	600	8,048.000	4,828,800
ダイヘン	1,400	4,075.000	5,705,000
ルネサスエレクトロニクス	6,200	1,303.000	8,078,600
アルバック	2,200	6,070.000	13,354,000
パナソニック ホールディングス	4,300	1,236.500	5,316,950
ソニーグループ	2,000	11,045.000	22,090,000
T D K	2,300	4,760.000	10,948,000
メイコー	700	2,945.000	2,061,500
ヒロセ電機	200	17,940.000	3,588,000
キーエンス	400	56,340.000	22,536,000
日置電機	1,400	6,670.000	9,338,000
フェローテックホールディングス	1,700	3,380.000	5,746,000
レーザーテック	300	26,635.000	7,990,500
ローム	700	10,710.000	7,497,000

三井ハイテック	1,100	7,060.000	7,766,000	
東京エレクトロン	200	45,830.000	9,166,000	
デンソー	2,100	7,312.000	15,355,200	
川崎重工業	5,000	3,245.000	16,225,000	
日産自動車	5,400	464.300	2,507,220	
いすゞ自動車	3,400	1,713.000	5,824,200	
トヨタ自動車	18,800	1,978.500	37,195,800	
マツダ	2,100	1,090.000	2,289,000	
スズキ	3,200	4,724.000	15,116,800	
S U B A R U	4,900	2,268.500	11,115,650	
テルモ	1,400	4,027.000	5,637,800	
トプコン	2,200	1,597.000	3,513,400	
任天堂	3,300	5,718.000	18,869,400	
西日本旅客鉄道	2,100	5,839.000	12,261,900	
東海旅客鉄道	900	16,585.000	14,926,500	
京阪ホールディングス	4,400	3,535.000	15,554,000	
山九	2,900	4,945.000	14,340,500	
商船三井	2,100	3,405.000	7,150,500	
A N Aホールディングス	3,600	2,891.000	10,407,600	
コーエーテクモホールディングス	3,800	2,333.000	8,865,400	
ネクソン	1,700	3,030.000	5,151,000	
インターネットイニシアティブ	8,000	2,568.000	20,544,000	
日本電信電話	9,200	3,771.000	34,693,200	
東宝	1,800	5,320.000	9,576,000	
コナミグループ	600	6,250.000	3,750,000	
ソフトバンクグループ	1,400	6,291.000	8,807,400	
伊藤忠商事	6,300	4,328.000	27,266,400	
丸紅	8,900	1,590.000	14,151,000	
豊田通商	1,600	5,390.000	8,624,000	
三井物産	2,500	4,073.000	10,182,500	
マツキヨココカラ&カンパニー	2,600	6,330.000	16,458,000	
ファーストリテイリング	200	84,570.000	16,914,000	
三菱U F Jフィナンシャル・グループ	37,800	761.700	28,792,260	
りそなホールディングス	34,600	643.900	22,278,940	
三井住友トラスト・ホールディングス	4,700	4,263.000	20,036,100	
S B Iホールディングス	2,000	2,613.000	5,226,000	
第一生命ホールディングス	4,500	2,622.000	11,799,000	
東京海上ホールディングス	7,200	2,835.000	20,412,000	
オリックス	1,700	2,245.500	3,817,350	
大東建託	300	14,230.000	4,269,000	
オープンハウスグループ	2,300	5,580.000	12,834,000	
三井不動産	1,900	2,633.000	5,002,700	
ベネフィット・ワン	3,800	2,080.000	7,904,000	
エムスリー	1,600	4,056.000	6,489,600	
オリエンタルランド	700	19,665.000	13,765,500	
リクルートホールディングス	1,200	4,321.000	5,185,200	
合 計	351,200		1,038,988,200	

(b) 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

国内債券マザーファンド（B号）

（1）貸借対照表

（単位：円）

	（2021年12月15日現在）	（2022年12月15日現在）
資産の部		
流動資産		
金銭信託	51,773,678	63,146,823
コール・ローン	1,769,646,219	2,141,469,422
国債証券	150,593,149,134	223,024,273,320
地方債証券	5,911,189,000	5,827,944,200
特殊債券	15,793,230,932	14,820,656,844
社債券	40,045,496,300	38,768,753,300
未収入金	4,982,730,000	1,498,096,000
未収利息	310,761,516	429,567,773
前払費用	28,411,175	51,204,889
流動資産合計	219,486,387,954	286,625,112,571
資産合計	219,486,387,954	286,625,112,571
負債の部		
流動負債		
未払金	5,310,419,000	1,497,113,000
未払解約金	9,544,523	11,629,076
その他未払費用	2,424	9,958
流動負債合計	5,319,965,947	1,508,752,034
負債合計	5,319,965,947	1,508,752,034
純資産の部		
元本等		
元本	150,024,384,893	207,882,455,077
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	64,142,037,114	77,233,905,460
元本等合計	214,166,422,007	285,116,360,537
純資産合計	214,166,422,007	285,116,360,537
負債純資産合計	219,486,387,954	286,625,112,571

（2）注記表

（重要な会計方針の注記）

項 目	自 2021年12月16日 至 2022年12月15日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券は個別法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。

	<p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
--	--

（重要な会計上の見積りに関する注記）

会計上の見積りについて、翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目を識別していないため、注記を省略しております。

（貸借対照表に関する注記）

項目	（2021年12月15日現在）	（2022年12月15日現在）
1. 当計算期間の末日における 受益権の総数	150,024,384,893口	207,882,455,077口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.4275円 （1万口当たりの純資産額14,275円）	1口当たり純資産額 1.3715円 （1万口当たりの純資産額13,715円）

（金融商品に関する注記）

・金融商品の状況に関する事項

項目	自 2021年12月16日 至 2022年12月15日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1) 金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2) 金融商品に係るリスク 有価証券およびデリバティブ取引等 当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>

3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかると、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。なお、投資信託協会の流動性リスク管理規制に抵触する場合には、流動性リスクを管理する会議で審議の上、流動性リスクの管理責任者が対処方針を決定します。その後、決定した対処方針やその実施等について、リスク管理会議に報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。</p>

・金融商品の時価等に関する事項

項目	(2022年12月15日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券（国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p> <p>(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

（デリバティブ取引に関する注記）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

自 2021年12月16日

至 2022年12月15日

市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(その他の注記)

(2021年12月15日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	133,824,682,458円
同期中における追加設定元本額	27,549,207,917円
同期中における一部解約元本額	11,349,505,482円
2021年12月15日現在の元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	934,873,194円
三井住友・年金プラン50	875,421,759円
三井住友・年金プラン70	276,048,181円
三井住友・DCバランスファンド(安定型)	107,861,194円
三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)	199,122,755円
三井住友・DCバランスファンド(成長型)	64,913,315円
三井住友・DC国内債券アクティブ	315,100,734円
三井住友・日本債券年金ファンド	4,516,527,600円
S M A M・年金国内債券アクティブファンド(適格機関投資家専用)	2,623,128,850円
S M A M・バランスファンドVA安定型(適格機関投資家専用)	128,103,393円
S M A M・バランスファンドVA株40型(適格機関投資家専用)	1,334,873円
S M A M・バランスファンドVA株60型(適格機関投資家専用)	402,791円
S M A M・バランスファンドVA株80型(適格機関投資家専用)	174,757円
バランスファンドVA(安定運用型)<適格機関投資家限定>	89,470,822円
三井住友/FOFs用日本債F(適格機関投資家限定)	139,891,900,675円
合計	150,024,384,893円

(2022年12月15日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	150,024,384,893円
同期中における追加設定元本額	61,048,094,708円
同期中における一部解約元本額	3,190,024,524円
2022年12月15日現在の元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	1,003,154,942円
三井住友・年金プラン50	944,766,745円
三井住友・年金プラン70	335,935,019円
三井住友・DCバランスファンド(安定型)	104,783,681円
三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)	212,517,304円
三井住友・DCバランスファンド(成長型)	67,478,517円
三井住友・DC国内債券アクティブ	314,188,601円
三井住友・日本債券年金ファンド	4,413,376,330円
S M A M・年金国内債券アクティブファンド(適格機関投資家専用)	2,944,482,418円
S M A M・バランスファンドVA安定型(適格機関投資家専用)	112,162,659円
S M A M・バランスファンドVA株40型(適格機関投資家専用)	1,312,609円
S M A M・バランスファンドVA株60型(適格機関投資家専用)	362,331円

SMAM・バランスファンドVA株80型(適格機関投資家専用)	155,587円
バランスファンドVA(安定運用型) < 適格機関投資家限定 >	71,843,901円
三井住友/ F O F s 用日本債F(適格機関投資家限定)	197,355,934,433円
合 計	207,882,455,077円

(3) 附属明細表

有価証券明細表

(a) 株式

該当事項はありません。

(b) 株式以外の有価証券

(単位:円)

種 類	銘 柄	券面総額	評価額	備考
国債証券	4 3 5 2年国債	100,000,000	100,083,000	
	4 3 7 2年国債	570,000,000	570,410,400	
	4 3 8 2年国債	650,000,000	650,448,500	
	4 3 9 2年国債	10,150,000,000	10,156,597,500	
	4 4 0 2年国債	7,350,000,000	7,354,336,500	
	4 4 1 2年国債	400,000,000	400,248,000	
	4 4 2 2年国債	33,500,000,000	33,521,775,000	
	4 4 3 2年国債	1,000,000,000	1,000,480,000	
	1 4 9 5年国債	550,000,000	549,274,000	
	1 5 1 5年国債	1,900,000,000	1,893,939,000	
	1 5 3 5年国債	8,450,000,000	8,413,918,500	
	1 5 4 5年国債	15,000,000,000	14,982,150,000	
	1 0 40年国債	150,000,000	128,470,500	
	1 1 40年国債	400,000,000	330,096,000	
	1 4 40年国債	1,350,000,000	1,056,645,000	
	1 5 40年国債	2,200,000,000	1,879,438,000	
	3 5 3 10年国債	5,500,000,000	5,475,415,000	
	3 5 4 10年国債	8,250,000,000	8,206,605,000	
	3 5 6 10年国債	250,000,000	248,165,000	
	3 5 7 10年国債	13,250,000,000	13,140,157,500	
	3 5 8 10年国債	15,170,000,000	15,029,222,400	
	2 0 30年国債	600,000,000	737,316,000	
	3 0 30年国債	510,000,000	616,064,700	
	4 2 30年国債	1,170,000,000	1,290,942,900	
	4 5 30年国債	3,250,000,000	3,452,800,000	
	4 6 30年国債	1,130,000,000	1,199,020,400	
	4 8 30年国債	1,770,000,000	1,838,215,800	
	5 2 30年国債	210,000,000	177,886,800	
	5 5 30年国債	500,000,000	450,600,000	
	5 9 30年国債	2,150,000,000	1,865,340,000	
	6 0 30年国債	1,490,000,000	1,352,785,900	
	6 1 30年国債	350,000,000	301,556,500	
	6 7 30年国債	3,880,000,000	3,190,640,400	
7 0 30年国債	3,800,000,000	3,180,904,000		

7 1	3 0年国債	870,000,000	726,650,100	
7 2	3 0年国債	150,000,000	125,008,500	
7 3	3 0年国債	200,000,000	166,478,000	
7 4	3 0年国債	2,920,000,000	2,636,526,400	
7 5	3 0年国債	4,450,000,000	4,352,500,500	
7 6	3 0年国債	800,000,000	797,480,000	
1 4 0	2 0年国債	7,200,000,000	8,140,536,000	
1 4 1	2 0年国債	1,600,000,000	1,809,776,000	
1 4 2	2 0年国債	1,630,000,000	1,859,487,700	
1 4 5	2 0年国債	2,860,000,000	3,236,604,800	
1 4 7	2 0年国債	5,940,000,000	6,660,106,200	
1 4 8	2 0年国債	400,000,000	444,048,000	
1 4 9	2 0年国債	3,810,000,000	4,226,928,300	
1 5 1	2 0年国債	470,000,000	504,700,100	
1 5 3	2 0年国債	2,130,000,000	2,307,514,200	
1 5 4	2 0年国債	2,160,000,000	2,310,876,000	
1 6 0	2 0年国債	2,600,000,000	2,581,592,000	
1 6 3	2 0年国債	2,250,000,000	2,180,902,500	
1 6 4	2 0年国債	5,910,000,000	5,623,010,400	
1 6 5	2 0年国債	4,000,000,000	3,792,560,000	
1 6 7	2 0年国債	3,630,000,000	3,414,849,900	
1 6 8	2 0年国債	1,000,000,000	921,890,000	
1 7 0	2 0年国債	6,550,000,000	5,887,533,000	
1 7 3	2 0年国債	4,850,000,000	4,383,721,000	
1 7 5	2 0年国債	3,050,000,000	2,785,351,500	
1 8 1	2 0年国債	750,000,000	725,902,500	
1 8 2	2 0年国債	3,600,000,000	3,597,048,000	
2 4	物価連動国債	1,920,000,000	2,082,743,520	
	国債証券 小計		223,024,273,320	
地方債証券	7 2 0 東京都公債	400,000,000	401,790,800	
	7 5 9 東京都公債	100,000,000	99,641,400	
	7 6 3 東京都公債	100,000,000	99,840,800	
	6 東京都2 0年	600,000,000	625,549,200	
	1 4 東京都2 0年	500,000,000	552,993,500	
	2 8 - 3 埼玉県公債	200,000,000	199,531,600	
	2 8 - 1 0 埼玉県公債	100,000,000	100,080,700	
	4 埼玉県2 0年	400,000,000	436,677,200	
	1 2 8 共同発行地方	300,000,000	301,749,300	
	1 5 4 共同発行地方	600,000,000	605,127,600	
	1 5 5 共同発行地方	900,000,000	902,366,100	
	2 9 - 4 横浜市公債	1,000,000,000	999,126,000	
	8 6 川崎市公債	500,000,000	503,470,000	
	地方債証券 小計		5,827,944,200	
特殊債券	2 地方公営2 0年	250,000,000	279,184,750	
	9 地方公共団2 0年	800,000,000	883,053,600	

F 7 7 地方公共団体	100,000,000	104,786,900	
F 8 0 地方公共団体	400,000,000	429,058,400	
F 1 1 6 地方公共団体	100,000,000	105,094,500	
F 1 3 4 地方公共団体	200,000,000	210,131,200	
F 1 4 3 地方公共団体	500,000,000	523,617,000	
F 1 6 3 地方公共団体	100,000,000	103,556,200	
F 1 7 2 地方公共団体	300,000,000	309,439,200	
5 3 地方公共団体	1,500,000,000	1,508,746,500	
2 地方公共団15年	500,000,000	522,174,500	
F 2 2 5 地方公共団体	100,000,000	103,640,600	
F 2 2 6 地方公共団体	100,000,000	104,143,700	
6 7 地方公共団体	800,000,000	804,798,400	
7 1 政保地方公共団	214,000,000	215,653,150	
7 3 政保地方公共団	201,000,000	203,116,530	
7 5 政保地方公共団	303,000,000	306,014,547	
F 3 0 3 地方公共団体	100,000,000	101,423,800	
F 3 0 6 地方公共団体	300,000,000	303,592,500	
9 1 地方公共団体	400,000,000	397,979,200	
2 0 公営企業20年	400,000,000	433,232,000	
2 4 公営企業20年	200,000,000	220,237,000	
S 4 住宅機構R M B S	75,397,000	76,369,621	
3 住宅機構R M B S	50,935,000	51,245,703	
6 住宅機構R M B S	10,017,000	10,072,093	
7 住宅機構R M B S	10,994,000	11,146,816	
4 6 住宅機構R M B S	39,132,000	41,041,641	
4 8 住宅機構R M B S	36,906,000	38,640,582	
5 0 住宅機構R M B S	19,486,000	20,290,771	
5 7 住宅機構R M B S	26,225,000	27,313,337	
5 9 住宅機構R M B S	27,978,000	29,189,447	
7 1 住宅機構R M B S	31,572,000	32,440,230	
8 8 住宅機構R M B S	83,118,000	84,905,037	
9 0 住宅機構R M B S	43,836,000	44,633,815	
9 1 住宅機構R M B S	45,034,000	45,732,027	
1 2 3 住宅機構R M B S	75,388,000	73,842,546	
1 2 7 住宅機構R M B S	77,153,000	75,131,591	
1 2 8 住宅機構R M B S	76,127,000	74,246,663	
1 2 9 住宅機構R M B S	155,766,000	152,198,958	
1 3 0 住宅機構R M B S	387,310,000	377,472,326	
1 3 3 住宅機構R M B S	313,280,000	304,946,752	
1 3 4 住宅機構R M B S	79,078,000	76,634,489	
1 3 5 住宅機構R M B S	79,609,000	77,109,277	
1 3 6 住宅機構R M B S	79,781,000	77,618,934	
1 3 9 住宅機構R M B S	80,093,000	78,018,591	
1 4 0 住宅機構R M B S	801,100,000	775,064,250	
1 4 1 住宅機構R M B S	813,700,000	784,895,020	

	1 4 2 住宅機構 R M B S	247,731,000	238,341,995	
	1 4 3 住宅機構 R M B S	165,616,000	159,057,606	
	1 4 6 住宅機構 R M B S	508,098,000	483,912,535	
	1 4 7 住宅機構 R M B S	421,315,000	401,134,011	
	1 4 8 住宅機構 R M B S	852,170,000	808,283,245	
	1 5 2 住宅機構 R M B S	436,665,000	419,809,731	
	1 5 3 住宅機構 R M B S	174,502,000	167,626,621	
	1 5 4 住宅機構 R M B S	264,318,000	253,190,212	
	1 6 4 住宅機構 R M B S	92,482,000	88,717,982	
	1 7 8 住宅機構 R M B S	96,705,000	93,813,520	
	1 7 9 住宅機構 R M B S	97,109,000	93,894,692	
	特殊債券 小計		14,820,656,844	
社債券	9 2 東日本高速道	2,100,000,000	2,095,818,900	
	6 5 西日本高速道	500,000,000	495,215,500	
	AFL 0.844 04/14/33	400,000,000	378,676,000	
	1 6 長谷工コ - ポ	300,000,000	296,022,300	
	1 2 西松建設	400,000,000	395,406,400	
	2 9 大和ハウス工業	200,000,000	199,851,800	
	1 大和ハウス劣 F R	1,100,000,000	1,095,404,200	
	1 アサヒグループHD劣 F R	1,300,000,000	1,302,128,100	
	1 6 アサヒグループHD	100,000,000	99,379,300	
	2 サントリーHD劣後 F R	600,000,000	597,069,000	
	5 サントリー食品	300,000,000	299,224,200	
	1 東急不動産劣 F R	400,000,000	399,067,600	
	2 東急不動産劣 F R	500,000,000	479,967,500	
	1 5 セブンアンドアイ	300,000,000	296,859,000	
	2 4 三菱ケミカルホールデイ	400,000,000	395,582,400	
	4 1 三菱ケミカルHD	100,000,000	95,689,200	
	1 武田薬品劣後 F R	1,000,000,000	1,015,077,000	
	2 アステラス製薬	500,000,000	499,781,000	
	4 8 D I C	200,000,000	195,352,200	
	1 9 Z H D	600,000,000	593,178,600	
	2 0 Z H D	100,000,000	97,143,900	
	1 4 L I X I L	300,000,000	299,545,500	
	1 パナソニック 劣後 F R	700,000,000	680,138,900	
	2 パナソニック 劣後 F R	700,000,000	661,665,900	
	3 パナソニック 劣後 F R	1,700,000,000	1,527,414,300	
	3 7 ソニーG	600,000,000	600,076,200	
	3 8 ソニーG	100,000,000	99,954,700	
	1 8 J A三井リース	100,000,000	98,758,800	
	1 9 J A三井リース	400,000,000	393,248,800	
	3 1 いすゞ自動車	300,000,000	294,608,400	
	2 7 トヨタ自動車	1,200,000,000	1,160,025,600	
	1 アイシン精機 劣 F R	800,000,000	791,688,000	
	1 明治安田 2 0 1 9 基	1,000,000,000	998,315,000	

1 丸紅 劣後F R	1,000,000,000	989,727,000	
7 三菱商事劣後F R	700,000,000	686,923,300	
3 1 芙蓉総合リース	100,000,000	98,211,500	
1 芙蓉総合リース劣F R	600,000,000	601,728,000	
2 東京センチュリー劣F R	700,000,000	703,381,000	
3 4 東京センチュリー	600,000,000	581,929,800	
6 9 ホンダファイナンス	400,000,000	396,930,800	
9 8 トヨタファイナンス	300,000,000	299,598,600	
6 4 アイフル	200,000,000	200,322,800	
6 5 アイフル	1,200,000,000	1,200,156,000	
7 8 アコム	700,000,000	693,920,500	
8 0 アコム	200,000,000	198,111,800	
2 9 オリエントコーポレーション	100,000,000	99,787,200	
3 野村HD劣後F R	900,000,000	889,950,600	
5 三菱地所劣後F R	400,000,000	397,884,400	
5 7 東京地下鉄	200,000,000	164,156,200	
1 2 1 近鉄グループHD	600,000,000	600,075,600	
2 8 K D D I	200,000,000	197,457,000	
3 0 K D D I	300,000,000	299,360,400	
1 3 ソフトバンク	600,000,000	569,344,800	
5 3 6 関西電力	200,000,000	192,791,800	
5 4 9 関西電力	300,000,000	299,680,800	
1 関西電力劣後F R	500,000,000	482,573,000	
3 関西電力劣後F R	100,000,000	93,111,800	
1 中国電力劣後F R	400,000,000	360,764,000	
1 東北電力劣後F R	800,000,000	785,946,400	
5 3 6 東北電力	500,000,000	473,618,500	
3 九州電力劣後F R	500,000,000	473,075,000	
4 9 4 九州電力	200,000,000	190,056,800	
5 1 1 九州電力	400,000,000	399,748,400	
7 3 電源開発	500,000,000	475,539,500	
4 1 東京電力パワー	300,000,000	297,782,700	
4 9 東京電力P G	1,000,000,000	987,156,000	
5 0 東京電力P G	900,000,000	884,175,300	
2 J E R A	800,000,000	761,496,000	
1 J E R A 劣後F R	600,000,000	599,292,000	
1 大阪瓦斯 劣F R	600,000,000	588,253,800	
2 大阪瓦斯 劣F R	200,000,000	191,994,200	
2 日鉄住金物産	600,000,000	591,925,800	
PLD 0.885 06/27/36	1,000,000,000	843,480,000	
社債券 小計		38,768,753,300	
合 計		282,441,627,664	

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

外国株式マザーファンド（A号）

（1）貸借対照表

（単位：円）

	（2021年12月15日現在）	（2022年12月15日現在）
資産の部		
流動資産		
預金	3,574,560	6,539,821
金銭信託	1,315,772	1,297,140
コール・ローン	44,973,645	43,989,327
株式	2,458,627,973	2,342,668,898
未収配当金	1,583,832	1,951,033
流動資産合計	2,510,075,782	2,396,446,219
資産合計	2,510,075,782	2,396,446,219
負債の部		
流動負債		
未払解約金	447,054	-
その他未払費用	67	158
流動負債合計	447,121	158
負債合計	447,121	158
純資産の部		
元本等		
元本	629,886,510	629,837,324
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	1,879,742,151	1,766,608,737
元本等合計	2,509,628,661	2,396,446,061
純資産合計	2,509,628,661	2,396,446,061
負債純資産合計	2,510,075,782	2,396,446,219

（2）注記表

（重要な会計方針の注記）

項目	自 2021年12月16日 至 2022年12月15日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>株式は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p>

	(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。
3. 収益及び費用の計上基準	受取配当金の計上基準 受取配当金は原則として、配当落ち日において、確定配当金額または予想配当金額を計上しております。なお、配当金額が未確定の場合は、入金日基準で計上しております。
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条に基づいて処理しております。

(重要な会計上の見積りに関する注記)

会計上の見積りについて、翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目を識別していないため、注記を省略しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	(2021年12月15日現在)	(2022年12月15日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	629,886,510口	629,837,324口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 3.9843円 (1万口当たりの純資産額39,843円)	1口当たり純資産額 3.8049円 (1万口当たりの純資産額38,049円)

(金融商品に関する注記)

. 金融商品の状況に関する事項

項目	自 2021年12月16日 至 2022年12月15日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	(1) 金融商品の内容 1) 有価証券 当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、株式を組み入れております。 2) デリバティブ取引 当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。 当計算期間については、為替予約取引を行っております。 3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等

	<p>(2) 金融商品に係るリスク</p> <p>有価証券およびデリバティブ取引等</p> <p>当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。なお、投資信託協会の流動性リスク管理規制に抵触する場合には、流動性リスクを管理する会議で審議の上、流動性リスクの管理責任者が対処方針を決定します。その後、決定した対処方針やその実施等について、リスク管理会議に報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド（外部ファンド）を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。</p>

・金融商品の時価等に関する事項

項目	(2022年12月15日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券（株式）</p> <p>「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引）</p> <p>デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p> <p>(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

自 2021年12月16日 至 2022年12月15日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(その他の注記)

(2021年12月15日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	611,479,403円
同期中における追加設定元本額	104,978,197円
同期中における一部解約元本額	86,571,090円
2021年12月15日現在の元本の内訳	
三井住友・DCバランスファンド(安定型)	8,499,964円
三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)	35,965,089円
三井住友・DCバランスファンド(成長型)	25,631,456円
三井住友・DC外国株式アクティブ	556,749,403円
S M A M・バランスファンドVA安定型(適格機関投資家専用)	2,569,290円
S M A M・バランスファンドVA株40型(適格機関投資家専用)	152,045円
S M A M・バランスファンドVA株60型(適格機関投資家専用)	137,785円
S M A M・バランスファンドVA株80型(適格機関投資家専用)	181,478円
合 計	629,886,510円

(2022年12月15日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	629,886,510円
同期中における追加設定元本額	114,341,719円
同期中における一部解約元本額	114,390,905円
2022年12月15日現在の元本の内訳	
三井住友・DCバランスファンド(安定型)	5,671,992円
三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)	27,972,944円
三井住友・DCバランスファンド(成長型)	22,747,953円
三井住友・DC外国株式アクティブ	570,658,501円
S M A M・バランスファンドVA安定型(適格機関投資家専用)	2,327,220円
S M A M・バランスファンドVA株40型(適格機関投資家専用)	158,042円
S M A M・バランスファンドVA株60型(適格機関投資家専用)	131,866円
S M A M・バランスファンドVA株80型(適格機関投資家専用)	168,806円
合 計	629,837,324円

(3) 附属明細表

有価証券明細表

(a) 株式

通貨	銘柄	株数	評価額		備考
			単価	金額	
アメリカ・ドル	EOG RESOURCES INC	3,290	125.930	414,309.70	
	AVERY DENNISON CORP	1,222	181.850	222,220.70	
	CROWN HOLDINGS INC	1,084	83.510	90,524.84	
	CHART INDUSTRIES INC	522	119.300	62,274.60	
	DEERE & CO	221	438.440	96,895.24	
	ROCKWELL AUTOMATION INC	925	269.170	248,982.25	
	SHOALS TECHNOLOGIES GROUP -A	6,152	27.140	166,965.28	
	TREX COMPANY INC	2,515	46.610	117,224.15	
	CINTAS CORP	460	459.280	211,268.80	
	COSTAR GROUP INC	1,852	81.260	150,493.52	
	UNION PACIFIC CORP	573	217.580	124,673.34	
	UNITED PARCEL SERVICE-CL B	901	184.310	166,063.31	
	APTIV PLC	959	96.600	92,639.40	
	LULULEMON ATHLETICA INC	469	333.330	156,331.77	
	NIKE INC -CL B	1,337	111.450	149,008.65	
	YETI HOLDINGS INC	3,201	45.720	146,349.72	
	AIRBNB INC-CLASS A	1,116	93.930	104,825.88	
	BOOKING HOLDINGS INC	68	2,006.800	136,462.40	
	HOME DEPOT INC	1,093	333.430	364,438.99	
	LITHIA MOTORS INC	513	224.570	115,204.41	
	COSTCO WHOLESALE CORP	539	483.520	260,617.28	
	ESTEE LAUDER COMPANIES-CL A	893	249.220	222,553.46	
	EDWARDS LIFESCIENCES CORP	2,105	75.820	159,601.10	
	IDEXX LABORATORIES INC	448	430.030	192,653.44	
	INTUITIVE SURGICAL INC	740	280.650	207,681.00	
	STRYKER CORP	1,060	253.820	269,049.20	
	UNITEDHEALTH GROUP INC	454	538.360	244,415.44	
	ELI LILLY & CO	950	363.500	345,325.00	
	IQVIA HOLDINGS INC	1,124	214.210	240,772.04	
	THERMO FISHER SCIENTIFIC INC	621	567.230	352,249.83	
	ZOETIS INC	1,232	151.780	186,992.96	
	BANK OF AMERICA CORP	5,977	32.280	192,937.56	
	JPMORGAN CHASE & CO	1,955	133.410	260,816.55	
	SVB FINANCIAL GROUP	370	230.570	85,310.90	
AMERICAN EXPRESS CO	1,129	154.110	173,990.19		
ARES MANAGEMENT CORP - A	2,033	72.460	147,311.18		
LPL FINANCIAL HOLDINGS INC	813	214.450	174,347.85		
MSCI INC	356	498.480	177,458.88		
S&P GLOBAL INC	512	353.840	181,166.08		

	TRADEWEB MARKETS INC-CLASS A	2,852	64.210	183,126.92	
	MARSH & MCLENNAN COS	1,031	172.370	177,713.47	
	ACCENTURE PLC-CL A	1,095	291.450	319,137.75	
	ADOBE INC	656	339.920	222,987.52	
	ANSYS INC	915	256.100	234,331.50	
	BLOCK INC	996	71.250	70,965.00	
	FORTINET INC	5,993	54.270	325,240.11	
	INTUIT INC	643	418.920	269,365.56	
	MICROSOFT CORP	2,073	257.220	533,217.06	
	PAYPAL HOLDINGS INC	1,256	72.630	91,223.28	
	SERVICENOW INC	556	418.390	232,624.84	
	SYNOPSYS INC	797	332.030	264,627.91	
	VISA INC-CLASS A SHARES	1,578	213.320	336,618.96	
	KEYSIGHT TECHNOLOGIES IN	1,460	182.980	267,150.80	
	TRIMBLE INC	1,646	54.560	89,805.76	
	ANALOG DEVICES INC	1,146	171.680	196,745.28	
	ENPHASE ENERGY INC	916	332.800	304,844.80	
	ENTEGRIS INC	2,503	73.090	182,944.27	
	NVIDIA CORP	2,707	176.740	478,435.18	
	NEXTERA ENERGY INC	1,287	87.050	112,033.35	
	ALPHABET INC-CL A	7,260	95.070	690,208.20	
	MATCH GROUP INC	1,996	44.560	88,941.76	
	META PLATFORMS INC-CLASS A	886	121.590	107,728.74	
	ZOOMINFO TECHNOLOGIES INC	2,873	31.360	90,097.28	
	アメリカ・ドル小計	96,905		13,282,522.19 (1,799,516,106)	
香港・ドル	TECHTRONIC INDUSTRIES CO LTD	14,000	96.250	1,347,500.00	
	HONG KONG EXCHANGES & CLEAR	2,300	343.600	790,280.00	
	AIA GROUP LTD	23,400	84.100	1,967,940.00	
	香港・ドル小計	39,700		4,105,720.00 (71,521,642)	
イギリス・ポンド	ASHTREAD GROUP PLC	1,240	49.930	61,913.20	
	COMPASS GROUP PLC	7,731	19.250	148,821.75	
	ASTRAZENECA PLC	2,300	114.000	262,200.00	
	イギリス・ポンド小計	11,271		472,934.95 (79,604,411)	
スイス・フラン	SIKA AG-REG	598	240.900	144,058.20	
	BARRY CALLEBAUT AG-REG	35	1,859.000	65,065.00	
	NESTLE SA-REG	1,452	111.040	161,230.08	
	LONZA GROUP AG-REG	332	475.000	157,700.00	
	PARTNERS GROUP HOLDING AG	119	888.400	105,719.60	
	スイス・フラン小計	2,536		633,772.88 (92,923,780)	
ユーロ	TOTALENERGIES SE	2,336	57.480	134,273.28	
	AIR LIQUIDE SA	993	138.160	137,192.88	

KONINKLIJKE DSM NV	781	125.550	98,054.55	
SCHNEIDER ELECTRIC SE	1,682	139.500	234,639.00	
TELEPERFORMANCE	658	226.500	149,037.00	
FERRARI NV	499	212.000	105,788.00	
LVMH MOET HENNESSY LOUIS VUI	314	727.400	228,403.60	
HELLOFRESH SE	2,785	23.170	64,528.45	
KERRY GROUP PLC-A	1,846	87.360	161,266.56	
L'OREAL	383	355.500	136,156.50	
SARTORIUS STEDIM BIOTECH	323	328.500	106,105.50	
BAWAG GROUP AG	3,504	48.100	168,542.40	
ING GROEP NV	7,048	11.378	80,192.14	
ASML HOLDING NV	211	585.600	123,561.60	
IBERDROLA SA	12,589	11.055	139,171.39	
ユーロ小計	35,952		2,066,912.85 (299,102,959)	
合計	186,364		2,342,668,898 (2,342,668,898)	

(注)金額欄の()内は、外貨建有価証券にかかるものの内書きであり、また邦貨換算金額で表示しております。

通貨	銘柄数		組入株式時価比率	合計金額に対する比率
アメリカ・ドル	株式	63銘柄	75.1%	76.8%
香港・ドル	株式	3銘柄	3.0%	3.1%
イギリス・ポンド	株式	3銘柄	3.3%	3.4%
スイス・フラン	株式	5銘柄	3.9%	4.0%
ユーロ	株式	15銘柄	12.5%	12.8%

(b)株式以外の有価証券

該当事項はありません。

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

外国債券マザーファンド(A号)

(1)貸借対照表

(単位:円)

	(2021年12月15日現在)	(2022年12月15日現在)
資産の部		
流動資産		
預金	22,986,536	27,251,526
金銭信託	1,375,740	762,066
コール・ローン	47,023,391	25,843,585
国債証券	5,647,698,331	5,477,167,007
地方債証券	33,847,071	34,494,992
特殊債券	-	66,943,570
社債券	94,480,857	319,416,292
派生商品評価勘定	102,284	842,169

未収入金	54,272,912	123,386,889
未収利息	20,505,568	20,649,773
前払費用	3,593,653	5,063,245
流動資産合計	5,925,886,343	6,101,821,114
資産合計	5,925,886,343	6,101,821,114
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	251,125	3,209,992
未払金	53,968,929	123,182,406
未払解約金	23,118,141	191,329
その他未払費用	69	230
流動負債合計	77,338,264	126,583,957
負債合計	77,338,264	126,583,957
純資産の部		
元本等		
元本	1,959,828,448	1,993,587,252
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	3,888,719,631	3,981,649,905
元本等合計	5,848,548,079	5,975,237,157
純資産合計	5,848,548,079	5,975,237,157
負債純資産合計	5,925,886,343	6,101,821,114

(2) 注記表

(重要な会計方針の注記)

項目	自 2021年12月16日 至 2022年12月15日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券は個別法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。</p>
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条に基づいて処理しております。</p>

（重要な会計上の見積りに関する注記）

会計上の見積りについて、翌計算期間の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目を識別していないため、注記を省略しております。

（貸借対照表に関する注記）

項目	（2021年12月15日現在）	（2022年12月15日現在）
1. 当計算期間の末日における 受益権の総数	1,959,828,448口	1,993,587,252口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 2.9842円 （1万口当たりの純資産額29,842円）	1口当たり純資産額 2.9972円 （1万口当たりの純資産額29,972円）

（金融商品に関する注記）

・金融商品の状況に関する事項

項目	自 2021年12月16日 至 2022年12月15日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、当ファンドの信託約款に従い、有価証券等の金融商品に対して、投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>(1) 金融商品の内容</p> <p>1) 有価証券</p> <p>当ファンドが投資対象とする有価証券は、信託約款で定められており、当計算期間については、国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券を組み入れております。</p> <p>2) デリバティブ取引</p> <p>当ファンドが行うことのできるデリバティブ取引は、信託約款に基づいております。デリバティブ取引は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資すること、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクの回避を目的としております。</p> <p>当計算期間については、為替予約取引を行っております。</p> <p>3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等</p> <p>(2) 金融商品に係るリスク</p> <p>有価証券およびデリバティブ取引等</p> <p>当ファンドが保有する金融商品にかかる主なリスクとしては、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクがあります。</p>

<p>3. 金融商品に係るリスク管理体制</p>	<p>リスク管理の実効性を高め、またコンプライアンスの徹底を図るために運用部門から独立した組織を設置し、投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況にかかる、信託約款・社内ルール等において定める各種投資制限・リスク指標のモニタリングおよびファンドの運用パフォーマンスの測定・分析・評価についての確認等を行っています。投資リスクや法令・諸規則等の遵守状況等にかかる確認結果等については、運用評価、リスク管理およびコンプライアンスに関する会議をそれぞれ設け、報告が義務づけられています。</p> <p>また、とりわけ、市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクの管理体制については、各種リスクごとに管理項目、測定項目、上下限值、管理レベルおよび頻度等を定めて当該リスクの管理を実施しております。当該リスクを管理する部署では、原則として速やかに是正・修正等を行う必要がある状況の場合は、関連する運用部署に是正勧告あるいは報告が行われ、当該関連運用部署は、必要な対処の実施あるいは対処方針の決定を行います。なお、投資信託協会の流動性リスク管理規制に抵触する場合には、流動性リスクを管理する会議で審議の上、流動性リスクの管理責任者が対処方針を決定します。その後、決定した対処方針やその実施等について、リスク管理会議に報告を行う体制となっております。</p> <p>なお、他の運用会社が設定・運用を行うファンド(外部ファンド)を組入れる場合には、当該外部ファンドの運用会社にかかる経営の健全性、運用もしくはリスク管理の適切性も含め、外部ファンドの適格性等に関して、運用委託先を管理する会議にて、定期的に審議する体制となっております。加えて、外部ファンドの組入れは、原則として、運用実績の優位性、運用会社の信用力・運用体制・資産管理体制の状況を確認の上選定するものとし、また、定性・定量面における評価を継続的に実施し、投資対象としての適格性を判断しております。</p>
<p>4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明</p>	<p>金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。</p>

・金融商品の時価等に関する事項

項 目	(2022年12月15日現在)
<p>1. 貸借対照表計上額、時価及び差額</p>	<p>金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。</p>
<p>2. 時価の算定方法</p>	<p>(1) 有価証券(国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券) 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定(デリバティブ取引) デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p> <p>(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

(デリバティブ取引に関する注記)

(2021年12月15日現在)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位:円)

		契 約 額 等	
--	--	---------	--

区 分	種 類	契 約 額 等		時 価	評 価 損 益
			うち 1年超		
市場取引以 外の取引	為替予約取引				
	買建				
	デンマーク・クローネ	25,721,899	-	25,717,400	4,499
	オフショア・人民元	25,167,327	-	25,166,660	667
	ユーロ	163,216,107	-	163,134,430	81,677
	小計	214,105,333	-	214,018,490	86,843
	売建				
	アメリカ・ドル	70,310,926	-	70,469,200	158,274
	オーストラリア・ドル	90,561,016	-	90,552,000	9,016
	ユーロ	54,361,398	-	54,274,138	87,260
小計	215,233,340	-	215,295,338	61,998	
合 計		429,338,673	-	429,313,828	148,841

(2022年12月15日現在)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位:円)

区 分	種 類	契 約 額 等		時 価	評 価 損 益
			うち 1年超		
市場取引以 外の取引	為替予約取引				
	買建				
	アメリカ・ドル	101,537,903	-	100,907,820	630,083
	カナダ・ドル	8,891,487	-	8,904,600	13,113
	オーストラリア・ドル	7,906,895	-	8,026,620	119,725
	ニュージーランド・ドル	12,174,725	-	12,301,460	126,735
	デンマーク・クローネ	26,898,690	-	27,104,000	205,310
	ノルウェー・クローネ	459,652	-	469,540	9,888
	メキシコ・ペソ	4,973,470	-	4,942,902	30,568
	オフショア・人民元	102,820,849	-	102,166,873	653,976
	ユーロ	48,970,791	-	49,076,720	105,929
	小計	314,634,462	-	313,900,535	733,927
	売建				
	アメリカ・ドル	49,225,165	-	48,981,780	243,385
	イギリス・ポンド	90,125,915	-	91,018,200	892,285
	イスラエル・シケル	5,230,896	-	5,212,812	18,084
	スウェーデン・クローナ	1,569,108	-	1,591,200	22,092
	ユーロ	148,551,892	-	149,532,880	980,988
	小計	294,702,976	-	296,336,872	1,633,896
合 計		609,337,438	-	610,237,407	2,367,823

(注) 1. 時価の算定方法

為替予約取引の時価の算定方法については以下のように評価しております。

1) 計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。
- ・ 計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い受渡日として、発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。

2) 計算期間末日において対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

自 2021年12月16日 至 2022年12月15日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はございません。

(その他の注記)

(2021年12月15日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	1,880,835,575円
同期中における追加設定元本額	244,326,137円
同期中における一部解約元本額	165,333,264円
2021年12月15日現在の元本の内訳	
三井住友・ライフビュー・バランスファンド30(安定型)	174,203,949円
三井住友・ライフビュー・バランスファンド50(標準型)	265,958,000円
三井住友・ライフビュー・バランスファンド70(積極型)	140,626,363円
三井住友・DCバランスファンド(安定型)	11,881,481円
三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)	21,854,925円
三井住友・DCバランスファンド(成長型)	8,071,243円
三井住友・DC外国債券アクティブ	1,336,827,060円
S M A M・バランスファンドV A株40型(適格機関投資家専用)	209,426円
S M A M・バランスファンドV A株60型(適格機関投資家専用)	113,650円
S M A M・バランスファンドV A株80型(適格機関投資家専用)	82,351円
合 計	1,959,828,448円

(2022年12月15日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	1,959,828,448円
同期中における追加設定元本額	194,419,036円
同期中における一部解約元本額	160,660,232円

2022年12月15日現在の元本の内訳

三井住友・ライフビュー・バランスファンド30(安定型)	172,992,850円
三井住友・ライフビュー・バランスファンド50(標準型)	266,935,279円
三井住友・ライフビュー・バランスファンド70(積極型)	134,510,540円
三井住友・DCバランスファンド(安定型)	10,940,493円
三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)	21,343,246円
三井住友・DCバランスファンド(成長型)	7,653,178円
三井住友・DC外国債券アクティブ	1,378,840,015円
SMAM・バランスファンドVA株40型(適格機関投資家専用)	200,149円
SMAM・バランスファンドVA株60型(適格機関投資家専用)	99,706円
SMAM・バランスファンドVA株80型(適格機関投資家専用)	71,796円
合計	1,993,587,252円

(3) 附属明細表

有価証券明細表

(a) 株式

該当事項はありません。

(b) 株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
国債証券	アメリカ・ドル	T 0.5 05/31/27	1,270,000.00	1,102,715.60	
		T 0.625 05/15/30	460,000.00	373,892.60	
		T 1.125 02/28/25	1,790,000.00	1,676,854.10	
		T 1.125 05/15/40	3,460,000.00	2,301,419.00	
		T 1.375 10/31/28	1,400,000.00	1,233,092.00	
		T 1.375 11/15/31	1,320,000.00	1,107,453.60	
		T 1.5 02/15/25	950,000.00	897,303.50	
		T 1.625 02/15/26	2,980,000.00	2,777,211.00	
		T 1.625 05/15/26	60,000.00	55,673.40	
		T 1.625 11/15/50	1,100,000.00	719,983.00	
		T 2.25 02/15/27	1,400,000.00	1,318,618.00	
		T 2.25 08/15/46	410,000.00	312,559.40	
		T 2.75 02/15/28	1,420,000.00	1,357,420.60	
		T 2.75 05/15/25	290,000.00	280,891.10	
		T 2.75 05/31/29	1,030,000.00	977,851.10	
		T 2.75 08/15/32	540,000.00	506,941.20	
		T 2.875 05/15/43	390,000.00	338,598.00	
		T 2.875 05/15/52	980,000.00	855,500.80	
		T 3 11/15/45	480,000.00	422,697.60	
		T 3.75 08/15/41	200,000.00	200,718.00	
T 4.375 02/15/38	190,000.00	209,666.90			
アメリカ・ドル小計			22,120,000.00	19,027,060.50 (2,577,786,157)	
カナダ・ドル	CAN	1 06/01/27	640,000.00	590,003.20	
		2 12/01/51	220,000.00	182,652.80	

カナダ・ドル小計		860,000.00	772,656.00 (77,296,506)	
オースト ラリア・ ドル	ACGB 0.25 11/21/24	390,000.00	369,431.40	
	ACGB 1.75 06/21/51	90,000.00	58,932.00	
	ACGB 3.25 06/21/39	320,000.00	302,812.80	
	ACGB 4.5 04/21/33	320,000.00	351,513.60	
オーストラリア・ドル小計		1,120,000.00	1,082,689.80 (100,744,286)	
シンガ ポール・ ドル	SIGB 2.875 07/01/29	300,000.00	297,000.00	
シンガポール・ドル小計		300,000.00	297,000.00 (29,872,260)	
イギリ ス・ボン ド	UKT 0.125 01/31/24	410,000.00	394,916.10	
	UKT 0.25 01/31/25	520,000.00	484,837.60	
	UKT 0.375 10/22/26	120,000.00	107,334.00	
	UKT 0.5 01/31/29	230,000.00	194,044.10	
	UKT 1.5 07/22/47	90,000.00	57,279.60	
	UKT 1.75 09/07/37	290,000.00	226,933.70	
	UKT 3.25 01/22/44	420,000.00	385,656.60	
	UKT 4.5 12/07/42	340,000.00	374,180.20	
イギリス・ボンド小計		2,420,000.00	2,225,181.90 (374,542,617)	
イスラエ ル・シュ ケル	ILGOV 2.25 09/28/28	690,000.00	650,773.50	
イスラエル・シュケル小計		690,000.00	650,773.50 (25,887,511)	
ノル ウェー・ クローネ	NGB 3 03/14/24	940,000.00	940,047.00	
ノルウェー・クローネ小計		940,000.00	940,047.00 (13,085,454)	
スウェー デン・ク ローナ	SGB 2.5 05/12/25	1,040,000.00	1,045,844.80	
スウェーデン・クローナ小計		1,040,000.00	1,045,844.80 (13,951,570)	
メキシ コ・ペソ	MBONO 5.75 03/05/26	4,500,000.00	4,121,865.00	
	MBONO 8.5 11/18/38	2,300,000.00	2,211,174.00	
メキシコ・ペソ小計		6,800,000.00	6,333,039.00 (43,707,469)	
オフショ ア・人民 元	CGB 2.75 06/15/29	2,800,000.00	2,780,596.00	
	CGB 3.72 04/12/51	2,500,000.00	2,674,775.00	

オフショア・人民元小計		5,300,000.00	5,455,371.00 (106,325,726)	
マレーシ ア・リン ギット	MALAYSIA GOVT	620,000.00	628,370.00	
マレーシア・リングイト小計		620,000.00	628,370.00 (19,329,164)	
ポーラ ン ド・ズロ チ	POLGB 2.25 10/25/24	710,000.00	656,338.20	
ポーランド・ズロチ小計		710,000.00	656,338.20 (20,290,564)	
ユーロ	BGB 4.25 03/28/41	290,000.00	349,450.00	
	BTPS 0 12/15/24	430,000.00	408,168.90	
	BTPS 1.5 04/30/45	100,000.00	64,193.00	
	BTPS 2.8 12/01/28	500,000.00	486,505.00	
	BTPS 5 08/01/34	170,000.00	185,379.90	
	DBR 0 08/15/50	320,000.00	197,856.00	
	DBR 0 08/15/52	100,000.00	59,857.00	
	DBR 2.5 08/15/46	290,000.00	326,299.30	
	DBR 4.75 07/04/34	30,000.00	38,631.60	
	FRTR 0 05/25/32	1,100,000.00	881,936.00	
	FRTR 0 11/25/30	580,000.00	486,231.40	
	FRTR 0 11/25/31	720,000.00	587,131.20	
	FRTR 0.75 11/25/28	160,000.00	147,428.80	
	FRTR 1.5 05/25/50	250,000.00	195,637.50	
	FRTR 4 10/25/38	1,290,000.00	1,511,441.40	
	IRISH 0.9 05/15/28	310,000.00	290,305.70	
	SPGB 0 01/31/26	1,060,000.00	983,796.60	
	SPGB 0 01/31/27	960,000.00	867,945.60	
	SPGB 0 05/31/25	800,000.00	754,640.00	
	SPGB 0.25 07/30/24	1,990,000.00	1,925,185.70	
	SPGB 0.85 07/30/37	530,000.00	383,221.80	
	SPGB 1.25 10/31/30	960,000.00	860,985.60	
	SPGB 1.5 04/30/27	240,000.00	230,808.00	
SPGB 2.7 10/31/48	450,000.00	409,549.50		
SPGB 4.4 10/31/23	1,280,000.00	1,302,963.20		
SPGB 4.7 07/30/41	330,000.00	398,966.70		
ユーロ小計		15,240,000.00	14,334,515.40 (2,074,347,724)	
国債証券合計			5,477,167,007 (5,477,167,007)	
地方債証券	カナダ・ ドル	ONT 2.05 06/02/30	380,000.00	344,812.00

	カナダ・ドル小計		380,000.00	344,812.00 (34,494,992)	
地方債証券合計				34,494,992 (34,494,992)	
特殊債券	ユーロ	DBJJP 0.01 09/09/25	500,000.00	462,605.00	
	ユーロ小計		500,000.00	462,605.00 (66,943,570)	
特殊債券合計				66,943,570 (66,943,570)	
社債券	アメリカ・ドル	MIZUHO FL 07/10/24	1,170,000.00	1,139,884.20	
		MUFG FL 09/12/25	1,220,000.00	1,217,779.60	
	アメリカ・ドル小計		2,390,000.00	2,357,663.80 (319,416,292)	
社債券合計				319,416,292 (319,416,292)	
合 計				5,898,021,861 (5,898,021,861)	

(注) 金額欄の()内は、外貨建有価証券にかかるものの内書きであり、また邦貨換算金額で表示しております。

通貨	銘柄数		組入債券 時価比率	合計金額に 対する比率
アメリカ・ドル	国債証券	21銘柄	43.1%	43.7%
	社債券	2銘柄	5.3%	5.4%
カナダ・ドル	国債証券	2銘柄	1.3%	1.3%
	地方債証券	1銘柄	0.6%	0.6%
オーストラリア・ドル	国債証券	4銘柄	1.7%	1.7%
シンガポール・ドル	国債証券	1銘柄	0.5%	0.5%
イギリス・ポンド	国債証券	8銘柄	6.3%	6.4%
イスラエル・シケル	国債証券	1銘柄	0.4%	0.4%
ノルウェー・クローネ	国債証券	1銘柄	0.2%	0.2%
スウェーデン・クローナ	国債証券	1銘柄	0.2%	0.2%
メキシコ・ペソ	国債証券	2銘柄	0.7%	0.7%
オフショア・人民元	国債証券	2銘柄	1.8%	1.8%
マレーシア・リングgit	国債証券	1銘柄	0.3%	0.3%
ポーランド・ズロチ	国債証券	1銘柄	0.3%	0.3%
ユーロ	国債証券	26銘柄	34.7%	35.2%
	特殊債券	1銘柄	1.1%	1.1%

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「注記表(デリバティブ取引に関する注記)」に記載しております。

【中間財務諸表】

1. 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)ならびに同規則第38条の3、第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。
なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第23期中間計算期間(2022年12月16日から2023年6月15日まで)の中間財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人により中間監査を受けております。

【三井住友・DCバランスファンド(安定型)】

(1)【中間貸借対照表】

(単位:円)

	第22期 (2022年12月15日現在)	第23期中間計算期間 (2023年6月15日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	275,915	563,884
コール・ローン	9,356,986	18,415,835
親投資信託受益証券	243,226,119	242,638,895
派生商品評価勘定	188,081	-
未収入金	580,918	-
流動資産合計	253,628,019	261,618,614
資産合計	253,628,019	261,618,614
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	91,521	388,212
未払金	-	1,298,534
未払受託者報酬	137,552	136,966
未払委託者報酬	1,788,734	1,781,091
その他未払費用	6,848	6,809
流動負債合計	2,024,655	3,611,612
負債合計	2,024,655	3,611,612
純資産の部		
元本等		
元本	195,248,223	193,087,925
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金()	56,355,141	64,919,077
(分配準備積立金)	33,217,707	31,006,658
元本等合計	251,603,364	258,007,002
純資産合計	251,603,364	258,007,002
負債純資産合計	253,628,019	261,618,614

（ 2 ） 【 中間損益及び剰余金計算書 】

（ 単位：円 ）

	第22期中間計算期間 自 2021年12月16日 至 2022年 6月15日	第23期中間計算期間 自 2022年12月16日 至 2023年 6月15日
営業収益		
受取利息	23	50
有価証券売買等損益	11,773,801	13,512,776
為替差損益	6,019,486	2,414,622
営業収益合計	17,793,264	11,098,204
営業費用		
支払利息	1,006	2,912
受託者報酬	142,479	136,966
委託者報酬	1,852,807	1,781,091
その他費用	7,112	6,949
営業費用合計	2,003,404	1,927,918
営業利益又は営業損失（ ）	19,796,668	9,170,286
経常利益又は経常損失（ ）	19,796,668	9,170,286
中間純利益又は中間純損失（ ）	19,796,668	9,170,286
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	725,602	6,314
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	76,854,615	56,355,141
剰余金増加額又は欠損金減少額	3,459,045	3,236,783
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	3,459,045	3,236,783
剰余金減少額又は欠損金増加額	5,720,059	3,849,447
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	5,720,059	3,849,447
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	55,522,535	64,919,077

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針の注記)

項目	第23期中間計算期間 自 2022年12月16日 至 2023年6月15日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。</p>

(中間貸借対照表に関する注記)

項目	第22期 (2022年12月15日現在)	第23期中間計算期間 (2023年6月15日現在)
1. 当中間計算期間の末日における受益権の総数	195,248,223口	193,087,925口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.2886円 (1万口当たりの純資産額12,886円)	1口当たり純資産額 1.3362円 (1万口当たりの純資産額13,362円)

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項目	第23期中間計算期間 (2023年6月15日現在)
1. 中間貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券（親投資信託受益証券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p>

	(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。

(デリバティブ取引に関する注記)

第22期（2022年12月15日現在）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位：円)

区 分	種 類	契 約 額 等		時 価	評 価 損 益
			う ち 1 年 超		
市場取引以外 の取引	為替予約取引 売建				
	アメリカ・ドル	20,948,235	-	20,760,154	188,081
	ユーロ	13,339,827	-	13,431,348	91,521
	小計	34,288,062	-	34,191,502	96,560
合 計		34,288,062	-	34,191,502	96,560

第23期中間計算期間（2023年6月15日現在）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位：円)

区 分	種 類	契 約 額 等		時 価	評 価 損 益
			う ち 1 年 超		
市場取引以外 の取引	為替予約取引 売建				
	アメリカ・ドル	23,839,217	-	24,017,460	178,243
	ユーロ	13,282,368	-	13,492,337	209,969
	小計	37,121,585	-	37,509,797	388,212
合 計		37,121,585	-	37,509,797	388,212

(注) 1. 時価の算定方法

為替予約取引の時価の算定方法については以下のように評価しております。

- 1) 中間計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

中間計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

中間計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 中間計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。

- ・ 中間計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い受渡日として、発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。

2) 中間計算期間末日において対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、中間計算期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

3) 上記の算定方法にて、適正な時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認められた価額で評価しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引はありません。

(その他の注記)

項目	第22期 (2022年12月15日現在)	第23期中間計算期間 (2023年6月15日現在)
期首元本額	195,245,058円	195,248,223円
期中追加設定元本額	19,184,342円	11,192,338円
期中一部解約元本額	19,181,177円	13,352,636円

【三井住友・DCバランスファンド（安定成長型）】

（１）【中間貸借対照表】

（単位：円）

	第22期 （2022年12月15日現在）	第23期中間計算期間 （2023年 6月15日現在）
資産の部		
流動資産		
金銭信託	697,297	1,834,709
コール・ローン	23,647,121	59,919,628
親投資信託受益証券	692,562,753	711,538,139
派生商品評価勘定	642,404	-
未収入金	1,859,217	4,360,000
流動資産合計	719,408,792	777,652,476
資産合計	719,408,792	777,652,476
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	234,215	1,200,710
未払金	-	4,240,471
未払解約金	-	3,348,146
未払受託者報酬	380,682	394,428
未払委託者報酬	4,949,303	5,128,058
その他未払費用	19,070	19,727
流動負債合計	5,583,270	14,331,540
負債合計	5,583,270	14,331,540
純資産の部		
元本等		
元本	450,696,033	451,566,939
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	263,129,489	311,753,997
（分配準備積立金）	165,987,951	157,982,226
元本等合計	713,825,522	763,320,936
純資産合計	713,825,522	763,320,936
負債純資産合計	719,408,792	777,652,476

（ 2 ） 【 中間損益及び剰余金計算書 】

（ 単位：円 ）

	第22期中間計算期間 自 2021年12月16日 至 2022年 6月15日	第23期中間計算期間 自 2022年12月16日 至 2023年 6月15日
営業収益		
受取利息	63	147
有価証券売買等損益	40,730,218	61,655,386
為替差損益	19,996,238	7,697,327
営業収益合計	60,726,393	53,958,206
営業費用		
支払利息	2,925	9,066
受託者報酬	385,164	394,428
委託者報酬	5,007,751	5,128,058
その他費用	19,442	20,346
営業費用合計	5,415,282	5,551,898
営業利益又は営業損失（ ）	66,141,675	48,406,308
経常利益又は経常損失（ ）	66,141,675	48,406,308
中間純利益又は中間純損失（ ）	66,141,675	48,406,308
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	743,215	502,300
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	305,447,758	263,129,489
剰余金増加額又は欠損金減少額	14,852,595	13,783,152
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	14,852,595	13,783,152
剰余金減少額又は欠損金増加額	8,702,606	13,062,652
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	8,702,606	13,062,652
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	246,199,287	311,753,997

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針の注記)

項目	第23期中間計算期間 自 2022年12月16日 至 2023年6月15日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。</p>

(中間貸借対照表に関する注記)

項目	第22期 (2022年12月15日現在)	第23期中間計算期間 (2023年6月15日現在)
1. 当中間計算期間の末日における受益権の総数	450,696,033口	451,566,939口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.5838円 (1万口当たりの純資産額15,838円)	1口当たり純資産額 1.6904円 (1万口当たりの純資産額16,904円)

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項目	第23期中間計算期間 (2023年6月15日現在)
1. 中間貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券（親投資信託受益証券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p>

	(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。

(デリバティブ取引に関する注記)

第22期（2022年12月15日現在）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位：円)

区 分	種 類	契 約 額 等		時 価	評 価 損 益
			う ち 1 年 超		
市場取引以外 の取引	為替予約取引 売建				
	アメリカ・ドル	71,550,465	-	70,908,061	642,404
	ユーロ	34,138,482	-	34,372,697	234,215
	小計	105,688,947	-	105,280,758	408,189
合 計		105,688,947	-	105,280,758	408,189

第23期中間計算期間（2023年6月15日現在）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位：円)

区 分	種 類	契 約 額 等		時 価	評 価 損 益
			う ち 1 年 超		
市場取引以 外の取引	為替予約取引 売建				
	アメリカ・ドル	84,546,061	-	85,178,204	632,143
	ユーロ	35,966,864	-	36,535,431	568,567
	小計	120,512,925	-	121,713,635	1,200,710
合 計		120,512,925	-	121,713,635	1,200,710

(注) 1. 時価の算定方法

為替予約取引の時価の算定方法については以下のように評価しております。

- 1) 中間計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

中間計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

中間計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 中間計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。

- ・ 中間計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い受渡日として、発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。

2) 中間計算期間末日において対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、中間計算期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

3) 上記の算定方法にて、適正な時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認められた価額で評価しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引はありません。

(その他の注記)

項目	第22期 (2022年12月15日現在)	第23期中間計算期間 (2023年6月15日現在)
期首元本額	420,665,162円	450,696,033円
期中追加設定元本額	54,458,838円	23,254,332円
期中一部解約元本額	24,427,967円	22,383,426円

【三井住友・DCバランスファンド(成長型)】

(1)【中間貸借対照表】

(単位:円)

	第22期 (2022年12月15日現在)	第23期中間計算期間 (2023年6月15日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	443,570	982,729
コール・ローン	15,042,587	32,094,880
親投資信託受益証券	370,454,682	406,156,501
派生商品評価勘定	493,406	-
未収入金	1,405,088	750,000
流動資産合計	387,839,333	439,984,110
資産合計	387,839,333	439,984,110
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	130,885	815,277
未払金	-	3,113,642
未払解約金	-	747,932
未払受託者報酬	207,234	215,592
未払委託者報酬	2,694,567	2,803,274
その他未払費用	10,359	10,747
流動負債合計	3,043,045	7,706,464
負債合計	3,043,045	7,706,464
純資産の部		
元本等		
元本	208,521,242	213,812,726
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金()	176,275,046	218,464,920
(分配準備積立金)	106,537,522	101,363,384
元本等合計	384,796,288	432,277,646
純資産合計	384,796,288	432,277,646
負債純資産合計	387,839,333	439,984,110

（ 2 ） 【 中間損益及び剰余金計算書 】

（ 単位：円 ）

	第22期中間計算期間 自 2021年12月16日 至 2022年 6月15日	第23期中間計算期間 自 2022年12月16日 至 2023年 6月15日
営業収益		
受取利息	31	76
有価証券売買等損益	25,417,697	46,046,819
為替差損益	13,515,340	5,371,892
営業収益合計	38,933,006	40,675,003
営業費用		
支払利息	1,618	4,833
受託者報酬	207,832	215,592
委託者報酬	2,702,375	2,803,274
その他費用	10,428	11,028
営業費用合計	2,922,253	3,034,727
営業利益又は営業損失（ ）	41,855,259	37,640,276
経常利益又は経常損失（ ）	41,855,259	37,640,276
中間純利益又は中間純損失（ ）	41,855,259	37,640,276
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額（ ）	341,004	171,285
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	197,101,087	176,275,046
剰余金増加額又は欠損金減少額	13,161,716	13,600,978
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	13,161,716	13,600,978
剰余金減少額又は欠損金増加額	3,669,990	8,880,095
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	3,669,990	8,880,095
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	165,078,558	218,464,920

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針の注記)

項目	第23期中間計算期間 自 2022年12月16日 至 2023年6月15日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>親投資信託受益証券は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引</p> <p>個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。</p>

(中間貸借対照表に関する注記)

項目	第22期 (2022年12月15日現在)	第23期中間計算期間 (2023年6月15日現在)
1. 当中間計算期間の末日における受益権の総数	208,521,242口	213,812,726口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.8454円 (1万口当たりの純資産額18,454円)	1口当たり純資産額 2.0218円 (1万口当たりの純資産額20,218円)

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項目	第23期中間計算期間 (2023年6月15日現在)
1. 中間貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券（親投資信託受益証券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p>

	(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。

(デリバティブ取引に関する注記)

第22期（2022年12月15日現在）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位：円)

区 分	種 類	契 約 額 等		時 価	評 価 損 益
			う ち 1 年 超		
市場取引以外 の取引	為替予約取引 売建				
	アメリカ・ドル	54,955,110	-	54,461,704	493,406
	ユーロ	19,077,387	-	19,208,272	130,885
	小計	74,032,497	-	73,669,976	362,521
合 計		74,032,497	-	73,669,976	362,521

第23期中間計算期間（2023年6月15日現在）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位：円)

区 分	種 類	契 約 額 等		時 価	評 価 損 益
			う ち 1 年 超		
市場取引以外 の取引	為替予約取引 売建				
	アメリカ・ドル	64,864,846	-	65,349,835	484,989
	ユーロ	20,893,614	-	21,223,902	330,288
	小計	85,758,460	-	86,573,737	815,277
合 計		85,758,460	-	86,573,737	815,277

(注) 1. 時価の算定方法

為替予約取引の時価の算定方法については以下のように評価しております。

- 1) 中間計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

中間計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

中間計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 中間計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。

・中間計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い受渡日として、発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。

2)中間計算期間末日において対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、中間計算期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

3)上記の算定方法にて、適正な時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認められた価額で評価しております。

2.ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引はありません。

(その他の注記)

項目	第22期 (2022年12月15日現在)	第23期中間計算期間 (2023年6月15日現在)
期首元本額	193,280,750円	208,521,242円
期中追加設定元本額	28,771,839円	15,799,067円
期中一部解約元本額	13,531,347円	10,507,583円

(参考)

「三井住友・DCバランスファンド(安定型)」、「三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)」および「三井住友・DCバランスファンド(成長型)」は、「国内株式マザーファンド(A号)」、「国内債券マザーファンド(B号)」、「外国株式マザーファンド(A号)」および「外国債券マザーファンド(A号)」受益証券を主要投資対象としており、中間貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券です。

なお、以下に記載した状況は、監査の対象外です。

国内株式マザーファンド(A号)

(1)貸借対照表

(単位:円)

	(2022年12月15日現在)	(2023年6月15日現在)
資産の部		
流動資産		
金銭信託	523,580	553,883
コール・ローン	17,755,918	18,089,221
株式	1,038,988,200	1,172,481,950
未収入金	-	15,728,272
未収配当金	245,250	8,684,692
流動資産合計	1,057,512,948	1,215,538,018
資産合計	1,057,512,948	1,215,538,018
負債の部		
流動負債		
未払金	-	16,191,431
未払解約金	20,676	6,391,688
その他未払費用	61	14
流動負債合計	20,737	22,583,133
負債合計	20,737	22,583,133
純資産の部		
元本等		
元本	663,608,255	635,145,172

剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	393,883,956	557,809,713
元本等合計	1,057,492,211	1,192,954,885
純資産合計	1,057,492,211	1,192,954,885
負債純資産合計	1,057,512,948	1,215,538,018

(2) 注記表

(重要な会計方針の注記)

項目	自 2022年12月16日 至 2023年6月15日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>株式は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項目	(2022年12月15日現在)	(2023年6月15日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	663,608,255口	635,145,172口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.5935円 (1万口当たりの純資産額15,935円)	1口当たり純資産額 1.8782円 (1万口当たりの純資産額18,782円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項目	(2023年6月15日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券（株式） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p> <p>(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。
----------------------------	--

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

(2022年12月15日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	658,063,858円
同期中における追加設定元本額	105,463,178円
同期中における一部解約元本額	99,918,781円
2022年12月15日現在の元本の内訳	
三井住友・DCバランスファンド(安定型)	28,329,523円
三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)	144,770,029円
三井住友・DCバランスファンド(成長型)	105,689,429円
三井住友・DC国内株式アクティブS	371,344,869円
SMAM・バランスファンドVA安定型(適格機関投資家専用)	11,672,288円
SMAM・バランスファンドVA株40型(適格機関投資家専用)	650,900円
SMAM・バランスファンドVA株60型(適格機関投資家専用)	455,834円
SMAM・バランスファンドVA株80型(適格機関投資家専用)	695,383円
合 計	663,608,255円

(2023年6月15日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	663,608,255円
同期中における追加設定元本額	38,268,040円
同期中における一部解約元本額	66,731,123円
2023年6月15日現在の元本の内訳	
三井住友・DCバランスファンド(安定型)	26,040,775円
三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)	132,166,346円
三井住友・DCバランスファンド(成長型)	103,373,550円
三井住友・DC国内株式アクティブS	362,980,634円
SMAM・バランスファンドVA安定型(適格機関投資家専用)	9,676,710円
SMAM・バランスファンドVA株40型(適格機関投資家専用)	612,278円
SMAM・バランスファンドVA株60型(適格機関投資家専用)	114,744円
SMAM・バランスファンドVA株80型(適格機関投資家専用)	180,135円
合 計	635,145,172円

国内債券マザーファンド(B号)

(1) 貸借対照表

(単位:円)

(2022年12月15日現在)

(2023年6月15日現在)

資産の部		
流動資産		
金銭信託	63,146,823	331,710,096
コール・ローン	2,141,469,422	10,833,295,935
国債証券	223,024,273,320	174,498,939,110
地方債証券	5,827,944,200	5,819,622,800
特殊債券	14,820,656,844	18,093,221,363
社債券	38,768,753,300	69,238,681,500
未収入金	1,498,096,000	-
未収利息	429,567,773	493,749,129
前払金	-	740,000
前払費用	51,204,889	94,293,096
差入委託証拠金	-	106,200,000
流動資産合計	286,625,112,571	279,510,453,029
資産合計	286,625,112,571	279,510,453,029
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	-	3,190,860
未払金	1,497,113,000	500,000,000
未払解約金	11,629,076	7,600,934
その他未払費用	9,958	13,685
流動負債合計	1,508,752,034	510,805,479
負債合計	1,508,752,034	510,805,479
純資産の部		
元本等		
元本	207,882,455,077	200,882,255,315
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	77,233,905,460	78,117,392,235
元本等合計	285,116,360,537	278,999,647,550
純資産合計	285,116,360,537	278,999,647,550
負債純資産合計	286,625,112,571	279,510,453,029

(2) 注記表

(重要な会計方針の注記)

項目	自 2022年12月16日 至 2023年6月15日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券は個別法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p>

	(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	先物取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、計算期間末日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段または最終相場によっております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	(2022年12月15日現在)	(2023年6月15日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	207,882,455,077口	200,882,255,315口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 1.3715円 (1万口当たりの純資産額13,715円)	1口当たり純資産額 1.3889円 (1万口当たりの純資産額13,889円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項目	(2023年6月15日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券（国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。

(デリバティブ取引に関する注記)

(2022年12月15日現在)

該当事項はありません。

(2023年6月15日現在)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位：円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち 1年超		
	債券先物取引 買建				

市場取引	長国 先 0509月	8,739,910,860	-	8,736,720,000	3,190,860
	小計	8,739,910,860	-	8,736,720,000	3,190,860
	合 計	8,739,910,860	-	8,736,720,000	3,190,860

(注) 1. 時価の算定方法

債券先物取引の時価の算定方法については以下のように評価しております。

1)原則として計算期間末日に知りうる直近の日の主たる取引所の発表する清算値段または最終相場で評価しております。

このような時価が発表されていない場合には、計算期間末日に最も近い最終相場や気配値等、原則に準ずる方法で評価しております。

2)債券先物取引の残高は、契約額ベースで表示しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引はありません。

(その他の注記)

(2022年12月15日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	150,024,384,893円
同期中における追加設定元本額	61,048,094,708円
同期中における一部解約元本額	3,190,024,524円
2022年12月15日現在の元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	1,003,154,942円
三井住友・年金プラン50	944,766,745円
三井住友・年金プラン70	335,935,019円
三井住友・DCバランスファンド(安定型)	104,783,681円
三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)	212,517,304円
三井住友・DCバランスファンド(成長型)	67,478,517円
三井住友・DC国内債券アクティブ	314,188,601円
三井住友・日本債券年金ファンド	4,413,376,330円
S M A M・年金国内債券アクティブファンド(適格機関投資家専用)	2,944,482,418円
S M A M・バランスファンドVA安定型(適格機関投資家専用)	112,162,659円
S M A M・バランスファンドVA株40型(適格機関投資家専用)	1,312,609円
S M A M・バランスファンドVA株60型(適格機関投資家専用)	362,331円
S M A M・バランスファンドVA株80型(適格機関投資家専用)	155,587円
バランスファンドVA(安定運用型) < 適格機関投資家限定 >	71,843,901円
三井住友 / F O F s 用日本債F(適格機関投資家限定)	197,355,934,433円
合 計	207,882,455,077円

(2023年6月15日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	207,882,455,077円
同期中における追加設定元本額	11,095,843,310円
同期中における一部解約元本額	18,096,043,072円
2023年6月15日現在の元本の内訳	
三井住友・年金プラン30	1,017,556,220円
三井住友・年金プラン50	968,257,663円
三井住友・年金プラン70	339,874,727円

三井住友・DCバランスファンド(安定型)	99,125,530円
三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)	199,889,430円
三井住友・DCバランスファンド(成長型)	63,588,457円
三井住友・DC国内債券アクティブ	316,767,331円
三井住友・日本債券年金ファンド	4,418,056,572円
S M A M・年金国内債券アクティブファンド(適格機関投資家専用)	2,857,319,797円
S M A M・バランスファンドV A安定型(適格機関投資家専用)	103,334,636円
S M A M・バランスファンドV A株40型(適格機関投資家専用)	1,310,559円
S M A M・バランスファンドV A株60型(適格機関投資家専用)	100,983円
S M A M・バランスファンドV A株80型(適格機関投資家専用)	43,396円
バランスファンドV A(安定運用型)<適格機関投資家限定>	73,508,575円
三井住友/ F O F s用日本債F(適格機関投資家限定)	190,423,521,439円
合 計	200,882,255,315円

外国株式マザーファンド(A号)

(1) 貸借対照表

(単位:円)

	(2022年12月15日現在)	(2023年6月15日現在)
資産の部		
流動資産		
預金	6,539,821	10,131,641
金銭信託	1,297,140	1,232,627
コール・ローン	43,989,327	40,256,277
株式	2,342,668,898	2,753,261,805
未収配当金	1,951,033	1,653,716
流動資産合計	2,396,446,219	2,806,536,066
資産合計	2,396,446,219	2,806,536,066
負債の部		
流動負債		
未払解約金	-	961,275
その他未払費用	158	44
流動負債合計	158	961,319
負債合計	158	961,319
純資産の部		
元本等		
元本	629,837,324	635,564,616
剰余金		
剰余金又は欠損金()	1,766,608,737	2,170,010,131
元本等合計	2,396,446,061	2,805,574,747
純資産合計	2,396,446,061	2,805,574,747
負債純資産合計	2,396,446,219	2,806,536,066

(2) 注記表

(重要な会計方針の注記)

項 目	自 2022年12月16日 至 2023年6月15日
-----	-------------------------------

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>株式は移動平均法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	<p>為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。</p>
3. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	<p>外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条に基づいて処理しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項目	(2022年12月15日現在)	(2023年6月15日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	629,837,324口	635,564,616口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 3.8049円 (1万口当たりの純資産額38,049円)	1口当たり純資産額 4.4143円 (1万口当たりの純資産額44,143円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項目	(2023年6月15日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	<p>(1) 有価証券（株式） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。</p> <p>(2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。</p> <p>(3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p>
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。

（デリバティブ取引に関する注記）

該当事項はありません。

（その他の注記）

（2022年12月15日現在）	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	629,886,510円
同期中における追加設定元本額	114,341,719円
同期中における一部解約元本額	114,390,905円
2022年12月15日現在の元本の内訳	
三井住友・DCバランスファンド（安定型）	5,671,992円
三井住友・DCバランスファンド（安定成長型）	27,972,944円
三井住友・DCバランスファンド（成長型）	22,747,953円
三井住友・DC外国株式アクティブ	570,658,501円
S M A M・バランスファンドVA安定型（適格機関投資家専用）	2,327,220円
S M A M・バランスファンドVA株40型（適格機関投資家専用）	158,042円
S M A M・バランスファンドVA株60型（適格機関投資家専用）	131,866円
S M A M・バランスファンドVA株80型（適格機関投資家専用）	168,806円
合 計	629,837,324円

（2023年6月15日現在）	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	629,837,324円
同期中における追加設定元本額	46,807,984円
同期中における一部解約元本額	41,080,692円
2023年6月15日現在の元本の内訳	
三井住友・DCバランスファンド（安定型）	5,189,158円
三井住友・DCバランスファンド（安定成長型）	26,761,633円
三井住友・DCバランスファンド（成長型）	22,314,382円
三井住友・DC外国株式アクティブ	579,043,448円
S M A M・バランスファンドVA安定型（適格機関投資家専用）	2,020,530円
S M A M・バランスファンドVA株40型（適格機関投資家専用）	154,664円
S M A M・バランスファンドVA株60型（適格機関投資家専用）	34,835円
S M A M・バランスファンドVA株80型（適格機関投資家専用）	45,966円
合 計	635,564,616円

外国債券マザーファンド（A号）

（1）貸借対照表

（単位：円）

	（2022年12月15日現在）	（2023年6月15日現在）
資産の部		
流動資産		
預金	27,251,526	52,312,553
金銭信託	762,066	1,119,372
コール・ローン	25,843,585	36,557,488

国債証券	5,477,167,007	5,672,343,711
地方債証券	34,494,992	35,184,311
特殊債券	66,943,570	70,142,672
社債券	319,416,292	333,175,977
派生商品評価勘定	842,169	4,680,424
未収入金	123,386,889	149,647,420
未収利息	20,649,773	29,365,841
前払費用	5,063,245	13,373,093
流動資産合計	6,101,821,114	6,397,902,862
資産合計	6,101,821,114	6,397,902,862
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	3,209,992	9,460,619
未払金	123,182,406	150,686,099
未払解約金	191,329	3,303,381
その他未払費用	230	61
流動負債合計	126,583,957	163,450,160
負債合計	126,583,957	163,450,160
純資産の部		
元本等		
元本	1,993,587,252	2,036,105,807
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）	3,981,649,905	4,198,346,895
元本等合計	5,975,237,157	6,234,452,702
純資産合計	5,975,237,157	6,234,452,702
負債純資産合計	6,101,821,114	6,397,902,862

(2) 注記表

(重要な会計方針の注記)

項 目	自 2022年12月16日 至 2023年6月15日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券は個別法に基づき、以下の通り、原則として時価で評価しております。</p> <p>(1) 金融商品取引所等に上場されている有価証券 金融商品取引所等に上場されている有価証券は、原則として金融商品取引所等の最終相場に基づいて評価しております。</p> <p>(2) 金融商品取引所等に上場されていない有価証券 金融商品取引所等に上場されていない有価証券は、原則として金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額または業界団体が公表する売買参考統計値等で評価しております。</p> <p>(3) 時価が入手できなかった有価証券 直近の最終相場等によって時価評価することが適当ではないと委託者が判断した場合には、委託者としての忠実義務に基づき合理的事由をもって時価と認める評価額により評価しております。</p>

2. デリバティブの評価基準及び評価方法	為替予約取引 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、わが国における対顧客先物相場の仲値によっております。
3. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条に基づいて処理しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	(2022年12月15日現在)	(2023年6月15日現在)
1. 当計算期間の末日における受益権の総数	1,993,587,252口	2,036,105,807口
2. 1単位当たり純資産の額	1口当たり純資産額 2.9972円 (1万口当たりの純資産額29,972円)	1口当たり純資産額 3.0619円 (1万口当たりの純資産額30,619円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

項目	(2023年6月15日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	金融商品は、原則として、すべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券（国債証券、地方債証券、特殊債券、社債券） 「重要な会計方針の注記」に記載しております。 (2) 派生商品評価勘定（デリバティブ取引） デリバティブ取引については、「デリバティブ取引に関する注記」に記載しております。 (3) コール・ローン、未収入金、未払金等の金銭債権および金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引にかかる市場リスクを示すものではありません。

(デリバティブ取引に関する注記)

(2022年12月15日現在)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位：円)

区分	種類	契約額等		時価	評価損益
			うち 1年超		
	為替予約取引 買建				
	アメリカ・ドル	101,537,903	-	100,907,820	630,083
	カナダ・ドル	8,891,487	-	8,904,600	13,113
	オーストラリア・ドル	7,906,895	-	8,026,620	119,725
	ニュージーランド・ドル	12,174,725	-	12,301,460	126,735

市場取引以 外の取引	デンマーク・クロー ネ	26,898,690	-	27,104,000	205,310
	ノルウェー・クロー ネ	459,652	-	469,540	9,888
	メキシコ・ペソ	4,973,470	-	4,942,902	30,568
	オフショア・人民元	102,820,849	-	102,166,873	653,976
	ユーロ	48,970,791	-	49,076,720	105,929
	小計	314,634,462	-	313,900,535	733,927
	売建				
	アメリカ・ドル	49,225,165	-	48,981,780	243,385
	イギリス・ポンド	90,125,915	-	91,018,200	892,285
	イスラエル・シケ ル	5,230,896	-	5,212,812	18,084
	スウェーデン・ク ローナ	1,569,108	-	1,591,200	22,092
	ユーロ	148,551,892	-	149,532,880	980,988
	小計	294,702,976	-	296,336,872	1,633,896
	合 計	609,337,438	-	610,237,407	2,367,823

(2023年6月15日現在)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(単位：円)

区 分	種 類	契 約 額 等		時 価	評 価 損 益
			う ち 1 年 超		
市場取引以 外の取引	為替予約取引				
	買建				
	アメリカ・ドル	133,136,281	-	133,752,701	616,420
	カナダ・ドル	12,817,516	-	12,995,600	178,084
	ニュージーランド・ ドル	11,830,769	-	12,162,853	332,084
	イギリス・ポンド	93,317,589	-	93,852,803	535,214
	デンマーク・クロー ネ	27,731,732	-	28,338,660	606,928
	ノルウェー・クロー ネ	13,200,994	-	13,865,303	664,309
	オフショア・人民元	165,722,986	-	165,880,905	157,919
	ユーロ	71,206,410	-	72,795,876	1,589,466
	小計	528,964,277	-	533,644,701	4,680,424
	売建				
	アメリカ・ドル	96,627,524	-	96,888,330	260,806
	オーストラリア・ド ル	3,216,072	-	3,297,791	81,719
	イギリス・ポンド	395,357,262	-	404,254,721	8,897,459
	イスラエル・シケ ル	4,942,902	-	5,113,970	171,068

	スウェーデン・ク ローナ	1,513,178	-	1,555,356	42,178
	メキシコ・ペソ	325,179	-	332,568	7,389
	小計	501,982,117	-	511,442,736	9,460,619
	合 計	1,030,946,394	-	1,045,087,437	4,780,195

(注) 1. 時価の算定方法

為替予約取引の時価の算定方法については以下のように評価しております。

- 1) 計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・ 計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている対顧客先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。
- ・ 計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い受渡日として、発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。

- 2) 計算期間末日において対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

- 3) 上記の算定方法にて、適正な時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認められた価額で評価しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引はありません。

(その他の注記)

(2022年12月15日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	1,959,828,448円
同期中における追加設定元本額	194,419,036円
同期中における一部解約元本額	160,660,232円
2022年12月15日現在の元本の内訳	
三井住友・ライフビュー・バランスファンド30(安定型)	172,992,850円
三井住友・ライフビュー・バランスファンド50(標準型)	266,935,279円
三井住友・ライフビュー・バランスファンド70(積極型)	134,510,540円
三井住友・DCバランスファンド(安定型)	10,940,493円
三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)	21,343,246円
三井住友・DCバランスファンド(成長型)	7,653,178円
三井住友・DC外国債券アクティブ	1,378,840,015円
S M A M・バランスファンドV A株40型(適格機関投資家専用)	200,149円
S M A M・バランスファンドV A株60型(適格機関投資家専用)	99,706円
S M A M・バランスファンドV A株80型(適格機関投資家専用)	71,796円
合 計	1,993,587,252円

(2023年6月15日現在)	
開示対象ファンドの	
期首における当該親投資信託の元本額	1,993,587,252円

同期中における追加設定元本額	113,841,358円
同期中における一部解約元本額	71,322,803円
2023年6月15日現在の元本の内訳	
三井住友・ライフビュー・バランスファンド30(安定型)	175,523,043円
三井住友・ライフビュー・バランスファンド50(標準型)	278,055,470円
三井住友・ライフビュー・バランスファンド70(積極型)	143,820,559円
三井住友・DCバランスファンド(安定型)	10,825,685円
三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)	22,059,180円
三井住友・DCバランスファンド(成長型)	8,223,625円
三井住友・DC外国債券アクティブ	1,397,350,656円
SMAM・バランスファンドVA株40型(適格機関投資家専用)	200,149円
SMAM・バランスファンドVA株60型(適格機関投資家専用)	27,428円
SMAM・バランスファンドVA株80型(適格機関投資家専用)	20,012円
合計	2,036,105,807円

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

三井住友・DCバランスファンド（安定型）

2023年6月30日現在

資産総額	254,797,389円
負債総額	1,900,525円
純資産総額（ - ）	252,896,864円
発行済口数	188,680,109口
1口当たり純資産額（ / ） （1万口当たり純資産額）	1.3403円 (13,403円)

三井住友・DCバランスファンド（安定成長型）

2023年6月30日現在

資産総額	768,177,665円
負債総額	6,101,330円
純資産総額（ - ）	762,076,335円
発行済口数	449,039,716口
1口当たり純資産額（ / ） （1万口当たり純資産額）	1.6971円 (16,971円)

三井住友・DCバランスファンド（成長型）

2023年6月30日現在

資産総額	442,654,712円
負債総額	4,184,868円
純資産総額（ - ）	438,469,844円
発行済口数	215,917,378口
1口当たり純資産額（ / ） （1万口当たり純資産額）	2.0307円 (20,307円)

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、ファンドの受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券は発行されません。

イ 名義書換

該当事項はありません。

ロ 受益者名簿

作成しません。

八 受益者に対する特典

ありません。

二 受益権の譲渡および譲渡制限等

(イ) 受益権の譲渡

- a. 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。
- b. 上記aの申請のある場合には、上記aの振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記aの振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等(当該他の振替機関等の上位機関を含みます。)に社振法の規定に従い、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。
- c. 上記aの振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(ロ) 受益権の譲渡制限および譲渡の対抗要件

譲渡制限はありません。ただし、受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

ホ 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議の上、社振法に定めるところに従い、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

ヘ 償還金

償還金は、原則として、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者に支払います。

ト 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等に従って取り扱われます。

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

イ 資本金の額および株式数

	2023年6月30日現在
資本金の額	20億円
会社が発行する株式の総数	60,000,000株
発行済株式総数	33,870,060株

ロ 最近5年間における資本金の額の増減 該当ありません。

八 会社の機構

委託会社の取締役は8名以内とし、株主総会で選任されます。取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとします。

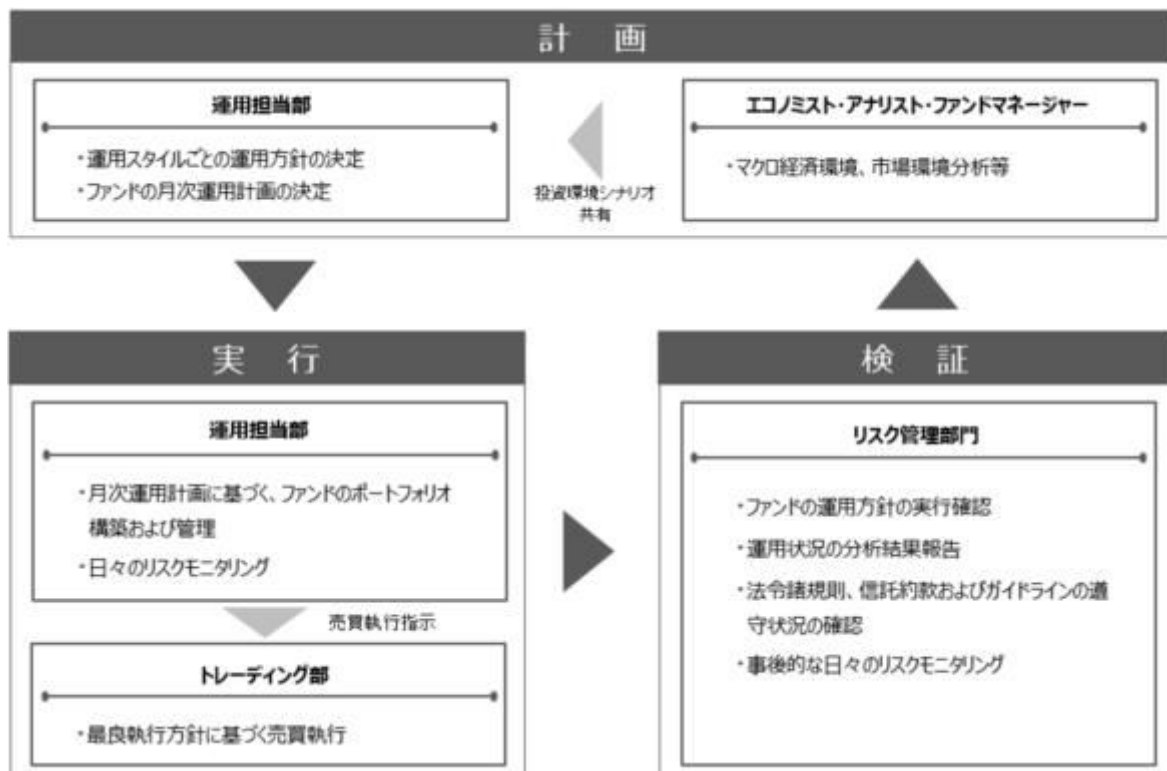
取締役の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとし、補欠または増員によって選任された取締役の任期は、他の現任取締役の任期の満了する時までとします。

委託会社の業務上重要な事項は、取締役会の決議により決定します。

取締役会は、取締役会の決議によって、代表取締役若干名を選定します。

また、取締役会の決議によって、取締役社長を1名選定し、必要に応じて取締役会長1名を選定することができます。

二 投資信託の運用の流れ



2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として投資運用業および投資助言業務を行っています。また、「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業にかかる業務を行っています。

2023年6月30日現在、委託会社が運用を行っている投資信託（親投資信託は除きます）は、以下の通りです。

	本数(本)	純資産総額(百万円)
追加型株式投資信託	704	10,457,929
単位型株式投資信託	96	573,616
追加型公社債投資信託	1	25,933
単位型公社債投資信託	171	279,100
合計	972	11,336,579

3【委託会社等の経理状況】

- 1 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。
- 2 当社は、当事業年度（2022年4月1日から2023年3月31日まで）の財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任 あずさ監査法人の監査を受けております。

(1)【貸借対照表】

	(単位：千円)	
	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	49,008,279	37,742,400
金銭の信託	-	12,645,575
顧客分別金信託	300,041	300,046
前払費用	475,266	546,900
未収入金	103,809	437,880
未収委託者報酬	12,125,117	11,563,662
未収運用受託報酬	2,437,063	2,138,030
未収投資助言報酬	388,639	344,586
未収収益	36,700	35,477
その他の流動資産	18,458	8,423
流動資産合計	64,893,375	65,762,982
固定資産		
有形固定資産	1	
建物	1,433,442	1,361,305
器具備品	653,985	559,057
土地	710	710

リース資産	7,357	4,114
建設仮勘定	5,500	81,240
有形固定資産合計	2,100,996	2,006,427
無形固定資産		
ソフトウェア	2,766,476	2,414,295
ソフトウェア仮勘定	100,616	508,956
のれん	3,349,950	3,045,409
顧客関連資産	13,558,615	11,445,340
電話加入権	12,716	12,706
商標権	42	36
無形固定資産合計	19,788,417	17,426,744
投資その他の資産		
投資有価証券	14,212,354	9,222,276
関係会社株式	11,246,398	11,850,598
長期差入保証金	1,414,646	1,388,987
長期前払費用	77,936	80,207
会員権	90,479	90,479
貸倒引当金	20,750	20,750
投資その他の資産合計	27,021,065	22,611,799
固定資産合計	48,910,479	42,044,971
資産合計	113,803,855	107,807,953

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
リース債務	3,567	2,564
顧客からの預り金	6,045	11,094
その他の預り金	196,515	128,069
未払金		
未払収益分配金	1,969	2,013
未払償還金	152	1,312
未払手数料	5,545,582	5,194,011
その他未払金	48,893	259,542
未払費用	7,379,404	6,370,986
未払消費税等	1,133,332	406,770
未払法人税等	2,455,291	333,009
賞与引当金	2,100,323	1,801,492
資産除去債務	7,192	13,940
その他の流動負債	40,396	73,657
流動負債合計	18,918,667	14,598,465
固定負債		
リース債務	4,525	1,960
繰延税金負債	1,279,409	550,493
退職給付引当金	5,084,506	5,027,832
その他の固定負債	4,620	-
固定負債合計	6,373,062	5,580,287
負債合計	25,291,730	20,178,752
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金		
資本準備金	8,628,984	8,628,984

その他資本剰余金	73,466,962	73,466,962
資本剰余金合計	82,095,946	82,095,946
利益剰余金		
利益準備金	284,245	284,245
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	3,834,794	3,391,568
利益剰余金合計	4,119,040	3,675,814
株主資本計	88,214,986	87,771,760
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	297,138	142,558
評価・換算差額等合計	297,138	142,558
純資産合計	88,512,124	87,629,201
負債・純資産合計	113,803,855	107,807,953

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度		当事業年度	
	(自	2021年4月1日	(自	2022年4月1日
	至	2022年3月31日)	至	2023年3月31日)
営業収益				
委託者報酬		66,139,024		61,471,271
運用受託報酬		9,652,634		8,978,419
投資助言報酬		1,256,334		1,273,386
その他営業収益				
サービス支 hands 手数料		199,046		208,222
その他		32,936		22,995
営業収益計		77,279,976		71,954,296
営業費用				
支払手数料		30,522,133		28,036,456
広告宣伝費		330,161		294,588
調査費				
調査費		3,196,921		3,749,357
委託調査費		12,192,048		11,455,987
営業雑経費				
通信費		67,600		61,068
印刷費		494,834		452,951
協会費		34,433		38,701
諸会費		30,488		33,447
情報機器関連費		4,767,504		5,067,617
販売促進費		31,930		29,621
その他		181,301		197,696
営業費用合計		51,849,358		49,417,495
一般管理費				
給料				
役員報酬		263,893		219,872
給料・手当		8,664,828		7,807,797
賞与		991,916		1,042,472
賞与引当金繰入額		2,100,323		1,798,492
交際費		12,301		27,713
寄付金		29,273		25,518
事務委託費		1,422,189		1,727,189
旅費交通費		16,863		99,733
租税公課		476,729		352,030

不動産賃借料	1,289,256	1,268,303
退職給付費用	632,559	624,551
固定資産減価償却費	3,133,951	3,247,869
のれん償却費	304,540	304,540
諸経費	256,994	200,758
一般管理費合計	19,595,622	18,746,845
営業利益	5,834,995	3,789,956

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業外収益		
受取配当金	7,666	1,755
受取利息	1,836	1,373
時効成立分配金・償還金	43,406	521
原稿・講演料	2,587	2,281
投資有価証券償還益	383,608	119,033
投資有価証券売却益	911,268	25,848
為替差益	4,673	5,816
雑収入	81,640	91,814
営業外収益合計	1,436,686	248,443
営業外費用		
金銭の信託運用損	-	454,339
投資有価証券償還損	146,219	83,598
投資有価証券売却損	81,384	152,691
雑損失	2,866	-
営業外費用合計	230,470	690,629
経常利益	7,041,212	3,347,770
特別損失		
固定資産除却損	1 83,651	13,203
システム統合関連費用	2 375,636	-
早期退職費用	3 260,075	126,832
支払補償費	4 -	30,075
その他特別損失	67,000	-
特別損失合計	786,362	170,111
税引前当期純利益	6,254,849	3,177,659
法人税、住民税及び事業税	3,101,482	1,622,064
法人税等調整額	965,673	541,433
法人税等合計	2,135,809	1,080,631
当期純利益	4,119,040	2,097,028

(3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本	
	資本剰余金	利益剰余金

	資本金	資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		
						配当準備 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金
当期首残高	2,000,000	8,628,984	81,927,000	90,555,984	284,245	60,000	1,476,959	10,281,242
当期変動額								
剰余金の配当								
欠損填補			8,460,037	8,460,037				8,460,037
当期純利益								4,119,040
任意積立金の 取崩						60,000	1,476,959	1,536,959
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）								
当期変動額合計	-	-	8,460,037	8,460,037	-	60,000	1,476,959	14,116,037
当期末残高	2,000,000	8,628,984	73,466,962	82,095,946	284,245	-	-	3,834,794

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	8,460,037	84,095,946	949,365	949,365	85,045,311
当期変動額					
剰余金の配当					
欠損填補	8,460,037	-			-
当期純利益	4,119,040	4,119,040			4,119,040
任意積立金の取崩	-	-			-
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）			652,227	652,227	652,227
当期変動額合計	12,579,078	4,119,040	652,227	652,227	3,466,812
当期末残高	4,119,040	88,214,986	297,138	297,138	88,512,124

当事業年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金
当期首残高	2,000,000	8,628,984	73,466,962	82,095,946	284,245	3,834,794
当期変動額						
剰余金の配当						2,540,254
当期純利益						2,097,028
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）						
当期変動額合計	-	-	-	-	-	443,225
当期末残高	2,000,000	8,628,984	73,466,962	82,095,946	284,245	3,391,568

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	4,119,040	88,214,986	297,138	297,138	88,512,124
当期変動額					
剰余金の配当	2,540,254	2,540,254			2,540,254
当期純利益	2,097,028	2,097,028			2,097,028
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）			439,697	439,697	439,697
当期変動額合計	443,225	443,225	439,697	439,697	882,923
当期末残高	3,675,814	87,771,760	142,558	142,558	87,629,201

[注記事項]

(重要な会計方針)

1. 重要な資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式
移動平均法による原価法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外

決算日の市場価格等に基づく時価法

（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

(2) 金銭の信託

運用目的の金銭の信託：時価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。但し、建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	8～50年
器具備品	4～15年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、主な償却年数は次のとおりであります。

のれん	14年
顧客関連資産	6～19年
ソフトウェア（自社利用分）	5年

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、将来の支給見込額のうち、当事業年度の負担額を計上しております。

(3)退職給付引当金

従業員の退職金支給に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時において一時に費用処理しております。

数理計算上の差異については、その発生時において一時に費用処理しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点は以下のとおりであります。

(1)委託者報酬

委託者報酬は、投資信託の信託約款に基づき日々の純資産額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を受け取ります。当該報酬は投資信託の運用期間にわたり収益として認識しております。

(2)運用受託報酬

運用受託報酬は、対象顧客との投資一任契約に基づき、主に契約期間内の月末純資産平均価額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を受け取ります。当該報酬は対象口座の運用期間にわたり収益として認識しております。

(3)投資助言報酬

投資助言報酬は、対象顧客との投資助言契約に基づき、主に契約期間内の月末純資産平均価額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を受け取ります。当該報酬は対象口座の助言期間にわたり収益として認識しております。

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用しております。これによる当事業年度の財務諸表に与える影響はありません。なお、時価算定会計基準適用指針27-3項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度に係る「金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項」注記については記載していません。

(貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
建物	210,548千円	301,463千円
器具備品	1,309,352千円	1,499,284千円
リース資産	6,073千円	7,493千円

2 当座借越契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行1行と当座借越契約を締結しております。当座借越契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
当座借越極度額の総額	10,000,000千円	10,000,000千円
借入実行残高	- 千円	- 千円
差引額	10,000,000千円	10,000,000千円

3 保証債務

当社は、子会社であるSumitomo Mitsui DS Asset Management (USA) Inc.における賃貸借契約に係る賃借料に対し、2023年6月までの賃借料総額の支払保証を行っております。

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
Sumitomo Mitsui DS Asset Management (USA) Inc.	57,356千円	12,514千円

(損益計算書関係)

1 固定資産除却損

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
建物	- 千円	2,482千円
器具備品	0千円	4,273千円
リース資産	- 千円	532千円
ソフトウェア	83,651千円	5,915千円

2 システム統合関連費用

社内システム統合に伴うものであり、主にデータの移行費用などであります。

3 早期退職費用

早期希望退職の募集等の実施に関連して発生する費用であります。

4 支払補償費

受益者や販売会社に生じた損失の補償に伴い発生する費用であります。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1. 発行済株式数に関する事項

	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	33,870,060株	-	-	33,870,060株

2. 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生が翌事業年度になるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年6月28日 定時株主総会	普通株式	2,540,254	75.00	2022年 3月31日	2022年 6月29日

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1. 発行済株式数に関する事項

	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	33,870,060株	-	-	33,870,060株

2. 剰余金の配当に関する事項

配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年6月28日 定時株主総会	普通株式	2,540,254	75.00	2022年 3月31日	2022年 6月29日

基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生が翌事業年度になるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	一株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2023年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,591,892	47.00	2023年 3月31日	2023年 6月29日

(リース取引関係)

オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
1年以内	1,166,952	1,161,545
1年超	2,323,090	1,161,545
合計	3,490,042	2,323,090

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融サービス事業を行っており、当社が設定する投資信託の事業推進等を目的として、直接または特定金外信託を通じて当該投資信託を保有しております。特定金外信託を通じ行っているデリバティブ取引については、保有する投資信託にかかる将来の為替及び価格の変動によるリスクの軽減を目的としているため、投資信託保有残高の範囲内で行うこととし、投機目的のためのデリバティブ取引は行わない方針であります。

なお、資金運用については、短期的で安全性の高い金融資産に限定し、財務体質の健全性、安全性、流動性の確保を第一とし、顧客利益に反しない運用を行っています。

また、資金調達は行っていません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収運用受託報酬及び未収投資助言報酬は、顧客の信用リスクに晒されています。未収委託者報酬は、信託財産中から支弁されるものであり、信託財産については受託者である信託銀行において分別管理されているため、リスクは僅少となっています。

金銭の信託及び投資有価証券については、主に事業推進目的のために保有する当社が設定する投資信託等であり、市場価格の変動リスク及び発行体の信用リスクに晒されています。関係会社株式については、主に全額出資の子会社の株式であり、発行体の信用リスクに晒されています。

営業債務である未払手数料は、すべて1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスクの管理

当社は、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、営業債権について取引先毎の期日管理及び残高管理を行うとともに、その状況について取締役会に報告しています。

金銭の信託、投資有価証券及び子会社株式は発行体の信用リスクについて、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、定期的に管理を行い、その状況について取締役会に報告しています。

市場リスクの管理

金銭の信託及び投資有価証券については、自己勘定資産の運用・管理に関する規程に従い、各所管部においては所管する有価証券について管理を、経営企画部においては総合的なリスク管理を行い、定期的に時価を把握しています。また、資産の自己査定及び償却・引当規程に従い、その状況について取締役会に報告しています。

なお、事業推進目的のために保有する当社が設定する投資信託等については、純資産額に対する保有制限を設けており、また、自社設定投信等の取得・処分に関する規則に従い、定期的に取締役会において報告し、投資家の資金性格、金額、および投資家数等の状況から検討した結果、目的が達成されたと判断した場合には速やかに処分することとしています。

また、特定金外信託を通じ保有している投資信託につきましては、市場価格の変動リスクについて為替予約、株価指数先物、債券先物、スワップ取引などのデリバティブ取引により一部リスクヘッジしております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

当事業年度における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のないものは、次表には含まれておりません（（注1）参照）。また、現金及び預金、顧客分別金信託、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、未収投資助言報酬、顧客からの預り金、未払金は、短期間で決済されるため時価が帳簿価格に近似することから、注記を省略しております。

前事業年度（2022年3月31日）

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)金銭の信託	-	-	-
(2)投資有価証券 その他有価証券	14,172,545	14,172,545	-
資産計	14,172,545	14,172,545	-

当事業年度（2023年3月31日）

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)金銭の信託	12,645,575	12,645,575	-
(2)投資有価証券 その他有価証券	9,182,466	9,182,466	-
資産計	21,828,042	21,828,042	-

(注1)市場価格のない金融商品の貸借対照表計上額

（単位：千円）

区分	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
其他有価証券 非上場株式	39,809	39,809
合計	39,809	39,809
子会社株式 非上場株式	11,246,398	11,850,598
合計	11,246,398	11,850,598

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。なお、時価算定会計基準適用指針27-3項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度に係る「金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項」については記載しておりません。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価で貸借対照表に計上している金融商品

（単位：千円）

区分	時価			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
(1) 金銭の信託	-	12,645,575	-	12,645,575
(2) 投資有価証券 其他有価証券	-	9,182,466	-	9,182,466
資産計	-	21,828,042	-	21,828,042

時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

(1) 金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産（コールローン・委託証拠金等）で構成されております。信託財産を構成する金融商品の時価について、投資信託は基準価額、デリバティブ取引は、取引相手先金融機関より提示された価格によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 投資有価証券 其他有価証券

投資有価証券は、市場での取引頻度が低く、活発な市場における相場価格とは認められないため、公表されている基準価額又は取引金融機関から提示された価格により評価しております。

(有価証券関係)

1. 子会社株式

前事業年度（2022年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額 関係会社株式11,246,398千円）は、市場価格がないことから、記載しておりません。

当事業年度（2023年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額 関係会社株式11,850,598千円）は、市場価格がないことから、記載しておりません。

2. 其他有価証券

前事業年度（2022年3月31日）

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
(1) 貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 投資信託等	9,299,062	8,672,725	626,337
小計	9,299,062	8,672,725	626,337
(2) 貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 投資信託等	4,873,482	5,039,817	166,335
小計	4,873,482	5,039,817	166,335

合計	14,172,545	13,712,543	460,001
----	------------	------------	---------

(注) 非上場株式等(貸借対照表計上額 39,809千円)については、市場価格がないことから、記載しておりません。

当事業年度(2023年3月31日)

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額	取得原価	差額
(1)貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 投資信託等	3,144,004	3,054,367	89,637
小計	3,144,004	3,054,367	89,637
(2)貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 投資信託等	6,038,462	6,295,278	256,815
小計	6,038,462	6,295,278	256,815
合計	9,182,466	9,349,645	167,178

(注) 非上場株式等(貸借対照表計上額 39,809千円)については、市場価格がないことから、記載しておりません。

3. 事業年度中に売却したその他有価証券

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:千円)

売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
4,082,976	911,268	81,384

(単位:千円)

償還額	償還益の合計額	償還損の合計額
7,183,410	383,608	146,219

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:千円)

売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
1,675,637	25,848	152,691

(単位:千円)

償還額	償還益の合計額	償還損の合計額
6,449,143	119,033	83,598

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。また、確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。

2. 確定給付制度

(1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(単位:千円)

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
退職給付債務の期首残高	5,258,448	5,084,506
勤務費用	454,611	429,188
利息費用	1,013	6,502
数理計算上の差異の発生額	34,553	12,781
退職給付の支払額	595,013	479,583
過去勤務費用の発生額	-	-
退職給付債務の期末残高	5,084,506	5,027,832

(2)退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

(単位:千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	5,084,506	5,027,832
未認識数理計算上の差異	-	-
未認識過去勤務費用	-	-
退職給付引当金	5,084,506	5,027,832

(3)退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
勤務費用	454,611	429,188
利息費用	1,013	6,502
数理計算上の差異の費用処理額	34,553	12,781
その他	211,487	201,641
確定給付制度に係る退職給付費用	632,559	624,551

(注) その他は、その他の関係会社等からの出向者の年金掛金負担分及び退職給付引当額相当額負担分、退職定年制度適用による割増退職金並びに確定拠出年金への拠出額であります。

(4)数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
割引率	0.130%	0.230%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度237,296千円、当事業年度241,556千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	(単位：千円)	
	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	1,556,876	1,539,522
賞与引当金	643,119	551,617
調査費	279,809	473,972
未払金	284,070	211,439
未払事業税	139,522	39,995
ソフトウェア償却	107,998	105,506
子会社株式評価損	114,876	114,876
その他有価証券評価差額金	93,946	120,350
その他	28,056	21,158
繰延税金資産小計	3,248,274	3,178,439
評価性引当額	189,102	193,662
繰延税金資産合計	3,059,171	2,984,776
繰延税金負債		
無形固定資産	4,151,648	3,504,563
資産除去債務	825	3,201
その他有価証券評価差額金	186,107	27,506
繰延税金負債合計	4,338,581	3,535,270
繰延税金資産（負債）の純額	1,279,409	550,493

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.6	3.0
のれん償却費	1.4	2.9
所得税額控除による税額控除	-	1.3

その他	0.3	1.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	34.1	34.0

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「セグメント情報等」注記に記載のとおりであります。

(セグメント情報等)

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1.セグメント情報

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融商品取引業を中心とする営業活動を展開しております。これらの営業活動は、金融その他の役務提供を伴っており、この役務提供と一体となった営業活動を基に収益を得ております。

従って、当社の事業区分は、「投資・金融サービス業」という単一の事業セグメントに属しており、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

2.関連情報

(1)製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	委託者報酬	運用受託報酬	投資助言報酬	その他	合計
外部顧客への営業収益	66,139,024	9,652,634	1,256,334	231,982	77,279,976

(2)地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(3)主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

3.報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

当社は、投資・金融サービス業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

4.報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

当社は、投資・金融サービス業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

5.報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

当事業年度(自 2022年4月1日 至2023年3月31日)

1.セグメント情報

当社は、投資運用業及び投資助言業などの金融商品取引業を中心とする営業活動を展開しております。これらの営業活動は、金融その他の役務提供を伴っており、この役務提供と一体となった営業活動を基に収益を得ております。

従って、当社の事業区分は、「投資・金融サービス業」という単一の事業セグメントに属しており、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

2.関連情報

(1)製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	委託者報酬	運用受託報酬	投資助言報酬	その他	合計
外部顧客への営業収益	61,471,271	8,978,419	1,273,386	231,218	71,954,296

(2)地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

当社は、投資・金融サービス業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

当社は、投資・金融サービス業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1) 兄弟会社等

(単位：千円)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金、出資金又は基金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社の子会社	㈱三井住友銀行	東京都千代田区	1,770,996,505	銀行業	%	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	4,727,024	未払 手数料	1,098,966
親会社の子会社	SMBC日興証券㈱	東京都千代田区	10,000,000	証券業	%	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	8,397,864	未払 手数料	1,661,614

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

投信の販売委託については、一般取引条件を基に、協議の上決定しております。

2. 親会社に関する注記

株式会社三井住友フィナンシャルグループ（東京証券取引所、名古屋証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場）

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1) 兄弟会社等

(単位：千円)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金、出資金又は基金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社の子会社	㈱三井住友銀行	東京都千代田区	1,770,996,505	銀行業	%	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	5,279,199	未払 手数料	1,265,651
親会社の子会社	SMBC日興証券㈱	東京都千代田区	10,000,000	証券業	%	投信の販売委託 役員の兼任	委託販売 手数料	7,030,381	未払 手数料	1,288,749

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

投信の販売委託については、一般取引条件を基に、協議の上決定しております。

2. 親会社に関する注記

株式会社三井住友フィナンシャルグループ（東京証券取引所、名古屋証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場）

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり純資産額	2,613.28円	2,587.21円
1株当たり当期純利益	121.61円	61.91円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当事業年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益(千円)	4,119,040	2,097,028
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	4,119,040	2,097,028
期中平均株式数(株)	33,870,060	33,870,060

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- イ 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- ロ 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- ハ 通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。) または子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。) と有価証券の売買その他の取引または店頭デリバティブ取引を行うこと。
- ニ 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- ホ 上記ハ、ニに掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

- イ 定款の変更、その他の重要事項
 - (イ) 定款の変更
該当ありません。
 - (ロ) その他の重要事項
該当ありません。
- ロ 訴訟事件その他会社に重要な影響を与えることが予想される事実
該当ありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

イ 受託会社

- (イ) 名称 三井住友信託銀行株式会社
- (ロ) 資本金の額 342,037百万円（2022年3月末現在）
- (ハ) 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

〔参考情報：再信託受託会社の概要〕

- ・ 名称 株式会社日本カストディ銀行
- ・ 資本金の額 51,000百万円（2022年3月末現在）
- ・ 事業の内容 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

ロ 販売会社

名称	資本金の額（百万円） 2022年3月末現在	事業の内容
日本生命保険相互会社	1,450,000	保険業法に基づき、生命保険業を営んでいます。

日本生命保険相互会社の資本金の額の箇所には、基金および基金償却積立金の合計額を記載しております。

2【関係業務の概要】

イ 受託会社

信託契約の受託会社であり、信託財産の保管・管理・計算等を行います。

ロ 販売会社

委託会社との間で締結された販売契約に基づき、日本における当ファンドの募集・販売の取扱い、投資信託説明書（目論見書）の提供、一部解約の実行の請求の受け付け、収益分配金、償還金の支払事務等を行います。

3【資本関係】

（持株比率5%以上を記載しています。）
該当ありません。

第3【その他】

1 目論見書の表紙から本文の前までおよび裏表紙の記載について

- (1) 「金融商品取引法第13条の規定に基づく目論見書である。」旨を記載することがあります。
- (2) 委託会社の金融商品取引業者登録番号を記載することがあります。
- (3) 委託会社のホームページのアドレスおよび他のインターネットのアドレス（これらのアドレスをコード化した図形等も含む）を記載することがあります。
- (4) 請求目論見書の入手方法および投資信託約款が請求目論見書に掲載されている旨を記載することがあります。
- (5) 目論見書の使用開始日を記載することがあります。
- (6) 投資信託の財産は受託会社において信託法に基づき分別管理されている旨を記載することがあ

ります。

- (7) 請求目論見書は投資者の請求により販売会社から交付される旨および当該請求を行った場合にはその旨の記録をしておくべきであることを記載することがあります。
 - (8) 「ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。」との趣旨を示す記載をすることがあります。
 - (9) 当ファンドのロゴおよび委託会社のロゴを記載することがあります。
 - (10) ファンドの形態および属性、申込みにかかる事項、ユニバーサルデザインフォントマークを記載することがあります。
 - (11) 写真、イラスト、図案およびキャッチコピーを採用することがあります。また、ファンドの管理番号等を記載することがあります。
- 2 目論見書は電子媒体等として使用される他、インターネット等に掲載されることがあります。
 - 3 当ファンドの投資信託約款の全文を請求目論見書に掲載することがあります。
 - 4 目論見書は、目論見書の別称として「投資信託説明書(交付目論見書)」または「投資信託説明書(請求目論見書)」と称して使用することがあります。
 - 5 評価機関等から当ファンドに対する評価を取得し、使用することがあります。
 - 6 有価証券届出書を個別に提出している複数のファンドの実質的な投資対象資産に共通性がある場合には、当該複数のファンドを一つの投資信託説明書(交付目論見書)で説明することがあります。また、有価証券届出書を個別に提出している複数のファンドにかかる投資信託説明書(交付目論見書)および投資信託説明書(請求目論見書)を一体のものとして使用することがあります。

独立監査人の監査報告書

2023年6月15日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

菅野 雅子

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

佐藤 栄裕

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三井住友DSアセットマネジメント株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第38期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友DSアセットマネジメント株式会社の2023年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2 . X B R Lデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2023年2月28日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	菅野 雅子
--------------------	-------	-------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	松井 貴志
--------------------	-------	-------

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・DCバランスファンド（安定型）の2021年12月16日から2022年12月15日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友・DCバランスファンド（安定型）の2022年12月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む。）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表

示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。 2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2023年2月28日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 菅野 雅子指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松井 貴志**監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・DCバランスファンド（安定成長型）の2021年12月16日から2022年12月15日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友・DCバランスファンド（安定成長型）の2022年12月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む。）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表

示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。 2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2023年2月28日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 菅野 雅子指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松井 貴志**監査意見**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・DCバランスファンド（成長型）の2021年12月16日から2022年12月15日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三井住友・DCバランスファンド（成長型）の2022年12月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む。）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表

示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。 2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2023年8月30日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

PwCあらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 山口 健志

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 榊原 康太

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・DCバランスファンド(安定型)の2022年12月16日から2023年6月15日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三井住友・DCバランスファンド(安定型)の2023年6月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間(2022年12月16日から2023年6月15日まで)の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の事項

ファンドの2022年12月15日をもって終了した前計算期間の中間計算期間に係る中間財務諸表及び前計算期間の財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって中間監査及び監査が実施されている。前任監査人は、当該中間財務諸表に対して2022年8月30日付けで有用な情報を表示している旨の意見を表明しており、また、当該財務諸表に対して2023年2月28日付けで無限定適正意見を表明している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する

内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2023年8月30日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

PwCあらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 山口 健志

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 榊原 康太

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)の2022年12月16日から2023年6月15日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三井住友・DCバランスファンド(安定成長型)の2023年6月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間(2022年12月16日から2023年6月15日まで)の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の事項

ファンドの2022年12月15日をもって終了した前計算期間の中間計算期間に係る中間財務諸表及び前計算期間の財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって中間監査及び監査が実施されている。前任監査人は、当該中間財務諸表に対して2022年8月30日付けで有用な情報を表示している旨の意見を表明しており、また、当該財務諸表に対して2023年2月28日付けで無限定適正意見を表明している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する

内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2023年8月30日

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

PwCあらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 山口 健志

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 榊原 康太

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三井住友・DCバランスファンド(成長型)の2022年12月16日から2023年6月15日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、三井住友・DCバランスファンド(成長型)の2023年6月15日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間(2022年12月16日から2023年6月15日まで)の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の事項

ファンドの2022年12月15日をもって終了した前計算期間の中間計算期間に係る中間財務諸表及び前計算期間の財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって中間監査及び監査が実施されている。前任監査人は、当該中間財務諸表に対して2022年8月30日付けで有用な情報を表示している旨の意見を表明しており、また、当該財務諸表に対して2023年2月28日付けで無限定適正意見を表明している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する

内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。